

SigmaSystemCenter 2.1

インストレーションガイド

－第 5 版－

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。
本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。
本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。
日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標および著作権

SigmaSystemCenter、WebSAM、NetvisorPro、iStorage、ESMPRO、EXPRESSBUILDER、および EXPRESSSCOPE エンジン は日本電気株式会社の商標および登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、SQL Server および Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は Linux Travalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
SUSE は、米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標もしくは商標です。
Red Hat は、米国 Red Hat Software, Inc. の登録商標です。
HP-UX、Ignite-UX、および HP OpenView は、米国 Hewlett-Packard 社の登録商標です。
Intel、Pentium、Xeon、Itanium は、米国 Intel 社の登録商標です。
AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

EMC、Symmetrix、CLARiX、Navisphere は EMC Corporation の登録商標です。
VMware、ESX、ESXi および VMotion は、VMware, Inc. の登録商標もしくは商標です。
Xen、Citrix、XenServer、XenCenter は、Citrix Systems, Inc. の登録商標もしくは商標です。

ORACLE は、米国 ORACLE Corporation の登録商標です。
PXE Software Copyright (C) 1997 - 2000 Intel Corporation.
Copyright (C) 2005, 2007, ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.
(C) 1992-2007 Cisco Systems Inc. All rights reserved.
Foundry Networks, FastIron, ServerIron and the 'Iron' family of marks are trademarks or registered trademarks of Foundry Networks, Inc. in the United States and other countries.
BIG-IP は米国および他の国における F5 Networks, Inc. の登録商標です。
InstallShield is a registered trademark and service mark of Macrovision Corporation and/or Macrovision Europe Ltd. in the United States and/or other countries.

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。
Apache は、Apache Software Foundation の商標です。
本製品には、Sun Microsystems 社が無償で配布している JRE (Java Runtime Environment)、および、Apache Software Foundation が無償で配布している TOMCAT を含んでいます。これらの製品については、それぞれの製品の使用許諾に同意したうえでご利用願います。著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。
TOMCAT: TOMCAT をインストールしたフォルダ¥LICENSE
JRE: JRE をインストールしたフォルダ¥LICENSE

Some icons used in this program are based on Silk Icons released by Mark James under a Creative Commons Attribution 2.5 License. Visit <http://www.famfamfam.com/lab/icons/silk/> for more details.

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。
なお、® マーク、TMマークは本書に明記しておりません。

目次

はじめに	vii
対象読者と目的	vii
本書の構成	vii
SigmaSystemCenter マニュアル体系	viii
本書の表記規則	x
1. SigmaSystemCenterのインストールの概要	3
1.1. 本書の読み方	4
1.2. SigmaSystemCenterのインストーラ	5
1.2.1. SigmaSystemCenterのインストールモード	5
1.2.2. インストーラ画面の基本構成	6
1.2.3. DPMオプション	7
1.3. SigmaSystemCenter 2.1のCD-R構成	8
2. インストールを実行する	9
2.1. インストールを始める前に	10
2.1.1. システムの構成 / 動作環境の確認	10
2.1.2. 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア	10
2.1.3. DHCPサーバの構築	13
2.1.4. Windowsファイアウォールの設定に関する注意	13
2.1.5. インストール実行前の注意	13
2.1.6. Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7にインストールする際の注意	13
2.1.7. NetvisorProと同一マシンにインストールする場合の注意	14
2.1.8. Apache Tomcatが既にインストールされている場合のインストール方法	14
2.1.9. ESMPRO/ServerManagerユーザグループ設定に関する注意	15
2.1.10. 管理サーバ for DPMのインストールに関する注意	15
2.1.11. 管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールに関する注意	16
2.1.12. Ignite-UXのインストールに関する注意	16
2.1.13. SQL Server 2005の上位エディションを使用する場合	16
2.1.14. 管理対象マシンに事前にインストールが必要なソフトウェア	17
2.2. 管理サーバコンポーネントのインストール	18
2.3. 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする	19
2.3.1. インストールを実行するには	19
2.3.2. Java 2 Runtime Environmentのインストール	24
2.3.3. Apache Tomcatのインストール	24
2.3.4. ESMPRO/ServerManagerのインストール	24
2.3.5. Webサーバ for DPMのインストール	27
2.3.6. データベース (DPMインスタンス) のインストール	28
2.3.7. 管理サーバ for DPMのインストール	28
2.3.8. SystemMonitor性能監視のインストール	30
2.3.9. SystemProvisioningのインストール	31
2.3.10. インストールを完了するには	31
2.3.11. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をインストールする	32
2.4. 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする	33
2.4.1. インストールを実行するには	33
2.5. 管理サーバコンポーネントをインストールした後に	37
2.5.1. .NET Framework 3.5 Service Pack 1をインストールした場合	37
2.5.2. ESMPRO/ServerManagerをインストールした場合	37
2.5.3. Webサーバ for DPMをインストールした場合	37

2.6.	管理対象マシンコンポーネントのインストール	38
2.7.	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面からインストールする	40
2.7.1.	インストールを実行するには	40
2.7.2.	クライアントサービス for DPMのインストール	43
2.7.3.	インストールを完了するには	43
2.8.	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面表示なしでインストールする	44
2.8.1.	インストールを実行するには	44
2.9.	Windows Server 2008 Server Core管理対象マシンへインストールする	47
2.9.1.	インストールを実行するには	47
2.10.	Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする	48
2.10.1.	クライアントサービス for DPMのインストールに向け準備する	48
2.10.2.	インストールを実行するには	48
2.11.	Linux管理対象マシンへインストールする	50
2.11.1.	クライアントサービス for DPMのインストールに向け準備する	50
2.11.2.	クライアントサービス for DPMをインストールするには	51
2.12.	HP-UX管理対象マシンへインストールする	52
3.	アップグレードインストールを実行する	53
3.1.	SigmaSystemCenter 2.1へのアップグレードインストール	54
3.2.	インストール (アップグレード) を始める前に	55
3.2.1.	動作環境の確認・準備	55
3.2.2.	アップグレードインストールを行う際の注意	55
3.2.3.	管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア	56
3.2.4.	Windowsファイアウォールの設定に関する注意	56
3.2.5.	インストール (アップグレード) 実行前の注意	56
3.2.6.	アップグレードインストール前の設定値の確認	57
3.2.7.	インストール (アップグレード) に伴いNetvisorProをインストールする際の注意	57
3.2.8.	管理サーバ for DPMをアップグレードインストールする際の注意	58
3.2.9.	SIGMABLADE controllerをサブシステム追加している場合	58
3.2.10.	Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7にインストールする際の注意	59
3.2.11.	SQL Server 2005の上位エディションを使用する場合	59
3.3.	BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1からアップグレードインストールに向け準備する	60
3.3.1.	Webサーバ for DPMをアンインストールするには	61
3.3.2.	Apache Tomcatをアンインストールするには	61
3.3.3.	SystemProvisioning Connector Frameworkをアンインストールするには	61
3.3.4.	アンインストールを完了するには	62
3.4.	SigmaSystemCenter 1.2、1.3からアップグレードインストールに向け準備する	63
3.4.1.	アンインストールを実行するには	63
3.4.2.	SystemProvisioning Web Componentsのアンインストール	64
3.4.3.	Webサーバ for DPMのアンインストール	64
3.4.4.	Apache Tomcatのアンインストール	65
3.4.5.	アンインストールを完了するには	65
3.5.	SigmaSystemCenter 2.0からアップグレードインストールに向け準備する	66
3.5.1.	アンインストールを実行するには	66
3.5.2.	Webサーバ for DPMのアンインストール	67
3.5.3.	Apache Tomcatのアンインストール	67
3.5.4.	アンインストールを完了するには	67
3.6.	管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する	68
3.6.1.	DPMのサービスを停止する	69
3.6.2.	インストール (アップグレード) を実行するには	71
3.6.3.	Java 2 Runtime Environmentのインストール	76
3.6.4.	Apache Tomcatのインストール	76
3.6.5.	ESMPRO/ServerManagerのアップグレードインストール	77
3.6.6.	Webサーバ for DPMのインストール	78
3.6.7.	データベース (DPMインスタンス) のアップグレードインストール	79

3.6.8.管理サーバ for DPMのアップグレードインストール	80
3.6.9.SystemMonitor性能監視のアップグレードインストール	82
3.6.10.SystemProvisioningのアップグレードインストール	83
3.6.11.インストール (アップグレード) を完了するには	84
3.6.12.管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする	84
3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に	85
3.7.1. .NET Framework 3.5 Service Pack 1をインストールした場合	85
3.7.2.SigmaSystemCenter 1.3以前のSystemMonitor 障害監視がインストールされている場合	85
3.7.3.管理サーバ for DPMをアップグレードインストールした場合	86
3.7.4.ESMPRO/ServerManagerをアップグレードインストールした場合	86
3.7.5.Webサーバ for DPMをインストールした場合	86
3.7.6.Apache Tomcatをインストールした場合	87
3.7.7.SystemMonitor性能監視をアップグレードインストールした場合	87
3.7.8.SystemProvisioningをアップグレードインストールした場合	88
3.7.9.SigmaSystemCenter 1.3以前のバージョンからアップグレードした場合	91
3.7.10.SigmaSystemCenter 2.0からアップグレードした場合	93
3.8. 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする	94
3.9. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする	96
3.9.1.アップグレードインストールを実行するには	96
3.9.2.クライアントサービス for DPMのアップグレードインストール	99
3.9.3.アップグレードインストールを完了するには	99
3.10. Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする	100
3.11. Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする	101
3.12. HP-UX管理対象マシンへアップグレードインストールする	102
3.13. クライアントサービス for DPMを自動でアップグレードする	103
4. アンインストールを実行する	105
4.1. 管理サーバコンポーネントのアンインストール	106
4.2. アンインストールを始める前に	107
4.2.1.アンインストール実行前の注意	107
4.2.2.管理サーバ for DPM、およびWebサーバ for DPMをアンインストールする際の注意	107
4.2.3.Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7からアンインストールする際の注意	107
4.3. 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする	108
4.3.1.アンインストールを実行するには	108
4.3.2.SystemProvisioningのアンインストール	110
4.3.3.SystemMonitor性能監視のアンインストール	110
4.3.4.管理サーバ for DPMのアンインストール	110
4.3.5.データベース (DPMインスタンス) のアンインストール	111
4.3.6.Webサーバ for DPMのアンインストール	111
4.3.7.ESMPRO/ServerManagerのアンインストール	111
4.3.8.Apache Tomcatのアンインストール	113
4.3.9.Java 2 Runtime Environmentのアンインストール	113
4.3.10.アンインストールを完了するには	113
4.3.11.管理サーバ for DPM (HP-UX) をアンインストールする	113
4.4. 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする	114
4.4.1.アンインストールを実行するには	114
4.5. 管理サーバコンポーネントをアンインストールした後に	116
4.5.1.SQL Server 2005 Express Editionのアンインストール方法	116
4.5.2.管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールした場合	117
4.5.3.SystemProvisioningをプログラムの追加と削除からアンインストールした場合	117
4.5.4.SystemMonitor性能監視をアンインストールした場合	118
4.6. 管理対象マシンコンポーネントのアンインストール	119
4.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする	120
4.7.1.アンインストールを実行するには	120
4.7.2.クライアントサービス for DPMのアンインストール	121
4.7.3.アンインストールを完了するには	121

4.8.	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストールする	122
4.8.1.	アンインストールを実行するには.....	122
4.9.	Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする	124
4.9.1.	アンインストールを実行するには.....	124
4.10.	Linux管理対象マシンから個別にアンインストールする.....	125
4.10.1.	クライアントサービス for DPMをアンインストールする	125
4.11.	HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする	126
5.	トラブルシューティング	127
5.1.	インストール / アップグレード時のエラー	128
5.1.1.	アップグレードインストール時に構成情報データベースのコンバートに失敗する	128
5.1.2.	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへのインストール時のエラー	129
5.1.3.	SIGMABLADE controllerが登録された状態でのアップグレード時のエラー	130
5.1.4.	SystemProvisioningのブラウザ画面表示が不正となる	130
5.1.5.	Windows Server 2008管理サーバにインストール後、Webコンソールが起動できない	131
付録 A	ネットワークとプロトコル	135
	管理サーバ	135
	管理対象マシン	138
	その他.....	139
付録 B	ターミナルサービスでの操作	141
付録 C	データベースのアップグレード手順	147
	SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視のデータベースをアップグレードするには.....	147
	DeploymentManagerのデータベースをアップグレードするには.....	151
付録 D	Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3適用手順	155
付録 E	改版履歴	163

はじめに

対象読者と目的

「SigmaSystemCenter インストールガイド」は、SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールを行うシステム管理者を対象読者とし、それぞれの方法について説明します。

本書の構成

セクション I SigmaSystemCenterのインストール

- 1 「SigmaSystemCenterのインストールの概要」: インストールの進め方、インストーラについて説明します。
- 2 「インストールを実行する」: インストール手順を説明します。
- 3 「アップグレードインストールを実行する」: 前のバージョンからのアップグレードインストール手順を説明します。
- 4 「アンインストールを実行する」: アンインストール手順を説明します。
- 5 「トラブルシューティング」: SigmaSystemCenterのインストール、アップグレードインストール、およびアンインストール中に問題が起こった際の対処方法について説明します。

付録

- 付録 A 「ネットワークとプロトコル」
- 付録 B 「ターミナルサービスでの操作」
- 付録 C 「データベースのアップグレード手順」
- 付録 D 「Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3 適用手順」
- 付録 E 「改版履歴」

SigmaSystemCenter マニュアル体系

SigmaSystemCenter のマニュアルは、各製品およびコンポーネントごとに以下のように構成されています。

また、本書内では、各マニュアルは「本書での呼び方」の名称で記載します。

製品 / コンポーネント名	マニュアル名	本書での呼び方
SigmaSystemCenter 2.1	SigmaSystemCenter 2.1 ファーストステップガイド	SigmaSystemCenter ファーストステップガイド
	SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド	SigmaSystemCenter インストレーションガイド
	SigmaSystemCenter 2.1 コンフィグレーションガイド	SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド
	SigmaSystemCenter 2.1 リファレンスガイド	SigmaSystemCenter リファレンスガイド
ESMPRO/ServerManager 4.5	ESMPRO/ServerManager Ver.4.5 インストレーションガイド	ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド
	ESMPRO サーバ管理ガイド	ESMPROサーバ管理ガイド
WebSAM DeploymentManager 5.22	WebSAM DeploymentManager Ver5.2 ユーザーズガイド導入編	DeploymentManager ユーザーズガイド導入編
	WebSAM DeploymentManager Ver5.2 ユーザーズガイド基本操作編	DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編
	WebSAM DeploymentManager Ver5.2 ユーザーズガイド応用編	DeploymentManager ユーザーズガイド応用編
	WebSAM DeploymentManager Ver5.2 ユーザーズガイドPackageDescriber編	DeploymentManager ユーザーズガイド PackageDescriber編
	パッケージビルダマニュアル	DeploymentManager パッケージビルダマニュアル
WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) R2.1	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド (導入編)	DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド導入編
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド (機能編)	DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド機能編
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) 操作マニュアル	DeploymentManager (HP-UX版) 操作マニュアル
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド エラーメッセージ集	DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド エラーメッセージ集
	WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) R2.1 リリースメモ	DeploymentManager (HP-UX版) リリースメモ
SystemMonitor性能監視 4.1.1	SystemMonitor性能監視 4.1.1 ユーザーズガイド	SystemMonitor性能監視 ユーザーズガイド
	SigmaSystemCenter 仮想マシンサーバ (ESX)プロビジョニングソリューションガイド	SigmaSystemCenter 仮想マシンサーバプロビジョニングソリューションガイド

製品 / コンポーネント名	マニュアル名	本書での呼び方
	SigmaSystemCenter sscコマンドリファレンス	sscコマンドリファレンス
	SigmaSystemCenter 2.1 クラスタ構築資料	SigmaSystemCenter クラスタ構築資料
	SigmaSystemCenter 2.1 クラスタ構築手順 およびサンプルスクリプト	SigmaSystemCenterクラスタ構築 手順およびサンプルスクリプト
	SigmaSystemCenter 2.1 ネットワークアダプ タ冗長化構築手順	SigmaSystemCenterネットワーク アダプタ冗長化構築資料

関連情報: SigmaSystemCenter のすべての最新のマニュアルは、以下の URL から入手できます。

<http://www.nec.co.jp/sigmasystemcenter/download.html>

SigmaSystemCenter の製品概要、インストール、設定、運用、保守に関する情報は、以下の4つのマニュアルに含みます。各マニュアルの役割を以下に示します。

「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」

SigmaSystemCenter を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、システム設計方法、動作環境などについて記載します。

「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」

SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールを行うシステム管理者を対象読者とし、それぞれの方法について説明します。

「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」

インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、インストール後の設定から運用に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。また、保守の操作についても説明します。

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」

SigmaSystemCenter の管理者を対象読者とし、SigmaSystemCenter の機能説明、操作画面一覧、操作方法、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報などを記載します。「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」および「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」を補完する役割を持ちます。

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項、および関連情報を以下のように表記します。

注: は、機能、操作、および設定に関する注意事項、警告事項、および補足事項です。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本章では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角かっこ	画面に表示される項目 (テキストボックス、チェックボックス、タブなど) の前後	[マシン名] テキストボックスにマシン名を入力します。 [すべて] チェックボックス
「 」 かぎかっこ	画面名 (ダイアログボックス、ウィンドウなど)、他のマニュアル名の前後	「設定」ウィンドウ 「インストールガイド」
コマンドライン中の [] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	add [/a] Gr1
モノスペースフォント (courier new)	コマンドライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)	以下のコマンドを実行してください。 replace Gr1
モノスペースフォント斜体 (courier new)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目 値の中にスペースが含まれる場合は " " (二重引用符) で値を囲ってください。	add <i>GroupName</i> InstallPath=" <i>Install Path</i> "

セクション I SigmaSystemCenter のインストール操作

このセクションでは、SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、アンインストール、および操作中のトラブルへの対処方法について記載します。

- 1 SigmaSystemCenterのインストールの概要
- 2 インストールを実行する
- 3 アップグレードインストールを実行する
- 4 アンインストールを実行する
- 5 トラブルシューティング

1. SigmaSystemCenter のインストールの概要

本章では、本書の読み方および SigmaSystemCenter のインストール、アンインストールを行うインストーラについて説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

•	1.1	本書の読み方	4
•	1.2	SigmaSystemCenterのインストーラ	5
•	1.3	SigmaSystemCenter 2.1 のCD-R構成	8

1.1. 本書の読み方

本書では、SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、アンインストールの手順を説明します。

SigmaSystemCenter 2.1 をインストールする場合は、「2 インストールを実行する」を参照し、インストールしてください。

ご利用のシステムに既にSigmaSystemCenter 2.0 以前のバージョン、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenterのいずれかをインストール済みで、SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードインストールする場合は、「3 アップグレードインストールを実行する」を参照し、アップグレードインストールしてください。

SigmaSystemCenter 2.1 をアンインストールする場合は、「4 アンインストールを実行する」を参照し、アンインストールしてください。

1.2. SigmaSystemCenter のインストーラ

SigmaSystemCenter は、SigmaSystemCenter のインストーラによりインストール、アンインストールができます。

インストーラは、SigmaSystemCenter の管理サーバを対象にした管理サーバコンポーネントのインストール / アンインストール、および SigmaSystemCenter の管理対象マシンを対象にした管理対象マシンコンポーネントのインストール / アンインストールができます。

注: UNC パス、もしくはネットワークドライブを割り当てたドライブ上で、インストーラは実行できません。CD-R ドライブ上のインストーラを実行してください。

1.2.1. SigmaSystemCenterのインストールモード

SigmaSystemCenter のインストーラは、2 つのインストールモードを兼ね備えています。

◆ 個別インストール / アンインストール

インストール / アンインストールしたいコンポーネントを選択し、インストール / アンインストールできます。

◆ 一括インストール / アンインストール

一括インストールは、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から、インストール先の情報や Windows ファイアウォールなどを指定して、その他の設定は既定値のまま、CD-R に収録されているすべてのコンポーネントをインストールする機能です。

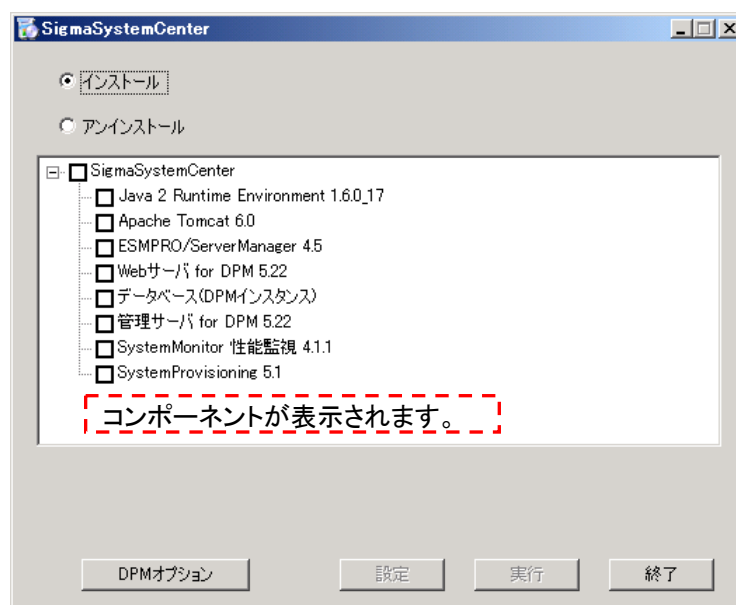
一括アンインストールは、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から、インストールオプションのみを指定してアンインストールする機能です。

注: 一部一括でアンインストールできないコンポーネントがあります。

一括インストール / アンインストールでは、インストール / アンインストール中にインストーラ画面は表示されず、ユーザからの入力はありません。

1.2.2. インストーラ画面の基本構成

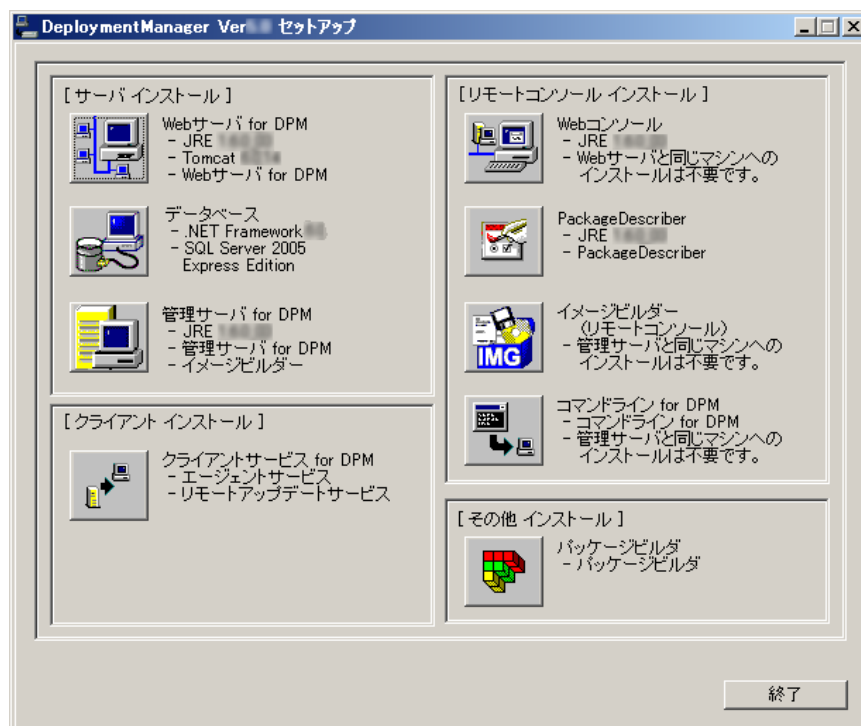
SigmaSystemCenter のインストーラの「SigmaSystemCenter」メイン画面は以下の要素で構成されています。



インストール	インストールを行います。
アンインストール	アンインストールを行います。
SigmaSystemCenter	この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。
コンポーネント名	インストール / アンインストールするコンポーネント名が表示されます。
[DPM オプション]	「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。 管理サーバコンポーネントの個別インストール / アンインストールの際にのみ表示されます。
[設定]	設定画面を表示します。 インストール / アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[実行]	インストール / アンインストールを実行します。 インストール / アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[終了]	メイン画面を閉じます。

1.2.3. DPMオプション

インストーラ画面で [DPM オプション] を選択すると、「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。この画面からは、「SigmaSystemCenter」メイン画面からインストールが実行されない DPM のコンポーネントをインストールすることができます。



DPM のインストーラを開始するには、コンポーネント名の横のボタンをクリックしてください。各サブコンポーネントのインストールの詳細に関しては、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」、および「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」を参照してください。

1.3. SigmaSystemCenter 2.1 の CD-R 構成

SigmaSystemCenter のインストーラ、および各ソフトウェアコンポーネントは、次のとおり SigmaSystemCenter 2.1 CD-R に収録されています。

SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1	
ManagerSetup.exe	管理サーバコンポーネント用インストーラ
ManagerSetup.ini	管理サーバコンポーネント用設定ファイル
AgentSetup.exe	管理対象マシンコンポーネント用インストーラ
AgentSetup.ini	管理対象マシンコンポーネント用設定ファイル
└ ja¥	
└ dotNet Framework35 SP1¥	.NET Framework 3.5 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ
└ ja¥	.NET Framework 3.5 Service Pack 1 日本語 Language Pack x86用
└ SQLEXPRESS¥	SQL Server 2005 Express Edition SP3
└ EMclient¥	Oracle連携オプション
└ DPM¥	DeploymentManager, Java 2 Runtime Environment, Apache Tomcat
└ SMM¥	ESMPRO/ServerManager
└ RMP¥	SystemMonitor性能監視
└ PVM¥	SystemProvisioning
└ OpsMgrConnector¥	System Center Operations Manager 2007 コネクタ

Enterprise Edition を購入された場合にのみ、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 (下記)、および SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller CD-R が送付されます。

SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2	
└ dpm_hpux¥	DeploymentManager (HP-UX)
└ client¥	DeploymentManager (HP-UX) クライアント
└ command¥	DeploymentManager (HP-UX) コマンドライン
└ └ java¥	Java 2 Runtime Environment
└ └ manual¥	DeploymentManager (HP-UX) マニュアル
└ └ n2l2¥	n2l2ライブラリ
└ └ server¥	DeploymentManager (HP-UX) 管理サーバ
└ └ └ Tomcat¥	Apache Tomcat

2. インストールを実行する

本章では、SigmaSystemCenter のインストール手順について説明します。管理サーバコンポーネントと管理対象マシンコンポーネントを、個別でインストールする場合と一括でインストールする場合について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• 2.1	インストールを始める前に.....	10
• 2.2	管理サーバコンポーネントのインストール.....	18
• 2.3	管理サーバコンポーネントを個別にインストールする.....	19
• 2.4	管理サーバコンポーネントを一括でインストールする.....	33
• 2.5	管理サーバコンポーネントをインストールした後に.....	37
• 2.6	管理対象マシンコンポーネントのインストール.....	38
• 2.7	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面からインストールする.....	40
• 2.8	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面表示なしでインストールする.....	44
• 2.9	Windows Server 2008 Server Core管理対象マシンへインストールする.....	47
• 2.10	Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする.....	48
• 2.11	Linux管理対象マシンへインストールする.....	50
• 2.12	HP-UX管理対象マシンへインストールする.....	52

2.1. インストールを始める前に

SigmaSystemCenter 2.1 のインストールを始める前に、本節をよく読んでください。

2.1.1. システムの構成 / 動作環境の確認

SigmaSystemCenter は、インストールする機能を、管理サーバ、管理対象マシンの構成に基づき、インストールする必要があります。機能に関する情報や、システム構成に関しては、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「2.1. SigmaSystemCenter のシステム構成の検討」を参照してください。

また、インストールを始める前に、必ず最新の動作環境がご利用の環境に適しているか確認する必要があります。最新の動作環境に関しては、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「3. 動作環境」を参照してください。

2.1.2. 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア

SigmaSystemCenter を管理サーバにインストールする前に、ご利用の環境に応じて、別途インストールが必要なソフトウェアがあります。

管理サーバには、以下のソフトウェアが必要です。

- ◆ .NET Framework 3.5 Service Pack 1
- ◆ インターネットインフォメーションサービス (IIS)
- ◆ ASP.NET v2.0

ご利用の環境に応じて、下記のインストール手順に従ってインストールしてください。

- ◆ Windows Server 2003 の場合

注:

- ・ .NET Framework 3.5 Service Pack 1 は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストールされるため、別途インストールは不要です。
 - ・ IIS がインストールされている環境に .NET Framework 2.0 Service Pack 2 をインストールした場合、ASP.NET v2.0 は自動でインストールされるため、別途インストールは不要です。 .NET Framework 3.5 Service Pack 1 がインストールされる際に、自動で .NET Framework 2.0 Service Pack 2 もインストールされます。
 - ・ ASP.NET v2.0 は、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールした後インストールする必要があります。
-

〈インターネットインフォメーションサービス (IIS) のインストール手順〉

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] – [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [Windows コンポーネントの追加と削除(A)] をクリックします。
3. 「Windows コンポーネント ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。[コンポーネント] リストボックスから [アプリケーション サーバー] をクリックします。
4. [詳細] をクリックします。
5. 「アプリケーション サーバー」ダイアログボックスが表示されます。
6. [インターネット インフォメーション サービス (IIS)] をクリックします。
7. 「インターネット インフォメーション サービス (IIS)」ダイアログボックスが表示されます。[WWW (World Wide Web) サービス]、[インターネット インフォメーション サービス マネージャ]、および [共通コンポーネント] チェックボックスがオンになっていることを確認し、「Windows コンポーネント ウィザード」ダイアログボックスに戻るまで、[OK] をクリックします。
8. [次へ] をクリックします。インターネット インフォメーション サービス (IIS) のインストールが開始します。

注: Windows のインストール CD の挿入を要求される場合があります。その場合、表示される画面の指示に従ってください。

9. インストール完了後、[Windows コンポーネント ウィザード] を終了します。

〈ASP.NET v2.0 のインストール手順〉

注: ご利用の環境に、既に Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 2 以降がインストールされている場合のみ実行してください (.NET Framework 2.0 Service Pack 2 以降がインストールされていない場合は、SigmaSystemCenter から .NET Framework 2.0 SP 2 がインストールされる際に自動で ASP.NET v2.0 もインストールされるため、別途インストールは、必要ありません)。.NET Framework 2.0 Service Pack 2 以降がインストールされているかどうかは、以下の手順で確認してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] – [プログラムの追加と削除] を選択します。
 2. 「プログラムの追加と削除」画面で、Microsoft .NET Framework 2.0 Service Pack 2 以降がインストールされているかを確認します。
-

1. [スタート] メニューから [プログラム] – [管理ツール] – [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を起動します。

2. 「インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ」画面が表示されます。左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] が表示されていることを確認します。

[ASP.NET v2.0.50727] が表示されていない場合は以下のコマンドを実行してください。ASP.NET v2.0.50727 がインストールされます。

```
%SystemRoot%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727\aspnet_regiis.exe -r
```

◆ Windows Server 2008 の場合

〈インターネットインフォメーションサービス (IIS)、および ASP.NET v2.0 のインストール手順〉

1. [サーバー マネージャ] を起動します。
2. 左ペインの [役割] を右クリックし、[役割の追加] を選択します。
3. 「役割の追加」ウィザードが表示されます。
4. 左ペインの [サーバーの役割] をクリックします。
5. [Web サーバー (IIS)] チェックボックスをオンにして、[次へ(N)]をクリックします。
6. 「Web サーバー (IIS)」画面で [次へ(N)] をクリックします。
7. 「役割サービスの選択」画面で、[静的なコンテンツ] チェックボックス、[ASP.NET] チェックボックス、[IIS 管理コンソール] チェックボックス、および [IIS 6 メタベース互換] チェックボックスをオンにして、[次へ(N)] をクリックします。
8. 「インストール オプションの確認」画面で [インストール(I)] をクリックします。インストールが開始されます。
9. 「インストールの結果」画面で [閉じる(O)] をクリックします。

注: 既に「Web サーバー (IIS)」がインストールされている場合は、「Web サーバー (IIS)」の[役割サービス] で、[静的なコンテンツ]、[ASP.NET]、[IIS 管理コンソール]、および [IIS 6 メタベース互換] のすべてがインストール済みとなっていることを確認してください。1 つでもインストールされていない場合は、[役割サービスの追加] をクリックして、[静的なコンテンツ]、[ASP.NET]、[IIS 管理コンソール]、および [IIS 6 メタベース互換] のインストールを実施してください。

ご利用の環境が Windows Server 2008 R2 の場合は、以下の手順を実行してください。

注: Windows Server 2008 R2 でない場合は、.NET Framework 3.5 Service Pack 1 は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストールされるため、別途インストールは不要です。

〈.NET Framework 3.5.1 のインストール手順〉

1. [サーバー マネージャ] を起動します。
2. 左ペインの [機能] を右クリックし、[機能の追加] を選択します。
3. 「機能の選択」ウィザードが表示されます。[.NET Framework 3.5.1 の機能] チェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。

4. 「インストールオプションの確認」画面が表示されます。[インストール(I)] をクリックします。インストールが開始されます。
5. 「インストールの結果」画面が表示されます。[閉じる(Q)] をクリックします。

2.1.3. DHCPサーバの構築

DPMを使用する場合には、管理サーバ for DPM と同一のネットワーク内に DHCP サーバが必要です。DHCP サーバを設置しない場合、SigmaSystemCenter の一部の機能が制限となります。SigmaSystemCenter をインストールする前に DHCP サーバを準備してください。

詳細、および DHCP サーバの設定方法については、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「1.11 ネットワーク環境の設定について」を参照してください。

2.1.4. Windowsファイアウォールの設定に関する注意

- ◆ "Windows Firewall / Internet Connection Sharing (ICS)" サービスが開始状態の場合、インストーラの設定で Windows ファイアウォールの例外リストにプログラム、またはポートを追加するように指定すると、インストーラは例外リストにプログラム、またはポートを追加します。
- ◆ SigmaSystemCenterをインストールした後に、Windowsファイアウォールを使用するように変更する場合は、手動で例外リストにプログラム、またはポートを追加してください。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

2.1.5. インストール実行前の注意

SigmaSystemCenter のインストールを始める前に、必ず使用しているアプリケーション、および Web ブラウザをすべて終了してください。

2.1.6. Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7 にインストールする際の注意

Windows Vista、Windows Server 2008、もしくは Windows 7 上でインストーラを実行すると、「ユーザー アカウント制御」画面が表示される場合があります。その場合、[許可] をクリックして、続行してください。

2.1.7. NetvisorProと同一マシンにインストールする場合の注意

SigmaSystemCenter 2.1 を NetvisorPro 4.2、または NetvisorPro V 2.0, 3.0 と同一マシンにインストールし、NetvisorPro のデータベースとして MSDE2000 を使用する場合、先に NetvisorPro をインストールし、その後 SigmaSystemCenter 2.1 をインストールしてください。

NetvisorPro 4.2 は、データベースとして MSDE2000 を使用します。

NetvisorPro V 2.0, 3.0 は、データベースとして MSDE2000、または SQL Server 2005 を使用できます。

MSDE2000 を使用する場合、SQL Server 2005 を使用する SigmaSystemCenter 2.1 が既にインストールされていると、NetvisorPro のインストールに失敗する場合があります。

2.1.8. Apache Tomcatが既にインストールされている場合のインストール方法

既に Apache Tomcat がインストールされている場合は、インストール済みの Apache Tomcat を使用するため、Web サーバ for DPM を「SigmaSystemCenter」メイン画面からインストールできません。以下の手順に従ってインストールを実行してください。

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。
インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。
[DPM オプション] をクリックします。
4. 「1.2.3 DPM オプション」内の「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。
5. [Web サーバ for DPM] アイコンをクリックします。
6. 「インストール方法の選択」ダイアログボックスが表示されます。[カスタムインストール] を選択し、[JRE]、および [Tomcat] チェックボックスをオフにします。
7. [OK] をクリックし、Web サーバ for DPM のインストールを開始します。

関連情報: DPM オプションからの Web サーバ for DPM のインストールについては、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「2.1.2 Web サーバ for DPM のカスタムインストール」を参照してください。

8. Webサーバ for DPMのインストール完了後、「SigmaSystemCenter」メイン画面から Webサーバ for DPM以外の管理サーバコンポーネントをインストールしてください。管理サーバコンポーネントのインストールについては、「2.2 管理サーバコンポーネントのインストール」を参照してください。

2.1.9. ESMPRO/ServerManagerユーザグループ設定に関する注意

セキュリティ上の理由から、ESMPRO/ServerManagerを使用するユーザは、「ESMPRO ユーザグループ」と呼ばれるグループに属していなければなりません。

「ESMPRO ユーザグループ」は ESMPRO/ServerManager のインストール時に決定されます。既定では Administrators グループが指定されますが、任意のグループを指定することもできます。

任意のグループを指定する場合は、ESMPRO/ServerManager をインストールする前に、Windows のユーザ / グループ管理機能を使用してユーザグループを作成しておき、インストール時にそのグループを指定してください。

このセキュリティ機能をより有効にするために、ESMPRO/ServerManager は NTFS のドライブにインストールすることを推奨します。

なお、「ESMPRO ユーザグループ」をグローバルグループとして登録する場合は、同じ名前のローカルグループが存在しないようにしてください。また、バックアップドメインコントローラの場合は、必ずグローバルグループ指定するようにしてください。

2.1.10. 管理サーバ for DPMのインストールに関する注意

- ◆ DHCP サーバを使用する場合、1 つのネットワークセグメントを複数の管理サーバ for DPM で管理することはできません。

- ◆ 管理サーバ for DPM と NetvisorPro を同一マシンにインストールする場合、DPM と NetvisorPro の TFTP サービスの連携設定を行う必要があります。

連携設定を行わないと、互いの TFTP サービスが競合し、正常に動作しない場合があります。

詳細、およびインストール時の設定については、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「12. NetvisorPro を使用する際の注意事項」、および NetvisorPro のユーザーズガイドの手順を参照してください。

- ◆ 管理サーバ for DPM のインストールを行う際には、管理用 LAN とのネットワークが接続されていることを確認して行ってください。
ネットワークが接続されていない状態でインストールを行った場合は、初期設定に失敗し、管理サーバ for DPM のインストールが失敗する可能性があります。この場合、管理サーバ for DPM のインストール直前までロールバックが行われます。再度、「SigmaSystemCenter」メイン画面から管理サーバ for DPM、およびインストールが実施されていないコンポーネントのインストールを行ってください。
- ◆ 管理サーバの OS のネットワーク接続の IP アドレスは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) による自動取得ではなく、固定 IP アドレスに設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、コントロールパネルの [ネットワーク接続] から固定 IP アドレスを設定してください。

- ◆ 管理サーバ for DPM を SigmaSystemCenter 管理サーバとは別のマシンにインストールする場合、コマンドライン for DPM を SigmaSystemCenter 管理サーバにインストールする必要があります。「SigmaSystemCenter」メイン画面で [DPM オプション] をクリックすると、「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。[コマンドライン for DPM] をクリックし、画面の表示に従ってインストールを行ってください。
- ◆ その他の注意については、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「1.3 管理サーバ for DPM の設定について」、および「2.3 管理サーバ for DPM のインストール」を参照してください。

2.1.11. 管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールに関する注意

管理サーバ for DPM (HP-UX) を動作させるためには、別途 Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat が必要になります。

管理サーバ for DPM (HP-UX) を SigmaSystemCenter 管理サーバと同一マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 の SigmaSystemCenter のインストーラからインストールした Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat を使用してください。

管理サーバ for DPM (HP-UX) を SigmaSystemCenter 管理サーバと異なるマシンにインストールする場合、別途 SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 から Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat をインストールする必要があります。

2.1.12. Ignite-UXのインストールに関する注意

DPM (HP-UX 版) にて HP-UX サーバを管理するには、管理対象マシン (HP-UX) と同一ネットワークセグメント内に Ignite-UX がインストールされたサーバ (Ignite-UX サーバ) を設置する必要があります。

Ignite-UX のインストール手順については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「2.6 Ignite-UX サーバのセットアップ」を参照してください。

また、Ignite-UX サーバには、コマンドライン for DPM (HP-UX) のインストールも必要です。クライアントサービス for DPM (HP-UX) のインストール手順については、本書の「2.12 HP-UX管理対象マシンへインストールする」、および「DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド導入編」の「2.5 DeploymentManagerクライアントのセットアップ」を参照してください。

2.1.13. SQL Server 2005 の上位エディションを使用する場合

- ◆ SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioning
SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningが使用するインスタンス (既定値: SSCCMDB) にSQL Server 2005 の上位エディションを使用する場合は、SigmaSystemCenterをインストールする前にSQL Server 2005 の上位エディションのインスタンスをインストールし、SigmaSystemCenterインストーラ実行時にインスタンス名を指定することで、使用可能になります。
管理サーバコンポーネントを個別にインストールする場合は、SigmaSystemCenterインストーラの「設定」画面で "既に存在するSQL Server 2005 インスタンスを使用する" を

SigmaSystemCenter インストーレーションガイド

選択し、インスタンス名を指定してください。詳細については、「2.3.1 インストールを実行するには」を参照してください。

管理サーバコンポーネントを一括でインストールする場合は、オプション

"INSTANCENAME" にインスタンス名を指定して、SigmaSystemCenterインストーラを実行してください。詳細については、「2.4.1 インストールを実行するには」を参照してください。

◆ DeploymentManager

DeploymentManagerが使用するインスタンス (DPMDBI) に、SQL Server 2005 の上位エディションを使用する場合は、以下の 2 つの方法があります。

- DeploymentManagerを構築済みの環境で、データベース (DPMインスタンス) を SQL Server 2005 Express EditionからSQL Server 2005 の上位エディションにアップグレードする場合:
通常通りの方法でデータベース (DPMインスタンス) をインストールした後、SQL Server 2005 Express Editionを上位エディションにアップグレードしてください。詳細については、「付録 C データベースのアップグレード手順」を参照してください。SigmaSystemCenterではこちらを推奨します。
- 構築済みのSQL Server 2005 の上位エディションにデータベース (DPMインスタンス) を構築する場合:
以下の手順書を参照してください。

http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/download.html

「WebSAM DeploymentManager - SQL Server 2005 製品版へのデータベース構築手順書」の「2 SQL Server 2005 製品版へのデータベース(DPMインスタンス)の構築/設定」

2.1.14. 管理対象マシンに事前にインストールが必要なソフトウェア

Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストールするには、.NET Framework 1.1 以上がインストールされている必要があります。

2.2. 管理サーバコンポーネントのインストール

次節以降では、管理サーバコンポーネントをインストールする手順を説明します。

管理サーバコンポーネントを個別にインストールする場合は、「2.3 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする」を参照してください。

すべての管理サーバコンポーネントを一括でインストールする場合は、「2.4 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする」を参照してください。

管理サーバコンポーネントのインストール完了後に別途設定が必要な場合があります。すべてのコンポーネントのインストールが完了した後、「2.5 管理サーバコンポーネントをインストールした後に」を参照し、必要に応じて設定してください。

2.3. 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする

管理サーバへ管理サーバコンポーネントを個別にインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (ManagerSetup.exe) を起動すると、各コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

コンポーネントを個別にインストールする場合、本節を参照し、必要なコンポーネントをインストールしてください。

2.3.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe

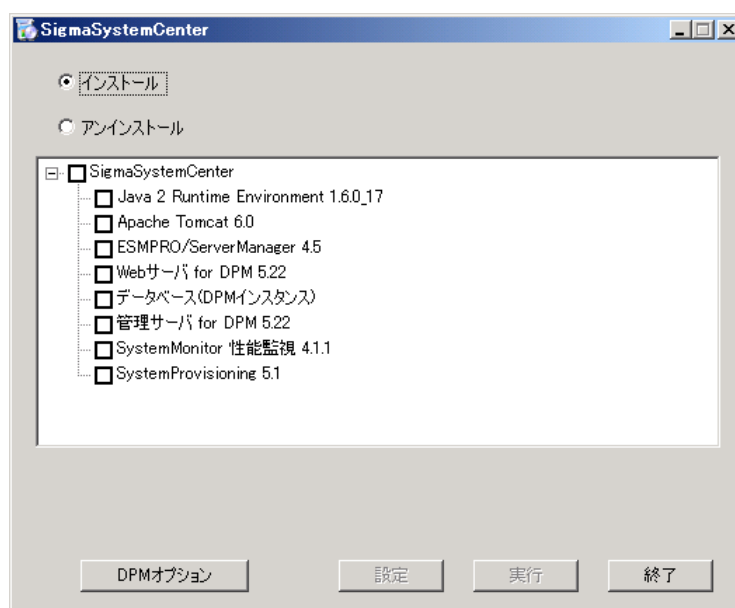
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[インストール] をクリックし、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。本バージョンのコンポーネントが既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

注: インストール先フォルダ、SQL Server 2005 Express Edition のインスタンス名、インストール先フォルダ、データベースのインストール先フォルダ、および Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。

2 インストールを実行する

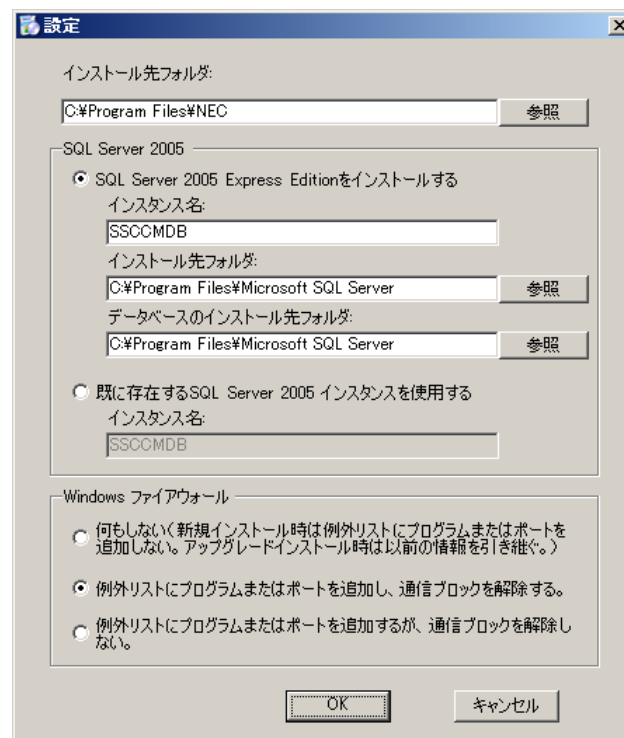


インストール	インストールを行います。
アンインストール	アンインストールを行います。
SigmaSystemCenter	この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。
Java 2 Runtime Environment	Java 2 Runtime Environmentをインストールします。
Apache Tomcat	Apache Tomcatをインストールします。 この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。
ESMPRO/ServerManager	ESMPRO/ServerManagerをインストールします。
Web サーバ for DPM	Webサーバ for DPMをインストールします。 この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment]、[Apache Tomcat] も自動的に選択されます。
データベース (DPM インスタンス)	データベース (DPMインスタンス) をインストールします。
管理サーバ for DPM	管理サーバ for DPMをインストールします。 この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。
SystemMonitor 性能監視	SystemMonitor性能監視をインストールします。
SystemProvisioning	SystemProvisioningをインストールします。 IIS 6.0以降がインストールされている場合のみ選択可能です。
[DPM オプション]	「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。
[設定]	設定画面を表示します。

	インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[実行]	インストールを実行します。 インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[終了]	メイン画面を閉じます。

4. 「設定」画面が表示されます。

各項目は、メイン画面で対象コンポーネントを選択した場合のみ、選択 / 入力可能となります。必要に応じて各項目を選択 / 入力し、[OK] をクリックします。



インストール先フォルダ	ESMPRO/ServerManager、SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningのインストール先フォルダを指定します。 80文字まで入力できます。 ただし、ESMPRO/ServerManagerをインストールする場合は、Unicode特有の文字を含むフォルダは指定しないでください。 既定値は (%ProgramFiles%\NEC) です。
SQL Server 2005	SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningが使用するSQL Server 2005の設定を行います。

2 インストールを実行する

SQL Server 2005 Express Edition をインストールする	ローカルマシン上に新規にSQL Server 2005 Express Editionのインスタンスをインストールします。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。 Windows認証モードでインストールされます。 既定で選択されています。
インスタンス名	SQLのインスタンス名を指定します。 16文字まで指定できます。 既定値は (SSCCMDB) です。
インストール先フォルダ	SQLのインストール先フォルダを指定します。 57文字まで入力できます。 既定値は (%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server) です。
データベースのインストール先フォルダ	SQLのデータベースのインストール先フォルダを指定します。 57文字まで入力できます。 既定値は (%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server) です。 実際のインストール先パスは "指定したインストール先フォルダ\MSSQL.n\MSSQL\Data" になります (MSSQL.n はインスタンスIDです。n にはインストールされるコンポーネントの序号が入ります)。
既に存在するSQL Server 2005 インスタンスを使用する	ローカルマシン上にSQL Server 2005がインストールされている場合、既存のインスタンスにデータベースを作成します。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。
インスタンス名	SQLのインスタンス名を指定します。 16文字まで入力できます。 既定値は (SSCCMDB) です。
Windows ファイアウォール	Webサーバ for DPM、データベース (DPMインスタンス)、管理サーバ for DPM、SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningに関するWindowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。
何もしない (新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。)	この項目を選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラム、またはポートを追加しません。後に手動で例外リストにプログラム、またはポートを追加する必要があります。
例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加し、通信ブロックを解除します。 既定で選択されています。
例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。 後に手動で通信ブロックを解除する必要があります。
[OK]	設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。

[キャンセル]	設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。
---------	---------------------------

注: データベース (DPM インスタンス)、管理サーバ for DPM はコンポーネントのインストール中にインストール先フォルダの変更ができます。Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat、Web サーバ for DPM はインストール先フォルダの変更はできません。

注:

- ・ SQL のインスタンスが既に存在している状態で、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは既に存在しています。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。既存のインスタンスを使用する場合、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択してください。
- ・ SQL のインスタンスが存在していない状態で、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは存在しません。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。インスタンスをインストールする場合、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択してください。

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. インストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
7. 選択したコンポーネントのインストールが開始されます。

「SigmaSystemCenter」メイン画面でインストールするコンポーネントにデータベース (DPM インスタンス)、SystemMonitor 性能監視、SystemProvisioning のいずれかを選択した場合、最初に .NET Framework 3.5 Service Pack 1 がインストールされます。.NET Framework のインストール終了後、システムの再起動が必要な場合はシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックした場合、自動的にシステムの再起動が実施されます。

[いいえ(N)] をクリックした場合、インストーラが終了しますので、手動でシステムの再起動を行ってください。コンポーネントをインストールする前に必ずシステムの再起動を行ってください。

システムの再起動後、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。再度コンポーネントを選択し、必要に応じて「設定」画面にて再度設定した後、[実行] をクリックしてください。

SQL Server 2005 Express Edition がインストールされるよう設定した場合、SQL Server 2005 Express Edition がインストールされます。このインストールは完了まで数分かかります。

.NET Framework、および SQL Server 2005 Express Edition のインストール完了後、各コンポーネントのインストールを開始します。各コンポーネントのインストールに関しては、次項以降の各コンポーネントの項を参照してください。

2.3.2. Java 2 Runtime Environmentのインストール

Java 2 Runtime Environment を選択した場合、Java 2 Runtime Environment のインストールが開始されます。

Java 2 Runtime Environment のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

2.3.3. Apache Tomcatのインストール

Apache Tomcat を選択した場合、Apache Tomcat のインストールが開始されます。

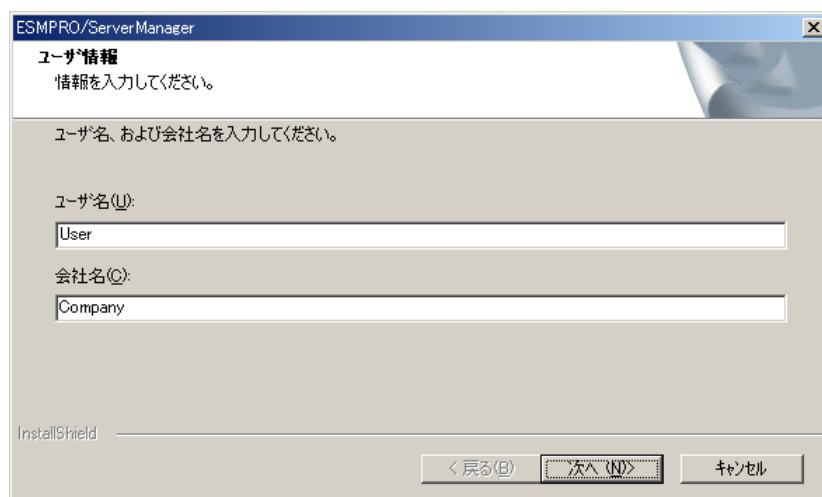
Apache Tomcat のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

2.3.4. ESMPRO/ServerManagerのインストール

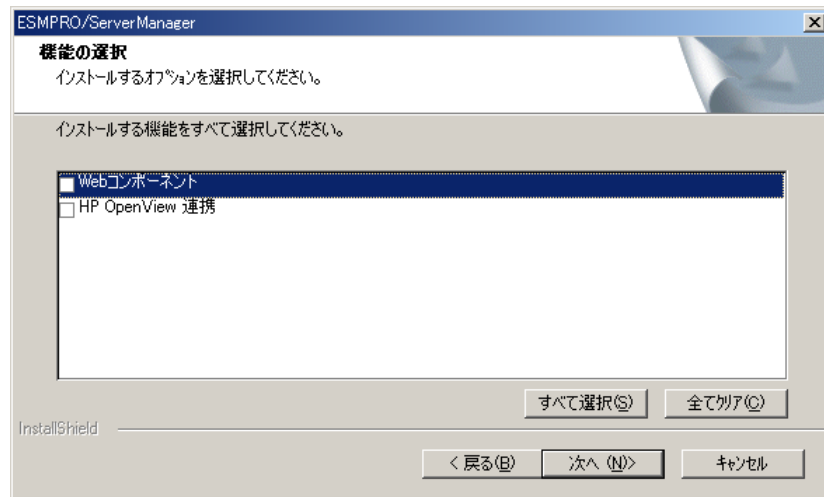
ESMPRO/ServerManager を選択した場合、ESMPRO/ServerManager のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

注: このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

1. 「ユーザ情報」ウィザードが表示されます各項目を入力し、[次へ(N)] をクリックします。



2. 環境によっては、「機能の選択」ウィザードが表示されることがあります。インストールする機能のチェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。



Web コンポーネント	WebブラウザからESMPRO/ServerManagerへのアクセスを有効にします。Internet Information Servicesがインストールされている場合に表示され選択可能となります。
HP OpenView 連携	HP OpenViewとの連携を行います。HP OpenView Network Node Managerが管理サーバにインストールされている場合に表示され選択可能となります。

3. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。インストール先のフォルダを指定し、[次へ(N)] をクリックします。

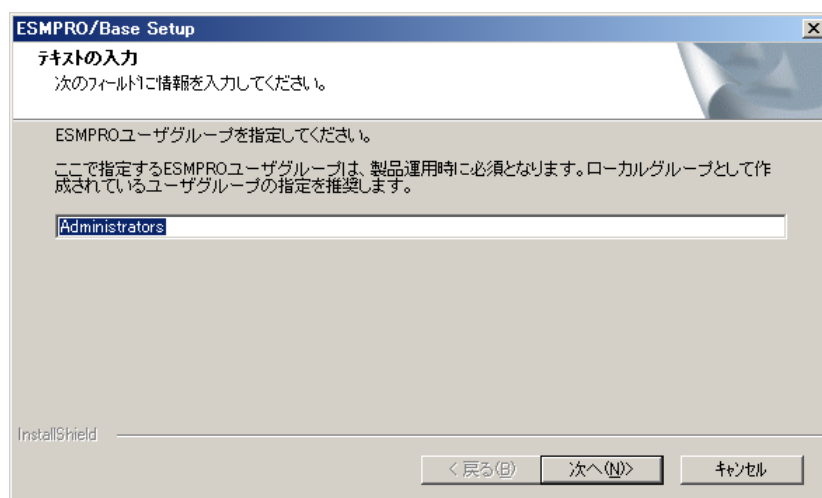
注:

- ・ 64bit OS は (C:\Program Files (x86)) が既定値となります。64bit OS ではインストール先に “C:\Program Files” を指定できません。
- ・ インストール先のフォルダに Unicode 特有の文字を含むフォルダは指定しないでください。

4. 「ファイルコピーの開始」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

2 インストールを実行する

5. 「テキストの入力」ウィザードが表示されます。ESMPRO ユーザグループを入力し、[次へ(N)] をクリックすると、ESMPRO/ServerManager のインストールが開始されます。



インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。

6. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上で ESMPRO/ServerManager のインストールは完了です。

注: インストールをする際は、以下の点について注意してください。

- ・ Windows Server 2008 R2 において ESMPRO/ServerManager のインストールを実行すると、エクスプローラが動作を停止したとメッセージが表示される場合があります。ただし、インストールは正常に完了しており、システムに影響はありません。
 - ・ インストール完了後、環境によっては「このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」のメッセージが表示される場合があります。インストールは正常に完了していますので、[このプログラムは正しくインストールされました]、または [キャンセル] をクリックして終了してください。
-

2.3.5. Webサーバ for DPMのインストール

Web サーバ for DPM を選択した場合、Web サーバ for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

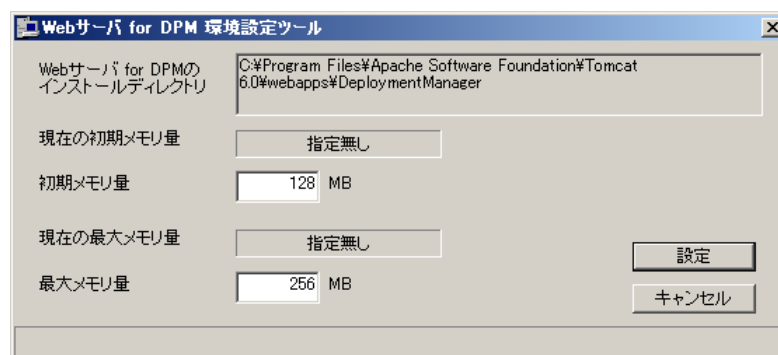
注: インストール先のフォルダは変更しないでください。

フォルダの既定値を変更し、インストールした場合、Web サーバ for DPM が正常に動作しない可能性があります。この場合、Web サーバ for DPM をアンインストールし、再度インストールする必要があります。

2. インストール中に「Web サーバ for DPM 環境設定ツール」ダイアログボックスが表示されます。Web サーバ for DPM が使用するメモリを 128～512MB の範囲で入力し、[設定] をクリックします。

注: 通常の使用では、初期メモリ量を「128」MB から変更する必要はありません。

Apache Tomcat 上で作動するソフトウェア (Web サーバ for DPM を除く) の初期メモリ量が 128MB ではない場合、この値を変更してください。



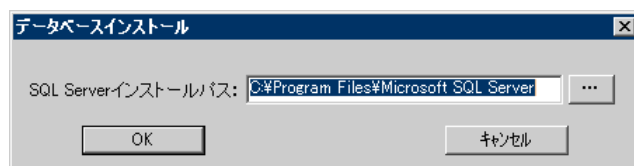
3. Web サーバサービス (Apache Tomcat) の再起動を要求するダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. 「Web サーバサービス (Apache Tomcat) の起動に成功しました。」というダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
5. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のインストールは完了です。

2.3.6. データベース (DPMインスタンス) のインストール

データベース (DPM インスタンス) を選択した場合、データベース (DPM インスタンス) のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「データベースインストール」ダイアログボックスが表示されます。既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[OK] をクリックします。



注: データベースインストール先を変更した場合でも、オプションコンポーネントは、%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server 配下にインストールされます。

2. インストールが開始されます。インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。インストールは完了まで数分かかります。
3. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でデータベース (DPM インスタンス) のインストールは完了です。

2.3.7. 管理サーバ for DPMのインストール

注: 管理サーバ for DPM をインストールする前に必ずデータベース (DPM インスタンス) をインストールしてください。

管理サーバ for DPM を選択した場合、管理サーバ for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「DeploymentManager セットアップへようこそ」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
2. 「使用許諾契約」ウィザードが表示されます。使用許諾契約の内容を確認のうえ、同意される場合は、[はい(Y)] をクリックします。
3. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[次へ(N)] をクリックします。
4. 「DeploymentManager の管理者パスワード設定」ダイアログボックスが表示されます。管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

5. 「詳細設定」画面が表示されます。各項目を選択 / 入力し、[OK] をクリックします。

関連情報: 設定項目の詳細は、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「2.3.1 管理サーバ for DPM の標準インストール」を参照してください。

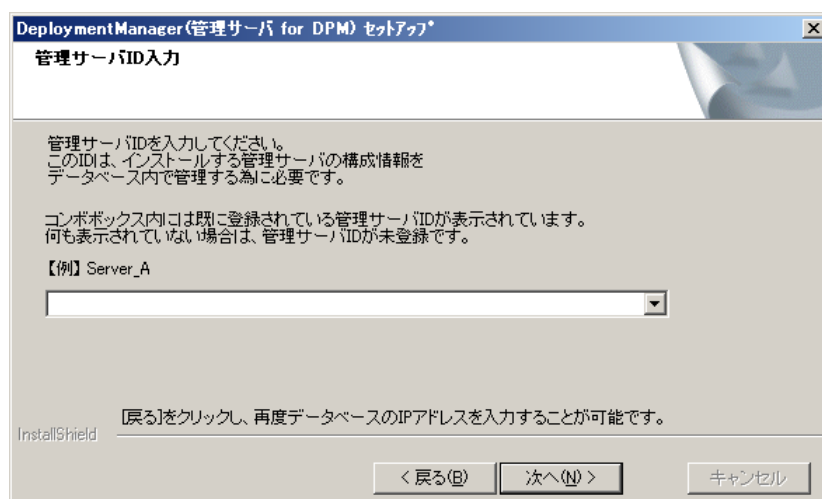
6. 「データベースサーバ IP アドレス入力」ウィザードが表示されます。データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力し、[次へ(N)] をクリックします。

注: 管理サーバ for DPM のインストールが完了しているため、[戻る] は、無効となっています。データベースサーバをインストールしていない場合は、一時的な IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックしてください。一時的な IP アドレスを入力した場合は、手順 7 の [次へ] をクリックした後にデータベースサーバへのアクセスを試みるため、お使いの環境によっては、応答に 5～10 分程度かかる場合があります。しばらくお待ちください。管理サーバ for DPM をインストール後にデータベースサーバの IP アドレスを変更する場合は、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「20.2 データベースサーバの IP アドレス変更」を参照してください。

2 インストールを実行する

7. 「管理サーバID 入力」ウィザードが表示されます。任意の ID を入力し、[次へ(N)] をクリックします。

注: 既に管理サーバIDが登録されているデータベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを指定したにも関わらず、プルダウンボックス内に管理サーバIDが表示されていない場合は、データベースへの接続に失敗した可能性があります。画面の指示に従い、再度データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力してください。



8. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で管理サーバ for DPM のインストールは完了です。

2.3.8. SystemMonitor性能監視のインストール

SystemMonitor 性能監視を選択した場合、SystemMonitor 性能監視のインストールが開始されます。

インストール中の操作はありません。

2.3.9. SystemProvisioningのインストール

SystemProvisioning を選択した場合、SystemProvisioning のインストールが開始されます。

インストール中の操作はありません。

注: このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

2.3.10. インストールを完了するには

1. 選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. ESMPRO/ServerManager、あるいは SystemProvisioning を選択した場合は、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。再起動を促すダイアログボックスが表示された場合、インストーラを終了した後システムを再起動する必要があります。[OK] をクリックしてください。
3. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。
インストーラが終了します。
4. システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。

以上で管理サーバコンポーネントの個別のインストールは完了です。

「2.5 管理サーバコンポーネントをインストールした後に」を参照し、必要に応じてインストール後の設定を行ってください。

2.3.11. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をインストールする

管理サーバ for DPM (HP-UX) は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 から個別にインストールする必要があります。

インストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「2.2 管理サーバマシンのセットアップ (Windows プラットフォーム編)」を参照してください。

注:

- ・ 管理サーバ for DPM (HP-UX) を管理サーバと同一マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 の SigmaSystemCenter のインストーラからインストールした Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat を使用してください。
 - ・ 管理サーバ for DPM (HP-UX) をクラスタ構成にする場合は、設定ファイル内に管理サーバ名を明示的に設定する必要があります。クラスタ構成として構築する場合の詳細については、「SigmaSystemCenter クラスタ構築資料」を参照してください。
-

2.4. 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする

管理サーバへ管理サーバコンポーネントを一括でインストールする手順を説明します。

インストールオプションとパラメータを指定してインストールを開始すると、各コンポーネントはインストーラ画面表示なしでインストールされます。

コンポーネントを一括でインストールする場合、本節を参照し、インストールしてください。

注: 管理サーバ for DPM (HP-UX) は、一括でインストールされません。インストールする場合は、「2.3.11 管理サーバ for DPM (HP-UX) をインストールする」を参照し、個別にインストールしてください。

2.4.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストールを開始します。

注: オプション "MANAGERPASSWORD" は必ず指定してください。このオプションが指定されていない場合、インストールは実施されず、中断します。この場合、オプションを正しく指定して再度実行してください。

```
インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe /i
[INSTALLDIR=InstallPath] [INSTANCENAME=InstanceName]
[FIREWALL=x] MANAGERPASSWORD=Password
[MANAGEMENTSERVERIP=xxx.xxx.xxx.xxx]
```

例) D:¥ ManagerSetup.exe /i INSTALLDIR="C:¥Program Files¥NEC"
INSTANCENAME="SSCCMDB" FIREWALL=1 MANAGERPASSWORD="abcdef"
MANAGEMENTSERVERIP="192.168.1.1"

2 インストールを実行する

オプション	説明
/i	一括でインストールを行います。
INTSTALLDIR	管理サーバ for DPM、ESMPRO/ServerManager、SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningのインストール先パスを指定します。 80文字まで指定できます。 ただし、ESMPRO/ServerManagerをインストールする場合は、Unicode特有の文字を含むフォルダは指定しないでください。 このオプションが指定されていない場合、既定値 (%ProgramFiles%\¥NEC) が使用されます。
INSTANCENAME	SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningが使用するSQLのインスタンス名を指定します。 16文字まで指定できます。 このオプションが指定されていない場合、既定値 (SSCCMDB) が使用されます。
FIREWALL	Webサーバ for DPM、データベース (DPMインスタンス)、管理サーバ for DPM、SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningに関するWindowsファイアウォールの指定を行います。xに以下のいずれかの値を指定します。 このオプションが指定されていない場合、既定値 (1) が使用されます。
0	このオプションを選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラム、またはポートを追加しません。 後に手動で例外リストにプログラム、またはポートを追加する必要があります。
1	このオプションを選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加し、通信ブロックを解除します。 既定で選択されています。
2	このオプションを選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。 後に手動で通信ブロックを解除する必要があります。
MANAGERPASSWORD	管理サーバ for DPMの管理者用パスワードを指定します (必須)。 15文字まで指定できます。
MANAGEMENTSERVERIP	管理サーバ for DPMのIPアドレスを指定します。 このオプションが指定されていない場合、管理サーバ for DPMが使用するIPアドレスとして、接続されているすべてのIPアドレスが割り当てられます。

オプション "/i" が指定されていない場合、「2.3.1 インストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。この場合、個別インストールとなります。個別インストールを進めるか、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じ、一括インストールを再度実行してください。

3. インストールが開始されます。

最初に.NET Framework 3.5 Service Pack 1、および SQL Server 2005 Express Edition がインストールされます。

.NET Framework のインストール終了後、システムの再起動が必要な場合はシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックした場合、自動的にシステムの再起動が実施されます。[いいえ(N)] をクリックした場合、インストーラが終了しますので、手動でシステムの再起動を行ってください。コンポーネントをインストールする前に必ずシステムの再起動を行ってください。再起動後は、自動でインストールが続行されます。

.NET Framework、および SQL Server 2005 Express Edition のインストール完了後、以下の順番でコンポーネントのインストールが開始されます。

コンポーネントのインストール中に以下の画面が表示されますが、操作は不要で、インストール処理は継続して正常に動作します。

- ・ 「Installing JRE」コマンドプロンプト画面
- ・ 「Installing Service "Tomcat"」コマンドプロンプト画面
- ・ ファイルの展開ダイアログボックス
- ・ 「データベースをインストールしています。しばらくお待ちください。」というメッセージ
- ・ 「インストール先ドライブ :¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥90¥Tools¥Binn¥osql.exe」コマンドプロンプト画面
- ・ 「Microsoft Visual C++ Redistribute」ダイアログボックス

インストールは完了まで数分かかります。

2 インストールを実行する

インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows Server 2003 の場合
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Server 2008 の場合
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

注: 以下の方法でログを参照することができます。

- コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
または
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
- メモ帳でログファイルを開きます。
notepad SetupProvisioning.log

	終了コード		インストール対象コンポーネント	順番
	再起動不要	再起動必要		
成功	0	64	—	—
エラー ※1	32	96	—	—
エラー ※2	1	65	Java 2 Runtime Environment	1
エラー ※2	2	66	Apache Tomcat	2
エラー ※2	3	67	ESMPRO/ServerManager	3
エラー ※2	4	68	Webサーバ for DPM	4
エラー ※2	5	69	データベース (DPMインスタンス)	5
エラー ※2	6	70	管理サーバ for DPM	6
エラー ※2	7	71	SystemMonitor性能監視	7
エラー ※2	8	72	SystemProvisioning	8

※1 オプション指定が不正の場合、.NET Framework3.5 Service Pack 1 / SQL Server 2005 Express Editionのインストールに失敗した場合、PVMサービスの停止に失敗した場合、およびIISがインストールされていない場合

※2 対象コンポーネントのインストールに失敗した場合

以上で管理サーバコンポーネントの一括インストールは完了です。

一括インストールの完了後、サーバを再起動してください。

再起動後に「2.5 管理サーバコンポーネントをインストールした後に」を参照し、必要に応じてインストール後の設定を行ってください。

2.5. 管理サーバコンポーネントをインストールした後に

インストール完了後に別途設定が必要な場合があります。SigmaSystemCenter 2.1 のインストールが完了した後、インストール環境、およびインストールしたコンポーネントに応じて本節の設定を行ってください。

2.5.1. .NET Framework 3.5 Service Pack 1 をインストールした場合

データベース (DPM インスタンス)、SystemMonitor 性能監視、SystemProvisioning のいずれかをインストールした場合、.NET Framework 3.5 Service Pack 1 がインストールされます。この場合、すべてのコンポーネントのインストールが完了した後、更新プログラム KB959209 のインストールを推奨します。更新プログラムの詳細、およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

2.5.2. ESMPRO/ServerManagerをインストールした場合

ESMPRO/ServerManagerは、SigmaSystemCenter のインストーラからWindowsファイアウォールの指定を行なうことはできないため、すべてのコンポーネントのインストールが完了した後、手動で例外リストにポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

2.5.3. Webサーバ for DPMをインストールした場合

Web サーバ for DPM をインストールした場合、Java Plug-in の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了した後、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「2.1.1 Web サーバ for DPM の標準インストール」の「(13)～(19)」を参照し、Java Plug-in の設定を行ってください。

2.6. 管理対象マシンコンポーネントのインストール

次節以降では、管理対象マシンコンポーネントをインストールする手順を説明します。

管理対象マシンの OS によって、インストールが必要となるコンポーネント、およびインストール方法が異なります。

ご利用の環境に応じて必要なコンポーネントをインストールしてください。

関連情報: インストールが必要となるコンポーネントの詳細については、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「2.1.3. コンポーネント、および製品の構成」を参照してください。

Windows (x86 / x64) 管理対象マシン		
ESMPRO/ServerAgent	EXPRESSBUILDER (NEC Expressシリーズに同梱) よりインストール	
クライアントサービス for DPM	Windows Server 2008 Server Core 以外	「2.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面からインストールする」 または 「2.8 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面表示なしでインストールする」 を参照してインストール
	Windows Server 2008 Server Core	「2.9 Windows Server 2008 Server Core管理対象マシンへインストールする」 を参照してインストール

Linux 管理対象マシン		
ESMPRO/ServerAgent	EXPRESSBUILDER (NEC Expressシリーズに同梱) よりインストール OSやカーネルをアップデートした場合は、以下のURLからダウンロードしてください。 http://www.express.nec.co.jp/linux/index.html	
クライアントサービス for DPM	「2.11 Linux管理対象マシンへインストールする」 を参照してインストール	

Windows (IPF) 管理対象マシン		
ESMPRO/ServerAgent	EXPRESSBUILDER (NEC Expressシリーズに同梱) よりインストール	
クライアントサービス for DPM	「2.10 Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする」 を参照してインストール	

HP-UX 管理対象マシン		
ESMPRO/ServerAgent	インストール不要	
クライアントサービス for DPM	「2.12 HP-UX管理対象マシンへインストールする」 を参照してインストール	

VMware ESX 管理対象マシン	
ESMPRO/ServerAgent	ESMPRO/ServerManager for VMwareをインストール UL1032-102 ESMPRO/ServerManager for VMwareを別途ご購入ください。
クライアントサービス for DPM	「2.11 Linux管理対象マシンへインストールする」を参照してインストール

VMware ESXi 管理対象マシン	
ESMPRO/ServerAgent	インストール不要
クライアントサービス for DPM	インストール不要

Citrix XenServer 管理対象マシン	
ESMPRO/ServerAgent	ESMPRO/ServerAgent for XenServerをインストール 弊社から販売しているCitrix XenServerに同梱されています。 Enterprise Editionへの導入をご希望の場合、個別対応となりますのでお問い合わせください。
クライアントサービス for DPM	「2.11 Linux管理対象マシンへインストールする」を参照してインストール

Microsoft Hyper-V 管理対象マシン	
ESMPRO/ServerAgent	EXPRESSBUILDER (NEC Expressシリーズに同梱) よりインストール
クライアントサービス for DPM	「2.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面からインストールする」 または 「2.8 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面表示なしでインストールする」 を参照してインストール

管理対象マシンが仮想マシン	
ESMPRO/ServerAgent	インストール不要
クライアントサービス for DPM	仮想マシンのOSに応じて、以下を参照してインストールしてください。 「2.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面からインストールする」 または 「2.8 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面表示なしでインストールする」 または 「2.11 Linux管理対象マシンへインストールする」

2.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をインストールする必要があります。インストーラ画面からクライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (AgentSetup.exe) を起動すると、コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

2.7.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

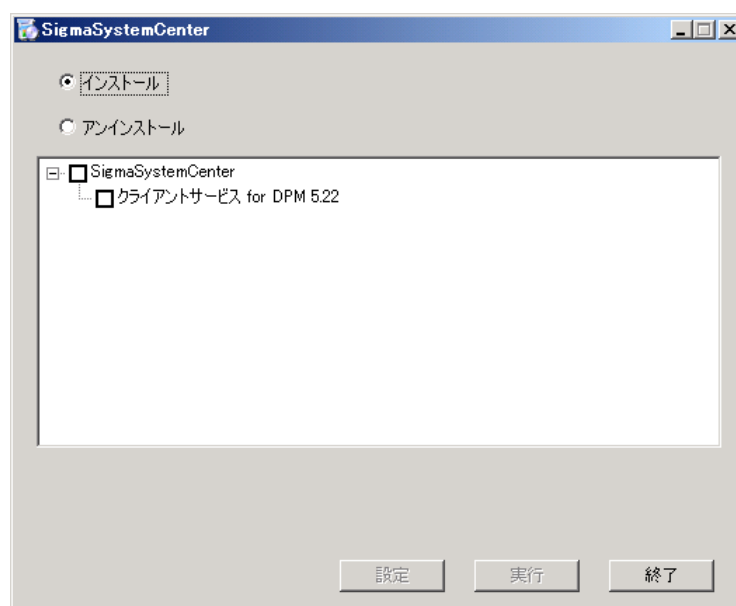
インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[インストール] をクリックし、[SigmaSystemCenter]、もしくは [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスをオンにします。本バージョンのクライアントサービス for DPM が既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

注: Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

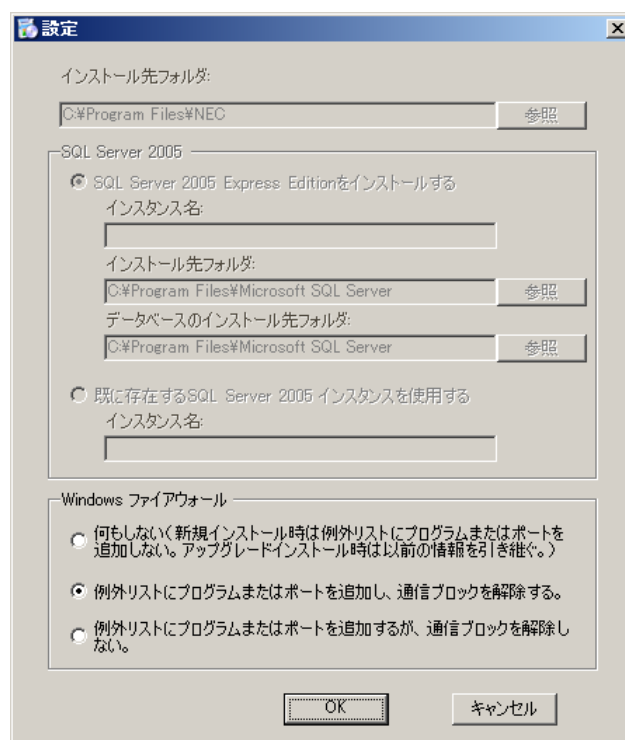
既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。



インストール	インストールを行います。
アンインストール	アンインストールを行います。
SigmaSystemCenter	この項目を選択した場合、以下のすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。
クライアントサービス for DPM	クライアントサービス for DPMをインストールします。
[設定]	設定画面を表示します。 インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[実行]	インストールを実行します。 インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[終了]	メイン画面を閉じます。

4. 「設定」画面が表示されます。

[Windows ファイアウォール] グループボックス内の設定を選択し、[OK] をクリックします。



2 インストールを実行する

インストール先フォルダ	入力不可です。
SQL Server 2005	このグループボックス内の項目は選択 / 入力不可です。
Windows ファイアウォール	クライアントサービス for DPMに関するWindowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。
何もしない（新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。）	この項目を選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラム、またはポートを追加しません。後に手動で例外リストにプログラム、またはポートを追加する必要があります。
例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加し、通信ブロックを解除します。既定で選択されています。
例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。後に手動で通信ブロックを解除する必要があります。
[OK]	設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。
[キャンセル]	設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. インストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
7. クライアントサービス for DPM のインストールが開始されます。クライアントサービス for DPM のインストールに関しては、次項を参照してください。

2.7.2. クライアントサービス for DPMのインストール

クライアントサービス for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「IP アドレスの入力」ウィザードが表示されます。[IP アドレス] テキストボックスに管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力し、[次へ(N)] をクリックします。

注: 管理サーバ for DPM の IP アドレスが不明な場合や変更される場合は、一時的な IP アドレスを入力してください。空白のまま [次へ] をクリックし、インストールを進めることはできません。正しい IP アドレスは、DPM の Web コンソールを操作して管理サーバ for DPM から管理対象マシンのシャットダウン、またはリモートアップデートによるシナリオを実行すると設定されます。

2. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

注: Windows Server 2008、Windows Vista、もしくは Windows 7 にクライアントサービス for DPM をインストールした後、イベントログに以下のメッセージが出力される場合がありますが、動作に問題はありません。

- ・ DeploymentManager Agent Service サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない可能性があります。
 - ・ DeploymentManager Remote Update Service Client サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない可能性があります。
-

以上でクライアントサービス for DPM のインストールは完了です。

2.7.3. インストールを完了するには

1. クライアントサービス for DPM のインストールが完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[SigmaSystemCenter]、および [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。
インストーラが終了します。

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面からのインストールは完了です。

2.8. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面表示なしでインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をインストールする必要があります。インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

インストールオプションとパラメータを指定してインストールを開始すると、インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をインストールします。

2.8.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストールを開始します。

注: オプション "DPMSEVERIP" は必ず指定してください。このオプションが指定されていない場合、インストールは実施されず、中断します。この場合、オプションを正しく指定して再度実行してください。

注: NET Framework 1.1 以上がインストールされていない環境でインストーラ (AgentSetup.exe) を実行すると、エラーメッセージが表示される場合があります。詳細と対処方法については、「5.1.2 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへのインストール時のエラー」を参照してください。

インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe /i [FIREWALL=x]
DPMSEVERIP=xxx.xxx.xxx.xxx

例) D:¥AgentSetup.exe /i FIREWALL=1 DPMSEVERIP="192.168.1.1"

オプション	説明
/i	一括でインストールを行います。
FIREWALL	クライアントサービス for DPMに関するWindowsファイアウォールの指定を行います。xに以下のいずれかの値を指定します。 このオプションが指定されていない場合、既定値 (1) が使用されます。
0	このオプションを選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラム、またはポートを追加しません。 後に手動で例外リストにプログラム、またはポートを追加する必要があります。
1	このオプションを選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加し、通信ブロックを解除します。 既定で選択されています。
2	このオプションを選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。 後に手動で通信ブロックを解除する必要があります。
DPMSEVERIP	管理サーバ for DPMのIPアドレスを指定します (必須)。

オプション "/i" が指定されていない場合、「2.7.1 インストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。この場合、個別インストールとなります。個別インストールを進めるか、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じ、一括インストールを再度実行してください。

3. クライアントサービス for DPM のインストールが開始されます。インストールは完了まで数分かかります。

2 インストールを実行する

インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows 2000 / Windows XP / Windows Server 2003 の場合
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7 の場合
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

注: 以下の方法でログを参照することができます。

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
または
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
 2. メモ帳でログファイルをオープンします。
notepad SetupProvisioning.log
-

	終了コード	インストール対象コンポーネント	順番
成功	0 (再起動不要)	—	—
エラー ※1	64 (再起動不要)	—	—
エラー ※2	1 (再起動不要)	クライアントサービス for DPM	1

※1 オプション指定が不正の場合

※2 対象コンポーネントのインストールに失敗した場合

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面表示なしでのインストールは完了です。

2.9. Windows Server 2008 Server Core 管理対象マシンへインストールする

Windows Server 2008 Server Core 管理対象マシンへクライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラは Windows Server 2008 Server Core 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Windows Server 2008 Server Core 管理対象マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から個別にインストールする必要があります。

2.9.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、「DeploymentManager セットアップ」画面を起動します。
`インストール CD-R: ¥DPM¥Launch.exe`
3. 「1.2.3 DPMオプション」内の「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。
4. [クライアントサービス for DPM] アイコンをクリックします。
5. 「確認」ダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックします。
6. 「IP アドレスの入力」ウィザードが表示されます。管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力します。[次へ] をクリックします。

注: 管理サーバ for DPM の IP アドレスが不明な場合や変更される場合は、一時的な IP アドレスを入力してください。空白のまま [次へ] をクリックし、インストールを進めることはできません。正しい IP アドレスは、DPM の Web コンソールを操作して管理サーバ for DPM から管理対象マシンのシャットダウン、またはリモートアップデートによるシナリオを実行すると設定されます。

7. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」が表示されます。[完了] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のインストールは完了です。

2.10. Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする

OS が Windows (IPF) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

クライアントサービス for DPMのインストールの前に、「2.10.1 クライアントサービス for DPMのインストールに向け準備する」を参照し、クライアントサービス for DPMをインストールする環境を準備してください。

2.10.1. クライアントサービス for DPMのインストールに向け準備する

クライアントサービス for DPM のポートを有効にする必要があります。以下のポートを開放してください。

プロトコル	ポート番号
ICMP	8 (Echo着信)
TCP	56000
UDP	56001
TCP	56010

2.10.2. インストールを実行するには

SigmaSystemCenter のインストーラは Windows (IPF) 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Windows (IPF) 管理対象マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から個別にインストールする必要があります。

「DeploymentManager セットアップ」画面 (DPM¥Launch.exe) を起動すると、DPM をセットアップするためのセットアップメニューを表示します。

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、「DeploymentManager セットアップ」画面を起動します。
インストール CD-R: ¥DPM¥Launch.exe
3. 「1.2.3 DPMオプション」内の「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。
4. [クライアントサービス for DPM] アイコンをクリックします。
5. 「確認」ダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックします。
6. 「DeploymentManager クライアントサービスのインストール」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

7. IP アドレス入力ダイアログボックスが表示されます。管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力します。[OK] をクリックします。

注: 管理サーバ for DPM の IP アドレスが不明な場合や変更される場合は、一時的な IP アドレスを入力してください。空白のまま [次へ] をクリックし、インストールを進めることはできません。正しい IP アドレスは、DPM の Web コンソールを操作して管理サーバ for DPM から管理対象マシンのシャットダウン、またはリモートアップデートによるシナリオを実行すると設定されます。

8. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のインストールは完了です。

2.11. Linux 管理対象マシンへインストールする

OS が Linux の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラは Linux 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Linux 管理対象マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から個別にインストールする必要があります。

クライアントサービス for DPM のインストールの前に、「2.11.1 クライアントサービス for DPM のインストールに向け準備する」を参照し、クライアントサービス for DPM をインストールする環境を準備してください。

2.11.1. クライアントサービス for DPM のインストールに向け準備する

クライアントサービス for DPM が動作するには、以下のライブラリが必要です。以下のライブラリがない場合には、Linux OS の CD-ROM からインストールしてください。

- ◆ libpthread.so.0
- ◆ libc.so.*
- ◆ ld-linux.so.2 (IA32 版 / EM64T 版の場合に必要です)
- ◆ ld-linux-ia64.so.2 (IPF 版の場合に必要です)

※ *には、数値が入ります。

また、ご利用の環境によってクライアントサービス for DPM のインストールの前に必要な操作があります。ご利用の環境に応じて、以下の操作を実行してください。

- ◆ x64 版 Linux OS の管理対象マシン

x64 版 Linux OS の管理対象マシンにクライアントサービス for DPM をインストールする場合、ライブラリ `/lib/libgcc_s.so.1` が必要です。

`/lib/libgcc_s.so.1` がマシンに入っていない場合、マルチキャストを使ったりリモートアップデートは利用できません。なお、`/lib/x64` 配下にライブラリ `/libgcc_s.so.1` が存在する場合がありますが、別途 `/lib` 配下にライブラリ `/libgcc_s.so.1` が必要です。

下記の rpm パッケージをインストールし、ライブラリをインストールしてください。

リモートアップデートを使ってインストールする場合は、ユニキャスト配信で行ってください。

- libgcc-3.4.5-2.i386.rpm

◆ 既に Red Hat Enterprise Linux が入っている管理対象マシン

既に Red Hat Enterprise Linux が入っている管理対象マシンにクライアントサービス for DPMをインストールする場合、クライアントサービス for DPMのポートを有効にする必要があります。以下のポートを開放してください。

プロトコル	ポート番号
TCP	56000
UDP	56001
TCP	56010

2.11.2. クライアントサービス for DPMをインストールするには

注: Red Hat Enterprise Linux AS4 / ES4、SUSE Linux Enterprise 9 の場合は、"/mnt" 部を "/media" に読み替えて作業をすすめてください。

SUSE Linux Enterprise 10 の場合は、"/mnt/cdrom" 部を "/media/CD-R のボリュームラベル" に読み替えて作業をすすめてください。

1. root アカウントでシステムにログインします。
2. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
3. 以下のコマンドを実行し、CD-R をマウントします。この例では、マウントポイントを "/mnt/cdrom" と仮定しています。

```
# mount /mnt/cdrom
```

4. ディレクトリを変更するために、以下のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/クライアントアーキテクチャ/bin/agent
```

クライアントアーキテクチャの部分はマシンの機種に応じて以下を指定してください。

- IPF アーキテクチャマシンの場合: ia64
- IA32、EM64T アーキテクチャマシンの場合: ia32

例) [root@localhost]# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/ia32/bin/agent

5. depinst.sh を実行します。

```
# ./depinst.sh
```

6. 以下のように管理サーバ for DPM の IP アドレスの入力要求が表示されます。

```
Enter the IP address of the management server.
>
```

管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力し、[Enter] クリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のインストールは完了です。

2.12. HP-UX 管理対象マシンへインストールする

OS が HP-UX の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM (HP-UX) をインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは HP-UX 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM (HP-UX) を HP-UX 管理対象マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 から個別にインストールする必要があります。

インストール手順については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「2.5 DeploymentManager クライアントのセットアップ」を参照してください。

3. アップグレードインストールを実行する

本章では、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 2.0 以前のバージョンがインストールされた環境を SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードインストールする手順について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• 3.1	SigmaSystemCenter 2.1 へのアップグレードインストール	54
• 3.2	インストール (アップグレード) を始める前に	55
• 3.3	BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 からアップグレードインストールに向け準備する	60
• 3.4	SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け準備する	63
• 3.5	SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールに向け準備する.....	66
• 3.6	管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する	68
• 3.7	管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に.....	85
• 3.8	管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする	94
• 3.9	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする.....	96
• 3.10	Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする.....	100
• 3.11	Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする.....	101
• 3.12	HP-UX管理対象マシンへアップグレードインストールする	102
• 3.13	クライアントサービス for DPMを自動でアップグレードする	103

3.1. SigmaSystemCenter 2.1 へのアップグレードインストール

以降の節では、前のバージョンがインストールされた管理サーバ、および管理対象マシンを SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードする手順を説明します。

最初に、「3.2 インストール（アップグレード）を始める前に」を確認のうえ、ご利用の環境に応じて対応する節を参照し、アップグレードインストールを実行してください。

管理サーバをアップグレードするには、以下の流れに従ってください。

1. インストールされているバージョンを確認し、準備する

インストールされているバージョンに応じて、事前に準備が必要です。ご利用の環境にインストールされているバージョンを確認し、以下の対応する節を参照し、準備を行ってください。

- BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 の場合
「3.3 BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 からアップグレードインストールに向け準備する」を参照してください。
- SigmaSystemCenter 1.2、もしくは 1.3 の場合
「3.4 SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け準備する」を参照してください。
- SigmaSystemCenter 2.0 の場合
「3.5 SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールに向け準備する」を参照してください。

2. SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードする

「3.6 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」を参照してください。

管理サーバコンポーネントのアップグレードインストール完了後に別途必要な設定があります。すべてのコンポーネントのアップグレードインストールが完了した後、「3.7 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照し、設定してください。

管理対象マシンをアップグレードするには、「3.8 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする」を参照してください。

注： Windows Server 2008 をご使用の場合、以下のアップグレードインストール手順の「プログラムの追加と削除」を、「プログラムと機能」と読み替えてください。

3.2. インストール (アップグレード) を始める前に

SigmaSystemCenter 2.1 へのインストール (アップグレード) を始める前に本節をよく読んでください。

3.2.1. 動作環境の確認・準備

SigmaSystemCenter のインストール (アップグレード) を始める前に、必ず最新の動作環境がご利用の環境に適しているか確認し、必要であればシステム要件を満たすバージョンにアップグレードする必要があります。

SigmaSystemCenter 2.1 Update 2 では、VMware vCenter Server 2.5 以上をサポートします。vCenter Server 2.0 以前のバージョンをご使用の場合は、SigmaSystemCenter 2.1 をインストール (アップグレード) する前に、vCenter Server のアップグレードが必要となります。

最新の動作環境に関しては、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「3. 動作環境」を参照してください。

3.2.2. アップグレードインストールを行う際の注意

SigmaSystemCenter をアップグレードインストールする際は、旧バージョンの環境でインストールされていたすべての SigmaSystemCenter コンポーネントをアップグレードインストールしてください。一部のコンポーネントのみをアップグレードインストールする運用はサポートしていません。

アップグレードインストールを開始する前にご利用の環境をバックアップすることを推奨します。

- ◆ EMC Storage (CLARiX)を使用している場合
[リソース] ビューのマシンで設定している各 HBA の接続先の SP 情報と、[運用] ビューのホストに設定しているディスクボリュームの SP 情報が異なっている場合は、アップグレードインストールでホスト設定にディスクボリュームが設定されません。アップグレードインストール開始前に以下の手順を実行して設定の確認を行ってください。

1. HBA に接続されている SP 情報は、naviseccli コマンドの getall -sg コマンドを使用して確認します。

```
> naviseccli getall -sg
```

関連情報: コマンドの詳細については Navisphere のマニュアルを参照してください。

2. [運用] ツリーから運用グループのアイコンをクリックし、[ホスト一覧] グループボックスから [ホスト名] をクリックし、メインウィンドウにホストの詳細情報を表示します。
3. [設定] メニューから [プロパティ] をクリックし、[ストレージ] タブを選択します。[ストレージ一覧] のディスクボリュームに設定している SP 名、SP ポート番号が、HBA と接続されている SP 情報と一致していることを確認します。

異なる SP 情報 (ディスクボリューム) をホストに設定した状態でアップグレードインストールを行った場合は、ホスト設定にディスクボリュームが設定されません。その場合は、アップグレードインストール後にディスクボリュームの再設定を行ってください。ディスクボリュームの設定については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.8.3. [ストレージ] タブを設定するには」を参照してください。

3.2.3. 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア

SigmaSystemCenter を管理サーバにアップグレードインストールする前に、ご利用の環境に応じて、別途インストールが必要なソフトウェアがあります。

必要なソフトウェア、およびインストール手順については、SigmaSystemCenterのインストール時と同じです。詳細については、「2.1.2 管理サーバに事前にインストールが必要なソフトウェア」を参照してください。

3.2.4. Windowsファイアウォールの設定に関する注意

- ◆ "Windows Firewall / Internet Connection Sharing (ICS)" サービスが開始状態の場合、インストーラの設定で Windows ファイアウォールの例外リストにプログラム、またはポートを追加するように指定すると、インストーラは例外リストにプログラム、またはポートを追加します。
- ◆ SigmaSystemCenterをインストール (アップグレード) した後に、Windowsファイアウォールを使用するように変更する場合は、手動で例外リストにプログラム、またはポートを追加してください。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

3.2.5. インストール (アップグレード) 実行前の注意

SigmaSystemCenter のインストール (アップグレード) を始める前に、必ず使用しているアプリケーション、および Web ブラウザをすべて終了してください。

3.2.6. アップグレードインストール前の設定値の確認

Web サーバ for DPM、Apache Tomcat をインストールしている場合、SigmaSystemCenter 2.1 にインストール (アップグレード) を始める前に以下の手順を実施してください。

1. DPM の管理サーバ、および Web コンソールの設定の確認
 1. 作業を行うサーバに Administrator でログインします。
 2. ブラウザを起動し、URL で以下を入力して DPM の管理コンソールを起動します。
`http://ホスト名:ポート番号/DeploymentManager/Start.jsp`
 (例 : `http://localhost:8080/DeploymentManager/Start.jsp`)
 3. DPM の Web コンソールのツリービュー上で、管理サーバのアイコンを右クリックして表示される「管理サーバのプロパティ」ウィンドウの設定値を確認します。また、[Web コンソール] メニューから [環境設定] を選択して表示される「Web コンソール設定画面」の設定値を確認します。
2. Apache Tomcat のポート番号のバックアップ
 Apache Tomcat のポート番号を既定値 (8080) から変更している場合は、*Apache Tomcat* のインストールフォルダ¥`conf`¥`Server.xml` のバックアップを取ります。
 既定値は (C:¥Program Files¥Apache Software Foundation¥Tomcat x.x) です。
 (x.x にはバージョン番号が入ります。)

3.2.7. インストール (アップグレード) に伴いNetvisorProをインストールする際の注意

SigmaSystemCenter 2.0 以降、データベースとして SQL Server 2005 を使用するようになりました。そのため、SigmaSystemCenter 2.1 にアップグレードインストールする際に NetvisorPro を新規インストールし、NetvisorPro のデータベースとして MSDE2000 を使用する場合、以下の注意事項があります。

- SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードインストールする場合
 先に NetvisorPro をインストールし、その後 SigmaSystemCenter 2.1 にアップグレードインストールしてください。
- SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールする場合
 SigmaSystemCenter 2.0 で既に SQL Server 2005 がインストールされているため、NetvisorPro のインストールに失敗する場合があります。

NetvisorPro のデータベースとして MSDE2000 を使用する場合、SQL Server 2005 が既にインストールされていると、NetvisorPro のインストールに失敗する場合があります。NetvisorPro 4.2 は、データベースとして MSDE2000 を使用します。NetvisorPro V 2.0、3.0 は、データベースとして MSDE2000、または SQL Server 2005 を使用できます。

3.2.8. 管理サーバ for DPMをアップグレードインストールする際の注意

- ◆ BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter からアップグレードする場合は、コンピュータ情報とイメージファイル（サービスパック / HotFix / Linux パッチファイル、アプリケーション）のコンバートが必要になります。DPM に登録されているイメージファイルで、アップグレード後に使用する予定のないものは、事前にイメージビルダーの [登録データの削除] から確認・削除を行ってください。イメージビルダーの操作手順については、ご使用の DPM のユーザズガイドを参照してください。
- ◆ 管理サーバ for DPM が SigmaSystemCenter 管理サーバとは別のマシンにインストールされている場合、SigmaSystemCenter 管理サーバにインストールされたコマンドライン for DPM もアップグレードする必要があります。「SigmaSystemCenter」メイン画面で [DPM オプション] をクリックすると、「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。[コマンドライン for DPM] をクリックし、画面の表示に従って上書きインストールを行ってください。

3.2.9. SIGMABLADE controllerをサブシステム追加している場合

SIGMABLADE controller をサブシステムとして追加している場合、アップグレード前にサブシステムから削除しておく必要があります。[管理] ビューのサブシステムの詳細情報から SIGMABLADE controller を選択し、削除してください。

SigmaSystemCenter 2.1 Update 2 で、SIGMABLADE controller を制御して SIGMABLADE を管理する機能のサポートを終了しました。CPU ブレード置換（利用中のマシンに割り当てられている I/O 仮想化ブレードを置換先のマシンに引き継ぐマシン置換）は、SigmaSystemCenter 2.1 Update 2 以降では、ご利用いただけません。また、SIGMABLADE に対する情報収集や電源制御は他のサブシステムや Out-of-Band Management による電源制御などを利用してください。

SIGMABLADE controller のサブシステム削除後、SystemProvisioning の再起動や収集を行った場合、DeploymentManager のサブシステムのみにより管理されている管理対象マシン（物理マシン）のマシン名は、DeploymentManager のマシン名（コンピュータ名）で更新されます。

SIGMABLADE controller の機能には、変更ありませんので、引き続き、SIGMABLADE の管理、制御にご使用いただけます。

注: SystemProvisioning からサブシステム（SIGMABLADE controller）の削除を行うと、SIGMABLADE controller クライアントから対象の SIGMABLADE controller サーバの登録が削除されます。SIGMABLADE controller を引き続き利用される場合は、SIGMABLADE controller コマンドの kcreghost -h を利用して、SIGMABLADE controller クライアントに SIGMABLADE controller サーバを再度登録してください。管理サーバに管理サーバ for DPM がインストールされている場合、再度登録を行わないと DPM でエラー（イベントソース: DPMKieldIIUUID）となります（kcreghost -h コマンドの詳細は「SIGMABLADE controller ユーザズガイド」を参照してください）。

3.2.10. Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7 にインストールする際の注意

Windows Vista、Windows Server 2008、もしくは Windows 7 上でインストーラを実行すると、「ユーザー アカウント制御」画面が表示される場合があります。その場合、「許可」をクリックして、続行してください。

3.2.11. SQL Server 2005 の上位エディションを使用する場合

本項の内容は SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードインストールを行う場合にのみ有効です。

- ◆ SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioning
SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningが使用するインスタンス (既定値: SSCCMDB) にSQL Server 2005 の上位エディションを使用する場合は、SigmaSystemCenterをアップグレードする前にSQL Server 2005 の上位エディションのインスタンスをインストールし、SigmaSystemCenterインストーラ実行時にインスタンス名を指定することで、使用可能になります。
SigmaSystemCenterインストーラの「設定」画面で "既に存在するSQL Server 2005 インスタンスを使用する" を選択し、インスタンス名を指定してください。詳細については、「3.6.2 インストール (アップグレード) を実行するには」を参照してください。
- ◆ DeploymentManager
DeploymentManagerが使用するインスタンス (DPMDBI) に、SQL Server 2005 の上位エディションを使用する場合は、以下の 2 つの方法があります。
 - DeploymentManagerを構築済みの環境で、データベース (DPMインスタンス) をSQL Server 2005 Express EditionからSQL Server 2005 の上位エディションにアップグレードする場合:
通常通りの方法でデータベース (DPMインスタンス) をインストールした後、SQL Server 2005 Express Editionを上位エディションにアップグレードしてください。詳細については、「付録 C データベースのアップグレード手順」を参照してください。SigmaSystemCenterではこちらを推奨します。
 - 構築済みのSQL Server 2005 の上位エディションにデータベース (DPMインスタンス) を構築する場合:
以下の手順書を参照してください。

http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/download.html

「WebSAM DeploymentManager - SQL Server 2005 製品版へのデータベース構築手順書」の「2 SQL Server 2005 製品版へのデータベース(DPMインスタンス)の構築/設定」

3.3. BladeSystemCenter ExpressSystemCenter SigmaSystemCenter 1.1 からアップグレード インストールに向け準備する

ご利用の環境に、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 のいずれかがインストールされている場合、SigmaSystemCenter 2.1 へのアップグレードインストールを行う前に、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 で使用されている以下のコンポーネントを先にアンインストールする必要があります。本節を参照し、以下のコンポーネントをアンインストールしてください。

- ◆ Web サーバ for DPM
- ◆ Apache Tomcat
- ◆ SystemProvisioning Connector Framework

注:

・ Apache Tomcat のアンインストールを行う前に Web サーバ for DPM のアンインストールを行ってください。

Web サーバ for DPM より先に Apache Tomcat のアンインストールを行った場合、アンインストールは終了できますが、不要なフォルダ (C:¥Program Files¥ Apache Software Foundation ¥Tomcat 6.0) が残ります。この場合、手動でこのフォルダを削除する必要があります。

・ 旧バージョンの Apache Tomcat のアンインストールを行なう前に、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 のインストーラを起動して「SigmaSystemCenter」メイン画面を表示すると、Apache Tomcat のチェックボックスが選択可能になる場合がありますが、SigmaSystemCenter 2.1 から Apache Tomcat のインストールを行う場合は、必ず旧バージョンの Apache Tomcat をアンインストールした後に行ってください。

注:

- ・ アンインストールする製品のバージョンにより、コンポーネント名称、バージョン、画面のタイトルなど一部表記が異なる場合があります。
 - ・ 上記のコンポーネントでインストールされていないものがある場合、そのコンポーネントのアンインストールは不要です。
-

3.3.1. Webサーバ for DPMをアンインストールするには

1. [スタート] メニューから [DeploymentManager] - [Web サーバ for DPM のアンインストール] を選択します。
2. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
3. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックし、アンインストールを開始します。
4. アンインストールが正常に終了すると、「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

3.3.2. Apache Tomcatをアンインストールするには

1. [スタート] メニューから [Apache Tomcat 4.1] - [UninstallTomcat 4.1] を選択します。
2. 「Apache Tomcat 4.1 Uninstall: Confirmation」画面が表示されます。[Uninstall] をクリックします。
3. ファイル削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. アンインストールが正常に終了すると、「Apache Tomcat 4.1 Uninstall: Completed」画面が表示されます。[Close] をクリックします。

以上で Apache Tomcat4.1 のアンインストールは完了です。

3.3.3. SystemProvisioning Connector Frameworkをアンインストールするには

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [NEC SystemProvisioning Connector Framework] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. アンインストールが正常に終了すると、「アンインストール完了」ウィザードが表示されず。[完了] をクリックします。

以上で SystemProvisioning Connector Framework のアンインストールは完了です。

3.3.4. アンインストールを完了するには

すべてのコンポーネントのアンインストール終了後、システムを再起動してください。

以上で BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 の事前に必要なコンポーネントのアンインストールは終了です。

「3.6 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」以降を参照し、SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードインストールしてください。

3.4. SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け準備する

ご利用の環境に SigmaSystemCenter 1.2、もしくは 1.3 がインストールされている場合、SigmaSystemCenter 2.1 へのアップグレードインストールを行う前に、SigmaSystemCenter 1.2、および 1.3 で使用されている以下のコンポーネントを先にアンインストールする必要があります。本節を参照し、以下のコンポーネントをアンインストールしてください。

- ◆ Apache Tomcat
- ◆ Web サーバ for DPM
- ◆ SystemProvisioning Web Components

注: 旧バージョンの Apache Tomcat のアンインストールを行なう前に、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 のインストーラを起動して「SigmaSystemCenter」メイン画面を表示すると、Apache Tomcat のチェックボックスが選択可能になる場合がありますが、SigmaSystemCenter 2.1 から Apache Tomcat のインストールを行う場合は、必ず旧バージョンの Apache Tomcat をアンインストールした後に行ってください。

注:

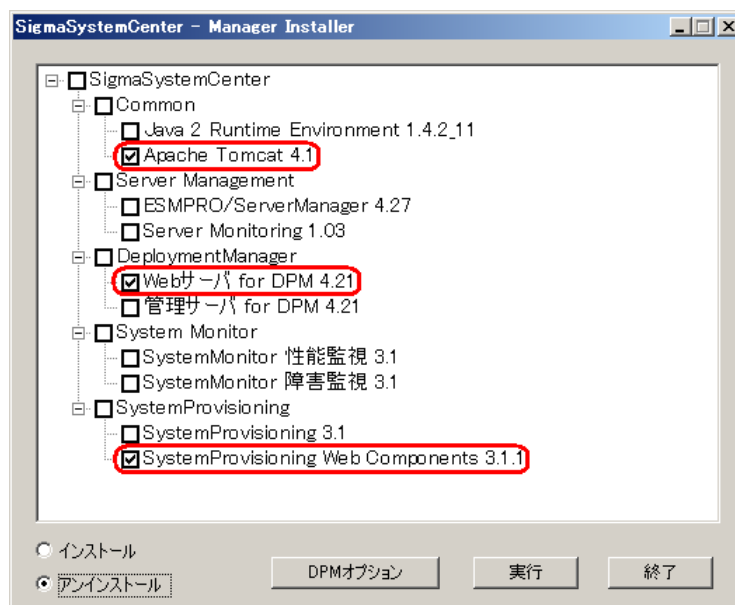
- ・ アンインストールする製品のバージョンにより、コンポーネント名称、バージョン、画面のタイトルなど一部表記が異なる場合があります。
 - ・ 上記のコンポーネントでインストールされていないものがある場合、そのコンポーネントのアンインストールは不要です。
-

3.4.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 1.2 CD-R (1/2)、もしくは SigmaSystemCenter 1.3 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入してください。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。
インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe
3. 「SigmaSystemCenter – Manager Installer」画面が表示されます。左下の [アンインストール] を選択し、Apache Tomcat、Web サーバ for DPM、および SystemProvisioning Web Components のチェックボックスをオンにします。

注: Apache Tomcat を SigmaSystemCenter のインストーラを使用せずにインストールした場合、[Apache Tomcat] チェックボックスが選択不可になります。その場合は、Web サーバ for DPM をアンインストールした後に、プログラムの追加と削除からアンインストールしてください。

3 アップグレードインストールを実行する



4. [実行] をクリックします。各コンポーネントのアンインストールが開始されます。各コンポーネントのアンインストールに関しては、次項以降の選択したコンポーネントの項を参照してください。

3.4.2. SystemProvisioning Web Componentsのアンインストール

SystemProvisioning Web Components のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「SystemProvisioning Web Components - InstallShield Wizard」が表示されます。[削除(R)] をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
2. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
3. アンインストールが正常に終了すると、「アンインストール完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で SystemProvisioning Web Components のアンインストールは完了です。

3.4.3. Webサーバ for DPMのアンインストール

Web サーバ for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] をオンにし、[次へ (N)] をクリックします。
2. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. アンインストールが正常に終了すると、「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

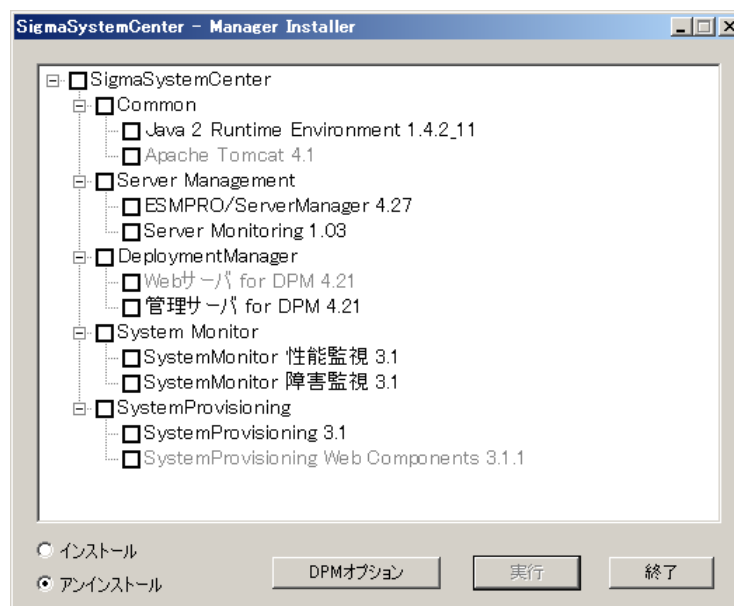
3.4.4. Apache Tomcatのアンインストール

Apache Tomcat のアンインストールが開始されます。

Apache Tomcat のアンインストール画面が表示されますが、操作はありません。アンインストールが完了するまでしばらくお待ちください。

3.4.5. アンインストールを完了するには

選択したコンポーネントのアンインストールが完了すると、「SigmaSystemCenter - Manager Installer」画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。



以上で SigmaSystemCenter 1.2、および 1.3 の事前に必要なコンポーネントのアンインストールは完了です。

「3.6 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」以降を参照し、SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードインストールしてください。

3.5. SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールに向け準備する

ご利用の環境に SigmaSystemCenter 2.0 がインストールされている場合、SigmaSystemCenter 2.1 へのアップグレードインストールを行う前に、SigmaSystemCenter 2.0 で使用されている以下のコンポーネントを先にアンインストールする必要があります。本節を参照し、以下のコンポーネントをアンインストールしてください。

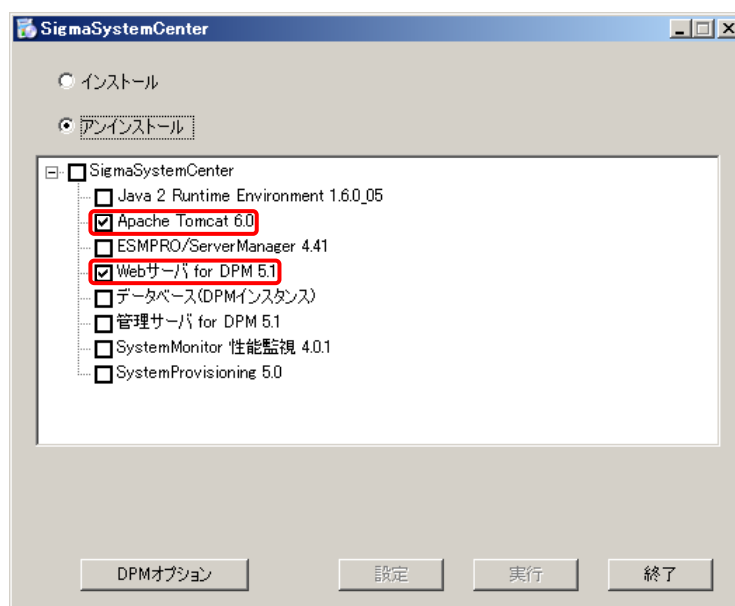
- ◆ Apache Tomcat
- ◆ Web サーバ for DPM

注:

- ・ アンインストールする製品のバージョンにより、コンポーネント名称、バージョン、画面のタイトルなど一部表記が異なる場合があります。
- ・ 上記のコンポーネントでインストールされていないものがある場合、そのコンポーネントのアンインストールは不要です。

3.5.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。
インストール CD-R: %ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。
[アンインストール] を選択し、Apache Tomcat、および Web サーバ for DPM のチェックボックスをオンにします。選択完了後、[実行] をクリックします。



注: Apache Tomcat を SigmaSystemCenter のインストーラを使用せずにインストールした場合、[Apache Tomcat] チェックボックスが選択不可になります。その場合は、Web サーバ for DPM をアンインストールした後に、プログラムの追加と削除からアンインストールしてください。

4. アンインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
5. 選択したコンポーネントのアンインストールが開始されます。各コンポーネントのアンインストールに関しては、次項以降の各コンポーネントの項を参照してください。

3.5.2. Webサーバ for DPMのアンインストール

Web サーバ for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

3.5.3. Apache Tomcatのアンインストール

Apache Tomcat のアンインストールが開始されます。

Apache Tomcat のアンインストール画面が表示されますが、操作はありません。アンインストールが完了するまでしばらくお待ちください。

3.5.4. アンインストールを完了するには

1. 選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了すると、アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。

以上で SigmaSystemCenter 2.0 の事前に必要なコンポーネントのアンインストールは完了です。

「3.6 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」以降を参照し、SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードインストールしてください。

3.6. 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する

管理サーバへ管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (ManagerSetup.exe) を起動すると、各コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

下記のコンポーネントは、インストール中にアップグレードされます。

- ◆ ESMPRO/ServerManager
- ◆ データベース (DPM インスタンス)
- ◆ 管理サーバ for DPM
- ◆ SystemMonitor 性能監視
- ◆ SystemProvisioning

3.6.1. DPMのサービスを停止する

以下の環境でのアップグレードで、管理サーバ for DPM のサービスを起動している場合は、アップグレードインストール前にサービスを停止しておく必要があります。

- ◆ BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 / 1.2 / 1.3 からのアップグレードの場合

下記の「管理サーバ for DPM のサービス停止手順」に従ってサービスを停止してください。

注: SigmaSystemCenter 1.3 からのアップグレードインストールであり、かつ修正モジュール (SSC130008-0002「管理サーバ for DPM のサービス停止時に、停止処理中状態から完了しないことがある問題を改善」) を適用している場合は、「管理サーバ for DPM のサービス停止手順」を実行する必要はありません。

SigmaSystemCenter 1.3 の修正モジュールの適用情報を確認するには、以下の手順を実行してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
 2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [DeploymentManager (管理サーバ for DPM)] を選択し、[サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください] をクリックします。
 3. [Version] に、[4.32.000] と表示されていれば、修正モジュールは適用済みです。
-

- ◆ SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレードで、データベース (DPM インスタンス) と管理サーバ for DPM を別のサーバにインストールしている場合
データベース (DPM インスタンス) をアップグレードする前に、以下の「管理サーバ for DPM のサービス停止手順」に従ってサービスを停止してください。

〈管理サーバ for DPM のサービス停止手順〉

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から "DeploymentManager" で始まるサービス (「DeploymentManager API Service」など) を選択し、[サービスの停止] をクリックして、すべての "DeploymentManager" で始まるサービスを停止します。

注: 停止しないサービスがある場合、以下の手順に従って対象サービスに該当するプロセスを強制終了した後、サービススナップインから残りのサービスを停止してください。

1. [スタート] メニューから[ファイル名を指定して実行(R)] をクリックし、[名前(O)] テキストボックスに「taskmgr」と入力し、Windows タスクマネージャを起動します。
2. [プロセス] タブを選択し、停止しないサービスに該当するプロセス (以下の表を参照) を強制終了します。

サービス名	プロセス名
DeploymentManager API Service	apiserv.exe
DeploymentManager Backup/Restore Management	bkressvc.exe
DeploymentManager Client Management	clivatch.exe
DeploymentManager client start	clistart.exe
DeploymentManager Get Client Information	depssvc.exe
DeploymentManager PXE Management	pxesvc.exe
DeploymentManager PXE Mtftp	pxemtftp.exe
DeploymentManager Remote Update Service	rupdssvc.exe
DeploymentManager Scenario Management	snrwatch.exe
DeploymentManager Schedule Management	schwatch.exe
DeploymentManager Transfer Management	ftsvc.exe

3.6.2. インストール (アップグレード) を実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。
インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。
[インストール] をクリックし、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。本バージョンのコンポーネントが既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

注:

- ・ インストール先フォルダ、SQL Server 2005 Express Edition のインスタンス名、インストール先フォルダ、データベースのインストール先フォルダ、および Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

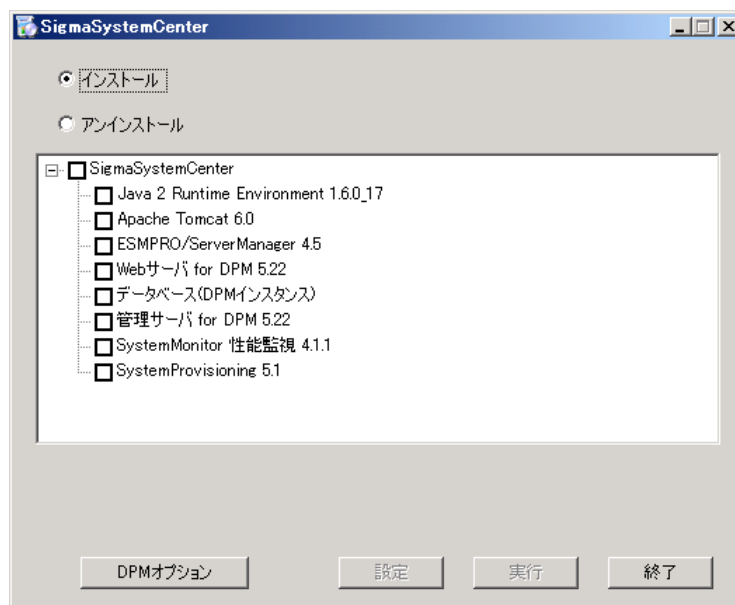
既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。

- ・ SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレードの場合は、[設定] をクリックして、「設定」画面で [既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、アップグレード前に使用していた SQL のインスタンス名を指定してください。

[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択しないでください。選択した場合、新規に SQL のインスタンスがインストールされますが、そのインスタンスは使用されません。

- ・ SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレードで、アップグレードインストール前に SystemProvisioning の構成情報データベースをリモートの SQL に構築していた場合、[設定] をクリックして、「設定」画面で [既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、ローカルにインストールされている SQL インスタンス名を指定してください。ローカルに SQL インスタンスがインストールされていない場合は、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択してください。

3 アップグレードインストールを実行する



インストール	インストールを行います。
アンインストール	アンインストールを行います。
SigmaSystemCenter	この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。
Java 2 Runtime Environment	Java 2 Runtime Environmentをインストールします。
Apache Tomcat	Apache Tomcatをインストールします。 この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。
ESMPRO/ServerManager	ESMPRO/ServerManagerをインストールします。
Web サーバ for DPM	Webサーバ for DPMをインストールします。 この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment]、[Apache Tomcat] も自動的に選択されます。
データベース (DPM インスタンス)	データベース (DPMインスタンス) をインストールします。
管理サーバ for DPM	管理サーバ for DPMをインストールします。 この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。
SystemMonitor 性能監視	SystemMonitor性能監視をインストールします。
SystemProvisioning	SystemProvisioningをインストールします。 IIS 6.0以降がインストールされている場合のみ選択可能です。
DPM オプション	「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。

[設定]	設定画面を表示します。 インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[実行]	インストールを実行します。 インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[終了]	メイン画面を閉じます。

4. 「設定」画面が表示されます。

各項目は、メイン画面で対象コンポーネントを選択した場合のみ、選択 / 入力可能となります。必要に応じて各項目を選択 / 入力し、[OK] をクリックします。

3 アップグレードインストールを実行する

インストール先フォルダ	SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningのインストール先フォルダを指定します。 80文字まで入力できます。 既定値は (%ProgramFiles%\¥NEC) です。
SQL Server 2005	SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningが使用するSQL Server 2005の設定を行います。
SQL Server 2005 Express Editionをインストールする	ローカルマシン上に新規にSQL Server 2005 Express Editionのインスタンスをインストールします。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。 Windows認証モードでインストールされます。 既定で選択されています。
インスタンス名	SQLのインスタンス名を指定します。 16文字まで指定できます。 既定値は (SSCCMDB) です。
インストール先フォルダ	SQLのインストール先フォルダを指定します。 57文字まで入力できます。 既定値は (%ProgramFiles%\¥Microsoft SQL Server) です。
データベースのインストール先フォルダ	SQLのデータベースのインストール先フォルダを指定します。 57文字まで入力できます。 既定値は (%ProgramFiles%\¥Microsoft SQL Server) です。 実際のインストール先パスは "指定したインストール先フォルダ¥MSSQL.n¥MSSQL¥Data" になります (MSSQL.n はインスタンスIDです。n にはインストールされるコンポーネントの序数が入ります)。
既に存在するSQL Server 2005 インスタンスを使用する	ローカルマシン上にSQL Server 2005がインストールされている場合、既存のインスタンスにデータベースを作成します。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。
インスタンス名	SQLのインスタンス名を指定します。 SigmaSystemCenter 1.3以前からのアップグレードの場合、SigmaSystemCenterのアップグレードインストール前に使用していたインスタンスを指定することはできません。 16文字まで入力できます。 既定値は (SSCCMDB) です。
Windows ファイアウォール	Webサーバ for DPM、データベース (DPMインスタンス)、管理サーバ for DPM、SystemMonitor性能監視、およびSystemProvisioningに関するWindowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。

何もしない (新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。)	この項目を選択した場合、アップグレードインストール前の情報を引き継ぎます。ただし、SystemProvisioningに関しては、以前の情報を引き継ぎません。
例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加し、通信ブロックを解除します。既定で選択されています。
例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。 後に手動で通信ブロックを解除する必要があります。
[OK]	設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。
[キャンセル]	設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。

注: SigmaSystemCenter 1.3 以前からのアップグレードインストールの場合、データベース (DPM インスタンス) は、コンポーネントのインストール (アップグレード) 中にインストール先フォルダを変更できます。SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレードインストールの場合は、変更できません。

また、Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat、ESMPRO/ServerManager、Web サーバ for DPM、および管理サーバ for DPM のインストール先フォルダは、アップグレード前のバージョンに関わらず、変更できません。

注: 「設定」画面の [Windowsファイアウォール] の指定で [何もしない] を選択した場合、SystemProvisioningは以前の情報を引き継がないため、インストール完了後に手動で例外リストにプログラム、またはポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

注:

- ・ SQL のインスタンスが既に存在している状態で、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは既に存在しています。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。既存のインスタンスを使用する場合、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択してください。
- ・ SQL のインスタンスが存在していない状態で、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは存在しません。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。インスタンスをインストールする場合、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択してください。

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. アップグレードインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックします。
7. 選択したコンポーネントのインストール (アップグレード) が開始されます。

「SigmaSystemCenter」メイン画面でインストールするコンポーネントにデータベース (DPM インスタンス)、SystemMonitor 性能監視、SystemProvisioning のいずれかを選択した場合、最初に .NET Framework 3.5 Service Pack 1 がインストールされます。 .NET Framework のインストール終了後、システムの再起動が必要な場合はシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。 [はい(Y)] をクリックした場合、自動的にシステムの再起動が実施されます。

[いいえ(N)] をクリックした場合、インストーラが終了しますので、手動でシステムの再起動を行ってください。コンポーネントをインストールする前に必ずシステムの再起動を行ってください。

システムの再起動後、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。「3.6.1 DPMのサービスを停止する」に従って、管理サーバ for DPMのサービスを停止した後、再度コンポーネントを選択し、必要に応じて「設定」画面にて再度設定した後、[実行] をクリックしてください。

SQL Server 2005 Express Edition がインストールされるよう設定した場合、SQL Server 2005 Express Edition がインストールされます。このインストールは完了まで数分かかります。

.NET Framework、および SQL Server 2005 Express Edition のインストール完了後、各コンポーネントのインストール (アップグレード) を開始します。各コンポーネントのインストール (アップグレード) に関しては、次項以降の各コンポーネントの項を参照してください。

3.6.3. Java 2 Runtime Environmentのインストール

Java 2 Runtime Environment を選択した場合、Java 2 Runtime Environment のインストールが開始されます。

Java 2 Runtime Environment のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

3.6.4. Apache Tomcatのインストール

Apache Tomcat を選択した場合、Apache Tomcat のインストールが開始されます。

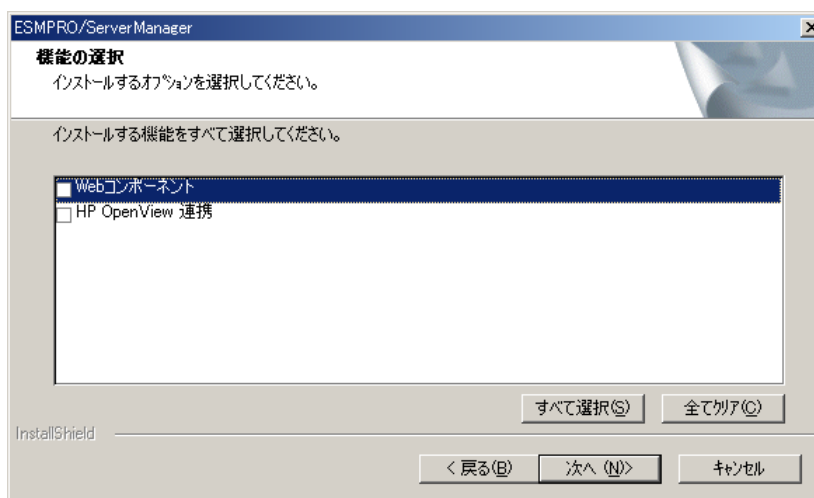
Apache Tomcat のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

3.6.5. ESMPRO/ServerManagerのアップグレードインストール

ESMPRO/ServerManagerを選択した場合、ESMPRO/ServerManagerのアップグレードインストールが開始されます。以下の手順に従い、アップグレードインストールを進めてください。

注: このコンポーネントを選択した場合選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストール (アップグレード) が終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

1. アップグレードインストール確認の「問い合わせ」ダイアログボックスが表示されます。
[はい(Y)] をクリックし、アップグレードインストールを実行します。
2. 環境によっては、「機能の選択」ウィザードが表示されることがあります。
追加する機能のチェックボックスをオンにします。既に追加されている機能については表示されません。
機能を選択し、[次へ(N)] をクリックします。



Web コンポーネント	WebブラウザからESMPRO/ServerManagerへのアクセスを有効にします。Internet Information Servicesがインストールされている場合に表示され選択可能となります。
HP OpenView 連携	HP OpenViewとの連携を行います。HP OpenView Network Node Managerが管理サーバにインストールされている場合に表示され選択可能となります。

3. 「ファイルコピーの開始」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
4. 「ESMPRO/Base セットアップ」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
5. アップグレードインストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上で ESMPRO/ServerManager のアップグレードインストールは完了です。

注: アップグレードインストールをする際は、以下の点について注意してください。

- ・ Windows Server 2008 R2 において ESMPRO/ServerManager のインストールを実行すると、エクスプローラが動作を停止したとメッセージが表示される場合があります。ただし、インストールは正常に完了しており、システムに影響はありません。
 - ・ インストール完了後、環境によっては「このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」のメッセージが表示される場合があります。インストールは正常に完了していますので、[このプログラムは正しくインストールされました]、または [キャンセル] をクリックして終了してください。
-

3.6.6. Webサーバ for DPMのインストール

Web サーバ for DPM を選択した場合、Web サーバ for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

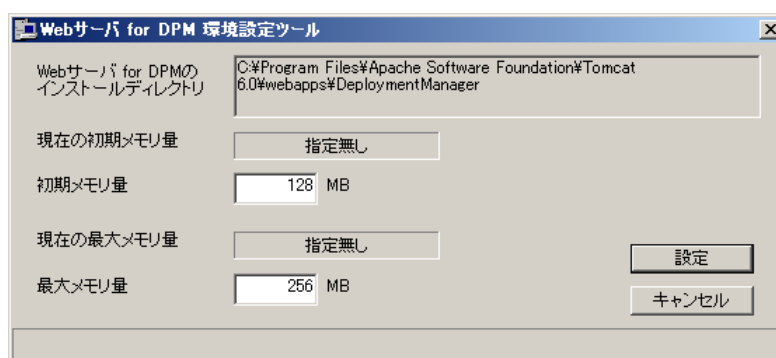
注: インストール先のフォルダは変更しないでください。

フォルダの既定値を変更し、インストールした場合、Web サーバ for DPM が正常に動作しない可能性があります。この場合、Web サーバ for DPM をアンインストールし、再度インストールする必要があります。

2. インストール中に「Web サーバ for DPM 環境設定ツール」ダイアログボックスが表示されます。Web サーバ for DPM が使用するメモリを 128～512MB の範囲で入力し、[設定] をクリックします。

注: 通常の使用では、初期メモリ量を「128」MB から変更する必要はありません。

Apache Tomcat 上で作動するソフトウェア (Web サーバ for DPM を除く) の初期メモリ量が 128MB ではない場合、この値を変更してください。



3. Web サーバサービス (Apache Tomcat) の再起動を要求するダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. 「Web サーバサービス (Apache Tomcat) の起動に成功しました。」というダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
5. 「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のインストールは完了です。

3.6.7. データベース (DPMインスタンス) のアップグレードインストール

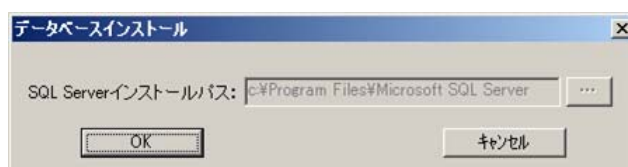
データベース (DPM インスタンス) を選択した場合、データベース (DPM インスタンス) のインストールが開始されます。

以下のいずれかからアップグレードする場合は、新規インストールと同じ手順となりますので、「2.3.6 データベース (DPMインスタンス) のインストール」に記載の手順に従って、インストールしてください。

- ◆ BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1
- ◆ SigmaSystemCenter 1.2、1.3

SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードする場合は、以下の手順に従って、アップグレードインストールを進めてください。

1. 「データベースインストール」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。



2. インストールが開始されます。インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。インストールは完了まで数分かかります。

3. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でデータベース (DPM インスタンス) のインストールは完了です。

3.6.8. 管理サーバ for DPMのアップグレードインストール

管理サーバ for DPM を選択した場合、管理サーバ for DPM のアップグレードインストールが開始されます。以下の手順に従い、アップグレードインストールを進めてください。

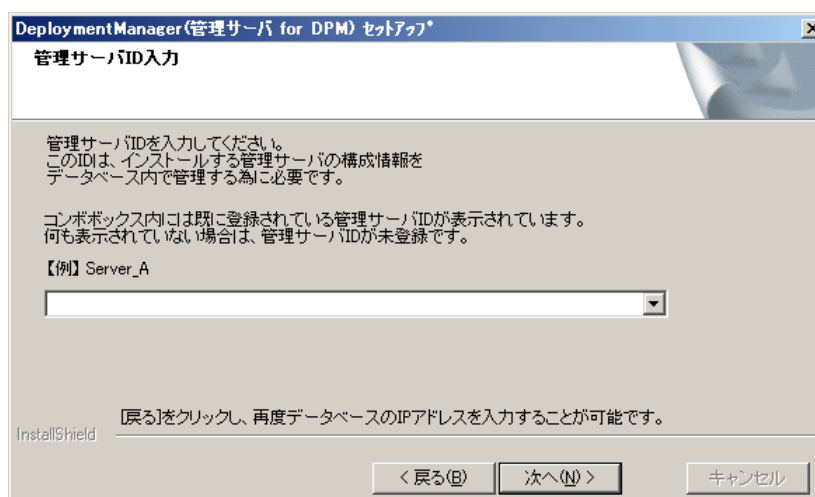
1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[上書きインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 上書きインストール確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックし、インストールを開始します。

注: BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter からアップグレードする場合は、コンピュータ情報とイメージファイル (サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル、アプリケーション) のコンバートツールが起動しますので、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「22.3.2 DPM Ver3.0 以降からの上書きインストール」の「(9)～(11)」を参照してください。

3. 「データベースサーバ IP アドレス入力」ウィザードが表示されます。データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

4. 「管理サーバ ID 入力」ウィザードが表示されます。任意の ID を入力し、[次へ] をクリックします。

注: 既に管理サーバIDが登録されているデータベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを指定したにも関わらず、プルダウンボックス内に管理サーバ ID が表示されていない場合は、データベースへの接続に失敗した可能性があります。画面の指示に従い、再度データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力してください。



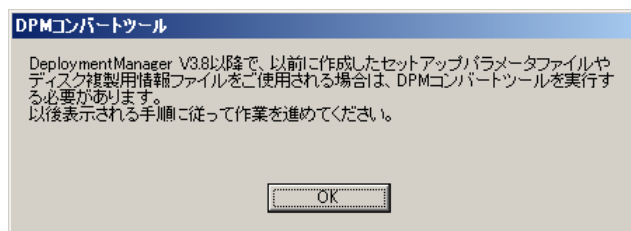
5. インストールの途中でパラメータファイルのコンバートツールが起動します。SigmaSystemCenter 2.1 では、コンバートツールを起動する必要がありません。以下の操作に従ってコンバートツールの起動をキャンセルしてください。

1. 最新バージョンの CD-R から OS イメージを再作成するよう促すダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

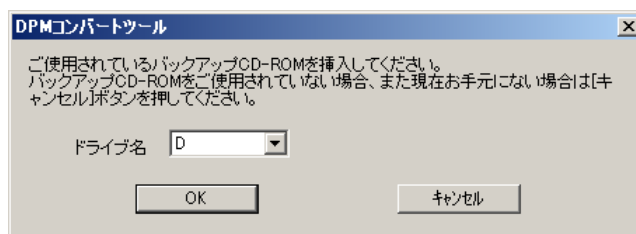


3 アップグレードインストールを実行する

2. コンバートツール起動確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。



3. CD-R の挿入を促すダイアログボックスが表示されます。[キャンセル] をクリックし、コンバートツールの起動をキャンセルします。



6. アップグレードインストールが正常に終了すると、「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で管理サーバ for DPM のアップグレードインストールは完了です。

3.6.9. SystemMonitor性能監視のアップグレードインストール

SystemMonitor 性能監視を選択した場合、SystemMonitor 性能監視のアップグレードインストールが開始されます。

アップグレードインストール中の操作はありません。

3.6.10. SystemProvisioningのアップグレードインストール

SystemProvisioning を選択した場合、SystemProvisioning のアップグレードインストールが開始されます。

アップグレードインストール中の操作はありません。

注:

- このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストール (アップグレード) が終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

- インストール中に「Microsoft SQL Server Desktop Engine」ダイアログボックスが表示される場合があります。その場合、[無視] をクリックしてください。

- アップグレードインストール時にアップグレード可能な構成情報データベースの容量の目安は仮想マシン 5000 台となっております。

それを超える容量であれば、構成情報データベースのエラーメッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合の詳細と対処方法については、「5.1.1 アップグレードインストール時に構成情報データベースのコンバートに失敗する」を参照してください。

- SIGMABLADE controllerをサブシステムとして追加した状態でアップグレードインストールを実行するとエラーメッセージが表示されます。詳細と対処方法については「5.1.3 SIGMABLADE controllerが登録された状態でのアップグレード時のエラー」を参照してください。

- アップグレードインストール中に画面が表示されない場合がありますが、そのままの状態ですばらくお待ちください。

- アップグレードインストールを実行すると構成情報データベースのバックアップがインストール環境の以下のパスに保存されます。アップグレードインストールが完了すると、保存された構成情報データベースのバックアップは不要ですので、削除してください。

- SigmaSystemCenter 1.3 以前からのアップグレードの場合:

`%Windows%\system32\pvminf\YYYYMMDDhhmmss.dat ※1`

例)

`C:\Windows\system32\pvminf\20090703123456.dat`

- SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレードの場合:

`%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server¥`

`MSSQL.x¥MSSQL¥Backup¥pvminf\YYYYMMDDhhmmss.dat ※2`

例)

`C:\Program Files¥Microsoft SQL Server¥`

`MSSQL.1¥MSSQL¥Backup¥pvminf\20090703123456.dat`

※1 YYYYMMDDhhmmss は、構成情報データベースをバックアップした日時です。

例) の場合は、2009 年 7 月 3 日 12 時 34 分 56 秒を意味します。

※2 MSSQL.x の x は、DB インスタンス数によって、自動で採番されるため、
"%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server\MSSQL.x\MSSQL\Data" の下に、
"pvminf.mdf" が存在する階層を指します。
"pvminf.mdf" が "MSSQL.1" の下にあれば、バックアップの位置も "MSSQL.1" の階層
になります。

3.6.11. インストール (アップグレード) を完了するには

1. 選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. ESMPRO/ServerManager、あるいは SystemProvisioning を選択した場合は、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。再起動を促すダイアログボックスが表示された場合、インストーラを終了した後システムを再起動する必要があります。[OK] をクリックしてください。
3. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。
インストーラが終了します。
4. システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。

以上で管理サーバコンポーネントの個別のインストール (アップグレード) は完了です。
「3.7 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照し、必要に応じてアップグレード後の設定を行ってください。

3.6.12. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする

管理サーバ for DPM (HP-UX) はアップグレードインストールをサポートしていません。以前のバージョンのアンインストールを行った後、本バージョンの管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールを行う必要があります。

管理サーバ for DPM (HP-UX) は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストール / アンインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 から個別にインストールする必要があります。

以前のバージョンのアンインストールについては、インストールされているバージョンの DeploymentManager (HP-UX 版) のユーザズガイドを参照してください。

本バージョンのインストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザズガイド導入編」の「2.2 管理サーバマシンのセットアップ (Windows プラットフォーム編)」を参照してください。

3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に

アップグレードインストール完了後に別途必要な設定があります。SigmaSystemCenter 2.1 のアップグレードインストールが完了した後、インストール環境、およびインストール（アップグレード）したコンポーネントに応じて本節の設定を行ってください。

3.7.1. .NET Framework 3.5 Service Pack 1 をインストールした場合

データベース（DPM インスタンス）、SystemMonitor 性能監視、SystemProvisioning のいずれかをアップグレードした場合、.NET Framework 3.5 Service Pack 1 がインストールされます。この場合、すべてのコンポーネントのインストール（アップグレード）が完了した後、更新プログラム KB959209 のインストールを推奨します。更新プログラムの詳細、およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

3.7.2. SigmaSystemCenter 1.3 以前のSystemMonitor 障害監視がインストールされている場合

SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンで SystemMonitor 障害監視をインストールしていた場合、アップグレードインストールの終了後、手動でアンインストールする必要があります。以下の手順に従ってアンインストールしてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [SystemMonitor] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. アンインストールが正常に終了すると、「アンインストール完了」ウィザードが表示されず。[完了] をクリックします。

以上で SystemMonitor 障害監視のアンインストールは完了です。

3.7.3. 管理サーバ for DPMをアップグレードインストールした場合

管理サーバ for DPMをアップグレードインストールした場合、すべてのアップグレードインストールが終了後、クライアントサービス for DPMのアップグレードインストールを行ってください。

クライアントサービス for DPMのアップグレードインストールについては、本書「3.8 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする」、および「DeploymentManagerユーザズガイド基本操作編」の「22.5 クライアントサービス for DPMの上書きインストール」を参照してください。

3.7.4. ESMPRO/ServerManagerをアップグレードインストールした場合

ESMPRO/ServerManagerは、SigmaSystemCenter のインストーラからWindowsファイアウォールの指定を行なうことはできないため、すべてのコンポーネントのインストール（アップグレード）が完了した後、手動で例外リストにポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

3.7.5. Webサーバ for DPMをインストールした場合

- ◆ Web サーバ for DPM をインストールした場合、Java Plug-in の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントのインストール（アップグレード）が完了した後、「DeploymentManager ユーザズガイド基本操作編」の「22.1 Web サーバ for DPMの上書きインストール」の「(14)～(20)」を参照し、Java Plug-in の設定を行ってください。
- ◆ アップグレードインストールを行う前にDPMのWebコンソールに登録していた管理サーバを、アップグレードインストール後に再登録する必要があります。ここで再登録する管理サーバ名は、アップグレードインストール前に登録していた名前と大文字 / 小文字を含めて同じ名前登録してください。（「3.2.6 アップグレードインストール前の設定値の確認」の手順 1 で確認した管理サーバ名を登録してください。）
手順については、「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「2.7.2. 管理サーバ for DPMを登録するには」を参照してください。
- ◆ アップグレードインストールを行う前に、「Webコンソール設定」画面で設定をしていた値を再設定してください。詳細については、「3.2.6 アップグレードインストール前の設定値の確認」を参照してください。

3.7.6. Apache Tomcatをインストールした場合

アップグレードインストール前に Apache Tomcat のポート番号を既定値 (8080) から変更していた場合、アップグレードインストール後に同じポート番号に変更する必要があります。

アップグレードインストール前にポート番号を既定値から変更していない場合は、本手順を実施する必要ありません。

「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「2.7.1. DPM の Web コンソールを起動するには」の Tomcat に関する注意事項を参照して、Tomcat が使用するポート番号を変更してください。

変更後のポートには、「3.2.6 アップグレードインストール前の設定値の確認」の手順 2 でバックアップした Server.xml と同じポートを指定してください。

3.7.7. SystemMonitor性能監視をアップグレードインストールした場合

- ◆ SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードインストールした場合、以前のバージョンの SystemMonitor 性能監視で利用していたデータベースのインスタンスは削除されません。アンインストールが必要な場合、手動でアンインストールする必要があります。以下の手順に従ってアンインストールしてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から、以前のバージョンで利用していたデータベースのプログラムを選択し、[削除] をクリックします。既定の設定でデータベースを利用していた場合、プログラム名は、「Microsoft SQL Server Desktop Engine (RM_PFMDBIS)」です。
3. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. アンインストールが正常に終了すると、ダイアログが自動で閉じます。プログラム一覧から対象のプログラムが削除されたことを確認します。

- ◆ Linux 管理対象マシンが、StoragePathSavior によるパス冗長構成である場合、サービス設定ファイルの編集が必要になります。

詳細については、「SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド」の「10.6 アップグレード時 / パッチ適用時の注意事項」を参照してください。

3.7.8. SystemProvisioningをアップグレードインストールした場合

- ◆ SystemProvisioning のアップグレードインストールを行った場合には、SigmaSystemCenter の使用を開始する前に、以下の手順に従って、ライセンスの置き換えを行ってください。ライセンスの置き換え中に、マシンの稼働、仮想マシンの作成などの処理を実行するとライセンス不足によりエラーとなりますのでご注意ください。

注:

- SigmaSystemCenter 1.3 以前からアップグレードの場合は、旧バージョンのライセンスの削除は不要です。
 - 以下の手順 4、5、6、または 7 を実施すると、「PVMサービスを再起動し、ライセンスを有効化してください。」というメッセージが表示されますが、メッセージが表示されるたびに再起動する必要はありません。
-

1. SigmaSystemCenter Web コンソールを起動して、[管理] ビューに切り替えます。
2. [管理] ツリーから [ライセンス] アイコンをクリックします。
3. メインウィンドウに旧バージョンのライセンスの詳細情報が表示されます。
4. エディションライセンス以外のライセンスキーのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
5. エディションライセンスのチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。
6. [ライセンスキー] テキストボックスに、新バージョンのエディションライセンスのライセンスキーを入力して、[追加] をクリックします。
7. 新バージョンの残りのライセンスキーを順次、追加します。
8. SystemProvisioning を再起動します。

ご利用の環境に応じて、以下の手順を実行してください。

- ◆ SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードインストールした場合

以前のバージョンで使用していた製品やコンポーネントの設定が引き継がれず、再度設定が必要となるものがあります。「3.7.9 SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードした場合」を参照し、再度設定を行ってください。

- ◆ アップグレードインストール前に構成情報データベースをリモートの SQL に構築していた場合 (SigmaSystemCenter 1.3 以前からのアップグレード)

SigmaSystemCenter 1.3 以前からのアップグレードで、アップグレードインストール前に SystemProvisioning の構成情報データベースをリモートの SQL に構築していた場合、SigmaSystemCenter 2.1 へアップグレードインストールした際に、ローカルの SQL にデータベースが構築されます。

アップグレードインストール後に「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」の「付録 B 構成情報データベースの移行」を参照して構成情報データベースをリモートの SQL に再構築してください。

- ◆ 設定ファイルの書き換えを行っていた場合 (SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレード)

SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードした場合、以下のファイルは SigmaSystemCenter 2.1 の初期ファイルで上書きされます。

SystemProvisioning インストールフォルダ配下
(既定値: C:\Program Files\NEC\PVM\)

bin\PVMServiceProc.exe.config
bin\pvmutil.exe.config
bin\EsmEvents.xml
Provisioning\Web.config
Provisioning\Log4net.config

アップグレード前のファイルは SystemProvisioning インストールフォルダ配下の backup フォルダに保存されますので、SigmaSystemCenter 2.0 で上記ファイルを書き換えていた場合は、アップグレード後に手動で再修正を行ってください。

- ◆ EMC Storage (CLARiX) を使用している場合
 - SigmaSystemCenter 1.3 以前からのアップグレードの場合
SigmaSystemCenter ストレージの設定情報は引き継がれません。「3.7.9 SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードした場合」を参照し、再度設定を行ってください。
 - SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレードの場合
停止中のホストに設定されている HBA とストレージの情報は引き継がれません。以下の手順に従って、再度ストレージ情報の収集 / 登録を行ない、HBA をホストに登録してください。グループで稼働中のホストに設定されている HBA とストレージの情報は引き継がれますので、再設定の必要はありません。

ストレージの情報を収集して SigmaSystemCenter の管理対象としてディスクボリュームを登録してください。

⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.5. ストレージを登録する」を参照。

ディスクボリュームの登録後、接続する HBA について、以下のいずれかの方法で再設定してください。

- コマンドより接続する HBA を再登録後、HBA をホストに設定してください。
⇒「ssc コマンドリファレンス」の「2.12.3 HBA の設定」を参照。
⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.11.3 [ストレージ] タブを設定するには」を参照。

- 各ストレージの事前設定の手順を参照して、ストレージグループに論理ディスクとホストを割り当て、HBA 情報を収集した後、HBA をホストに設定してください。
⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「2.4.1 各ストレージの事前設定を行う」を参照。
⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.11.3 [ストレージ] タブを設定するには」を参照。

HBAに接続されているSP情報と、異なるSP情報（ディスクボリューム）をホストに設定した場合、アップグレードインストールでホスト設定にディスクボリュームが設定されません。確認や対処については、「3.2.2 アップグレードインストールを行う際の注意」を参照してください。

- ◆ I/O 仮想化機構制御用ローカルスクリプトを使用していた場合
SigmaSystemCenter 2.1 Update 2 で、I/O 仮想化ブレードを制御する機能のサポートを終了しました。I/O 仮想化機構を利用する場合は、SIGMABLADE controllerを利用してください。

3.7.9. SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードした場合

SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードインストールを行った場合には、アップグレードインストールを行った後に以下の設定が必要です。

- ◆ 使用していた関連製品を SigmaSystemCenter 2.1 で使用するには
SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンで使用していた関連製品を
SigmaSystemCenter 2.1 で使用するには、アップグレードインストールを行った後サブシステムとして登録する必要があります。

Web サーバ for DPM、VMware vCenter Server、および VMware ESX Server については、以前のバージョンに設定していた情報がアップグレード後に引き継がれるため、サブシステムとしての登録は不要です。

注: Web サーバ for DPM の情報は、アップグレードインストール後の SystemProvisioning 初回起動時にデータの引継ぎ処理が行われます。

以下の関連製品はアップグレードインストールを行った後、サブシステムとして登録が必要です。以下の製品について登録を行ってください。手順については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.2 サブシステムを追加する」を参照してください。

- 管理サーバ for DPM (HP-UX)
- WebSAM NetvisorPro
- スイッチブレード
- ストレージ管理サーバ

注: SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンでは、SigmaSystemCenter として XenServer、Hyper-V、および ESXi をサポートしていませんでした。これらの製品を使用する場合、SystemProvisioning に登録を行う必要があります。

- ◆ 仮想環境を管理するためのポリシーの再設定
SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでは、VM 最適配置機能や省電力機能が追加され、仮想マシンサーバの管理機能が強化されました。
SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンでは、仮想環境を管理するためのポリシーは、SystemProvisioning が管理するすべての仮想マシンサーバに対して一律に適用されていましたが、SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでは、運用グループ単位にポリシーを設定することができるようになりました。これらの機能強化に伴い、仮想環境を管理するためのポリシーの再設定が必要となります。

SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンからアップグレードインストールを行った場合、既存のポリシー設定内容は、SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでのポリシーの形式に変換されます。ただし、仮想マシン単体の移動系ポリシーアクションは、

SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されたため、廃止されたポリシーアクションを登録していたポリシー設定は "何もしない" に変換されます。

変換されたポリシーは、[管理] ビューのポリシーの詳細情報画面から確認することができます。

変換されたポリシーは、仮想マシン用の運用グループに自動的に登録されます。必要に応じて設定内容の見直しを行ってください。

また、SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでは、仮想マシンサーバを管理対象マシンとして管理します。アップグレード後に、仮想マシンサーバを登録した運用グループを作成して仮想マシンサーバ用のポリシーを登録してください。仮想マシンサーバ用の標準ポリシー、変換された既存ポリシー、またはユーザが作成する専用のポリシーを使用することができます。

⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.9 ポリシーを作成する」、および「6. マシンを運用するための操作 ([運用] ビュー)」を参照。

また、VM 最適配置機能を利用する場合は、以下を参照して設定を行ってください。

⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「5.3 VM 最適配置機能を設定する」を参照。

◆ EMC Storage (Symmetrix / CLARiX) を管理としている場合

SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでは、EMC Storage についても、iStorage と同様の設定で SigmaSystemCenter から構成変更できるようになりました。そのため、SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンで EMC Storage を管理していた場合、ストレージの設定情報は引き継がれません。以下の内容について再設定してください。

Symmetrix、または CLARiX のストレージ管理サーバをサブシステムに登録した後、ストレージの情報を収集して SigmaSystemCenter の管理対象として登録してください。

⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.5. ストレージを登録する」を参照。

Symmetrix、または CLARiX に接続する HBA について、収集した HBA に設定し直してください (SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでは、CLARiX、および Symmetrix の HBA は、"-" (ハイフン) 区切りのアドレスになっています)。

⇒「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.11.3 [ストレージ] タブを設定するには」を参照。

注: SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンで作成、使用していた CLARiX、Symmetrix ストレージ制御のためのローカルスクリプトは、SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでは使用できません。削除するか、使用しないよう注意してください。

◆ スイッチブレードを管理している場合

SigmaSystemCenter 2.0 以降のバージョンでは、スイッチブレードをサブシステムとして登録し、マシンのネットワーク設定と関連付けて、スイッチブレードを VLAN 制御するようになりました。

SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンでは、VLAN やポートは管理していましたが、スイッチブレードにマシンの NIC 番号の設定は必要ありませんでした。

そのため、アップグレード後にサブシステムとしてスイッチブレードを登録することで、VLAN やポートの設定は運用グループや NIC へ引き継がれますが、マシンの NIC 番号は設定されていないため、引き継がれません。
スイッチブレードをサブシステムとして登録した後、グループプロパティの VLAN 情報をいったん削除し、NIC 番号の設定を含めて再度設定してください。
⇒「SigmaSystemCenter リファレンスガイド Web コンソール編」の「4.6.5. [VLAN 設定] タブ」を参照。

3.7.10. SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードした場合

SigmaSystemCenter 2.1 Update3 で、SigmaSystemCenter は SQL Server 2005 Express Edition Service Pack 3 をインストールするようになりました。

SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールした場合、SigmaSystemCenter が使用するインストール済みの SQL Server 2005 インスタンスに対して Service Pack 3 は適用されません。

すべてのコンポーネントのインストール（アップグレード）が完了した後、SQL Server 2005 インスタンスに Service Pack 3 を適用することを推奨します。

SQL Server 2005 インスタンスに Service Pack 3 を適用するには「付録 D Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3 適用手順」を参照してください。

3.8. 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする

次節以降では、管理対象マシンコンポーネント (クライアントサービス for DPM) をアップグレードインストールする手順を説明します。

ESMPRO/ServerAgent は、SigmaSystemCenter のアップグレードに合わせてアップグレードを行う必要はありません。

管理対象マシンの OS によって、アップグレードインストール方法が異なります。

ご利用の環境に応じて対応する節を参照してください。

- ◆ Windows (x86 / x64) 管理対象マシンの場合
「3.9 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」
または
「3.13 クライアントサービス for DPMを自動でアップグレードする」を参照してください。
- ◆ Windows (IPF) 管理対象マシンの場合
「3.10 Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」
または
「3.13 クライアントサービス for DPMを自動でアップグレードする」を参照してください。
- ◆ Linux 管理対象マシンの場合
「3.11 Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする」
または
「3.13 クライアントサービス for DPMを自動でアップグレードする」を参照してください。
- ◆ HP-UX 管理対象マシンの場合
「3.12 HP-UX管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。
- ◆ VMware ESX 管理対象マシンの場合
「3.11 Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。
- ◆ Citrix XenServer 管理対象マシンの場合
「3.11 Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。
- ◆ Microsoft Hyper-V 管理対象マシンの場合
「3.9 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」
または
「3.13 クライアントサービス for DPMを自動でアップグレードする」を参照してください。

- ◆ 管理対象マシンが仮想マシン場合
仮想マシンの OS により、
「3.9 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」
または、
「3.11 Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してインストール
してください。
自動でアップグレードを行う場合は、「3.13 クライアントサービス for DPMを自動でアップ
グレードする」を参照してください。

3.9. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (AgentSetup.exe) を起動すると、コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

詳細は次項以降を参照してください。

注: 本章のアップグレードインストール手順は SigmaSystemCenter 1.2 以降のバージョンからアップグレードインストールする場合にのみ適用されます。

SigmaSystemCenter 1.1 以前のクライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする場合は、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「23.5 クライアントサービス for DPM の上書きインストール」を参照してください。

3.9.1. アップグレードインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

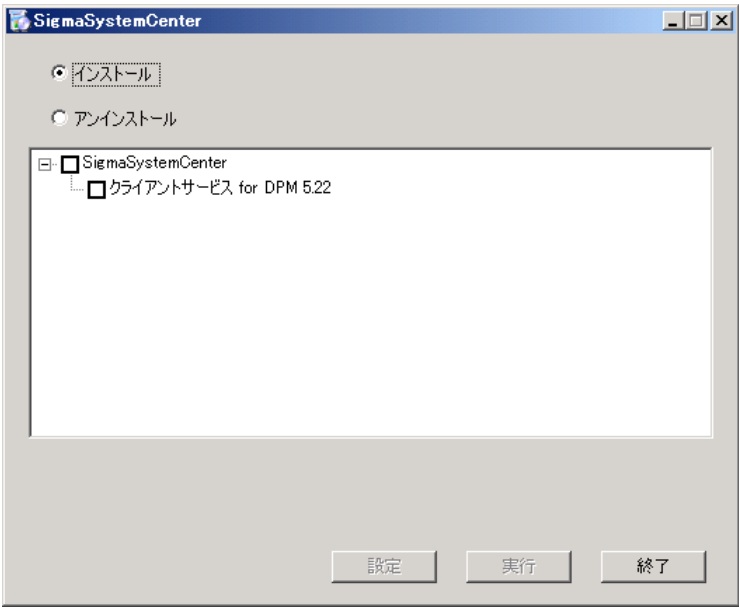
インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[インストール] をクリックし、[SigmaSystemCenter]、もしくは [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスをオンにします。本バージョンのクライアントサービス for DPM が既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

注: Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。

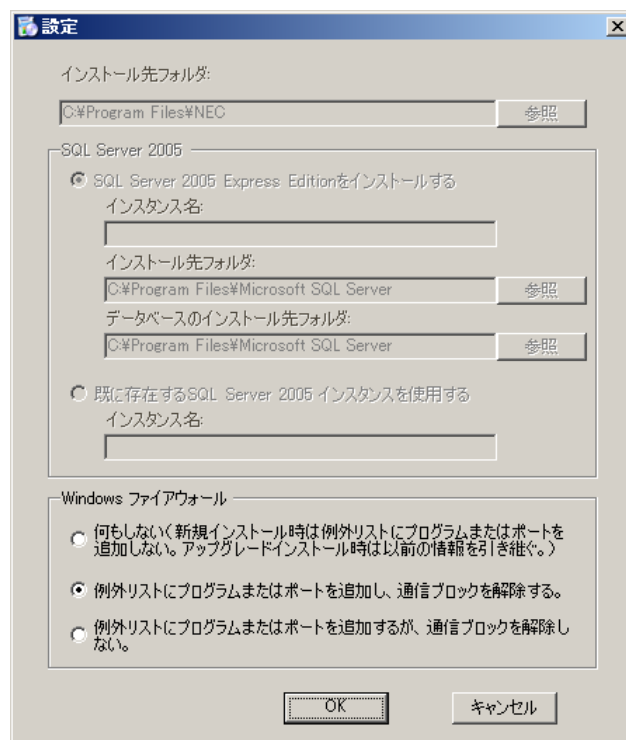


インストール	インストールを行います。
アンインストール	アンインストールを行います。
SigmaSystemCenter	この項目を選択した場合、以下のすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。
クライアントサービス for DPM	クライアントサービス for DPMをインストールします。
[設定]	設定画面を表示します。 インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[実行]	インストールを実行します。 インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[終了]	メイン画面を閉じます。

3 アップグレードインストールを実行する

4. 「設定」画面が表示されます。

[Windows ファイアウォール] グループボックス内の設定を選択し、[OK] をクリックします。



インストール先フォルダ	入力不可です。
SQL Server 2005	以下の項目は選択 / 入力不可です。
Windows ファイアウォール	クライアントサービス for DPMに関するWindowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。
何もしない (新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。)	この項目を選択した場合、アップグレードインストール前の情報を引き継ぎます。
例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加し、通信ブロックを解除します。既定で選択されています。
例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。	この項目を選択した場合、例外リストにプログラム、またはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。 後に手動で通信ブロックを解除する必要があります。
[OK]	設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。
[キャンセル]	設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. インストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
7. クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが開始されます。クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールに関しては、次項を参照してください。

3.9.2. クライアントサービス for DPMのアップグレードインストール

クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが開始されます。以下の手順に従い、アップグレードインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[上書きインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. インストール確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックし、インストールを開始します。
3. 「IP アドレスの入力」ウィザードが表示されます。[IP アドレス] テキストボックスに管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力し、[次へ(N)] をクリックします。

注: 管理サーバ for DPM の IP アドレスが不明な場合や変更される場合は、一時的な IP アドレスを入力してください。空白のまま [次へ] をクリックし、インストールを進めることはできません。正しい IP アドレスは、DPM の Web コンソールを操作して管理サーバ for DPM から管理対象マシンのシャットダウン、またはリモートアップデートによるシナリオを実行すると設定されます。

4. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のアップグレードインストールは完了です。

3.9.3. アップグレードインストールを完了するには

1. クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[SigmaSystemCenter]、および [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。
インストーラが終了します。

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面からのアップグレードインストールは完了です。

3.10. Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が Windows (IPF) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは Windows (IPF) 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Windows (IPF) 管理対象マシンにアップグレードインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から個別にアップグレードインストールする必要があります。

Windows (IPF) 管理対象マシンへのクライアントサービス for DPM のアップグレード手順はインストール手順と同じですので、「2.10 Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする」を参照し、インストールしてください。

3.11. Linux 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が Linux の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは Linux 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Linux 管理対象マシンにアップグレードインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から個別にインストールする必要があります。

Linux管理対象マシンへのクライアントサービス for DPMのアップグレード手順はインストール手順と同じですので、「2.11 Linux管理対象マシンへインストールする」を参照し、インストールしてください。

3.12. HP-UX 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が HP-UX の管理対象マシンへの、クライアントサービス for DPM (HP-UX) のアップグレードインストールをサポートしていません。以前のバージョンのアンインストールを行った後、本バージョンのクライアントサービス for DPM (HP-UX) のインストールを行う必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは HP-UX 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM (HP-UX) を HP-UX 管理対象マシンにアップグレードする場合、以前のバージョンのクライアントサービス for DPM (HP-UX) をアンインストール後、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 から個別にインストールする必要があります。

以前のバージョンのアンインストールについては、インストールされているバージョンの DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイドを参照してください。

本バージョンのインストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「3.3 DeploymentManager クライアントのアンインストール」、および「2.5 DeploymentManager クライアントのセットアップ」を参照してください。

3.13. クライアントサービス for DPM を自動でアップグレードする

OS が Windows、もしくは Linux の管理対象マシンで、DPM Ver 3.0 以降がインストールされている場合、DPM の機能で自動的にアップグレードすることができます。

以下の手順に従って、自動アップグレードを行ってください。

1. DPM の Web コンソールを起動します。
2. [設定] メニューから [詳細設定] をクリックし、「詳細設定」ウィンドウを表示します。
3. [全般] タブを選択し、[クライアントサービス for DPM を用いた運用を行う] チェックボックスをオフにします。
4. 管理対象マシンを再起動、もしくは、「DeploymentManager Agent Service」サービス、および「DeploymentManager Remote Update Service Client」サービスを再起動します。クライアントサービス for DPM の自動アップグレードが実行されます。
5. [表示] メニューの [パッケージ一覧] をクリックし、[Agent Upgrade] をオンにし、[適用状況] をクリックして、アップグレードが完了したことを確認します。
6. [設定] メニューから [詳細設定] をクリックし、「詳細設定」設定ウィンドウを表示します。
7. [全般] タブを選択し、[クライアントサービス for DPM を用いた運用を行う] チェックボックスをオンに戻します。

以上でクライアントサービス for DPM の自動アップグレードは完了です。

4. アンインストールを実行する

本章では、SigmaSystemCenter のアンインストール手順について説明します。管理サーバコンポーネントと管理対象マシンコンポーネントを、個別でアンインストールする場合と一括でアンインストールする場合について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

• 4.1	管理サーバコンポーネントのアンインストール	106
• 4.2	アンインストールを始める前に	107
• 4.3	管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする	108
• 4.4	管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする	114
• 4.5	管理サーバコンポーネントをアンインストールした後に	116
• 4.6	管理対象マシンコンポーネントのアンインストール	119
• 4.7	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする	120
• 4.8	Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストールする	122
• 4.9	Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする	124
• 4.10	Linux管理対象マシンから個別にアンインストールする	125
• 4.11	HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする	126

4.1. 管理サーバコンポーネントのアンインストール

次節以降では、管理サーバコンポーネントをアンインストールする手順を説明します。

必要な管理サーバコンポーネントを選択し、個別にアンインストールする場合は、「4.3 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする」を参照してください。

すべての管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする場合は、「4.4 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする」を参照してください。

管理サーバコンポーネントのアンインストール完了後に別途必要な設定があります。すべてのコンポーネントのアンインストールが完了した後、「4.5 管理サーバコンポーネントをアンインストールした後に」を参照し、設定してください。

注： Windows Server 2008 をご使用の場合、以下のアンインストール手順の「プログラムの追加と削除」を、「プログラムと機能」と読み替えてください。

4.2. アンインストールを始める前に

SigmaSystemCenter 2.1 のアンインストールを始める前に本節をよく読んでください。

4.2.1. アンインストール実行前の注意

SigmaSystemCenter のアンインストールを始める前に、必ず使用しているアプリケーション、および Web ブラウザをすべて終了してください。

4.2.2. 管理サーバ for DPM、およびWebサーバ for DPMをアンインストールする際の注意

管理サーバ for DPM、および Web サーバ for DPM を「プログラムの追加と削除」画面からアンインストールしないでください。正常にアンインストールできない場合があります。

4.2.3. Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7 からアンインストールする際の注意

Windows Vista、Windows Server 2008、もしくは Windows 7 上でインストーラを実行すると、「ユーザー アカウント制御」画面が表示される場合があります。その場合、[許可] をクリックして、続行してください。

4.3. 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする

管理サーバから管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする手順を説明します。

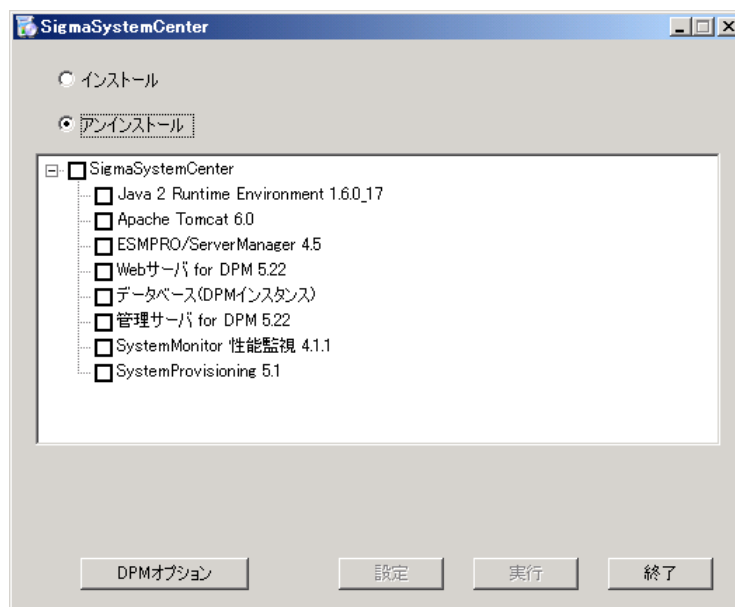
オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (ManagerSetup.exe) を起動すると、各コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

コンポーネントを個別にアンインストールする場合、本節を参照し、不要なコンポーネントをアンインストールしてください。

4.3.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。
インストール CD-R: %ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[アンインストール] をクリックし、アンインストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。選択完了後、[実行] をクリックします。



注: Apache Tomcat を SigmaSystemCenter のインストーラを使用せずにインストールした場合、[Apache Tomcat] チェックボックスが選択不可になります。その場合は、Web サーバ for DPM をアンインストールした後に、プログラムの追加と削除からアンインストールしてください。

インストール	インストールを行います。
アンインストール	アンインストールを行います。
SigmaSystemCenter	この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。
Java 2 Runtime Environment	Java 2 Runtime Environmentをアンインストールします。 この項目を選択した場合、[Apache Tomcat]、[Webサーバ for DPM]、[管理サーバ for DPM] も自動的に選択されます。
Apache Tomcat	Apache Tomcatをアンインストールします。 この項目を選択した場合、[Webサーバ for DPM] も自動的に選択されます。
ESMPRO/ServerManager	ESMPRO/ServerManagerをアンインストールします。
Web サーバ for DPM	Webサーバ for DPMをアンインストールします。
データベース (DPM インスタンス)	データベース (DPMインスタンス) をアンインストールします。
管理サーバ for DPM	管理サーバ for DPMをアンインストールします。
SystemMonitor 性能監視	SystemMonitor性能監視をアンインストールします。
SystemProvisioning	SystemProvisioningをアンインストールします。
[DPM オプション]	「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。
[設定]	選択不可です。
[実行]	アンインストールを実行します。 アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[終了]	メイン画面を閉じます。

4. アンインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
5. 選択したコンポーネントのアンインストールが開始されます。各コンポーネントのアンインストールに関しては、次項以降の各コンポーネントの項を参照してください。

4.3.2. SystemProvisioningのアンインストール

SystemProvisioning を選択した場合、SystemProvisioning のアンインストールが開始されます。

アンインストール中の操作はありません。

注: このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのアンインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

4.3.3. SystemMonitor性能監視のアンインストール

SystemMonitor 性能監視を選択した場合、SystemMonitor 性能監視のアンインストールが開始されます。

アンインストール中の操作はありません。

注: このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのアンインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

4.3.4. 管理サーバ for DPMのアンインストール

管理サーバ for DPM を選択した場合、管理サーバ for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「セットアップステータス」ウィザードが表示され、アンインストールが開始されます。
4. 「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で管理サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

4.3.5. データベース (DPMインスタンス) のアンインストール

データベース (DPM インスタンス) を選択した場合、データベース (DPM インスタンス) のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「データベースをアンインストールしています。しばらくお待ちください。」というメッセージが表示されます。アンインストールは完了まで数分かかります。
2. アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でデータベース (DPM インスタンス) のアンインストールは完了です。

4.3.6. Webサーバ for DPMのアンインストール

Web サーバ for DPM を選択した場合、Web サーバ for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

注: Web サーバ for DPM のアンインストール中に、Apache Tomcat 6.0 が一時停止します。Apache Tomcat 6.0 が他のアプリケーションで使用されている場合は、該当アプリケーションの処理完了を待つなど、Apache Tomcat 6.0 が一時停止しても問題ない状態で、Web サーバ for DPM のアンインストールを行ってください。

注: Web サーバ for DPM のアンインストール中に「レジストリ情報の取得に失敗しました。」というメッセージが表示される場合がありますが、[OK] をクリックし、処理を続行してください。アンインストールは正常に終了します。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

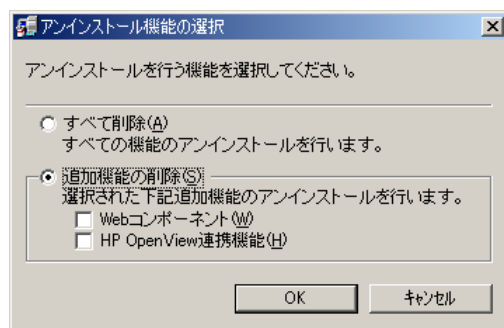
以上で Web サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

4.3.7. ESMPRO/ServerManagerのアンインストール

ESMPRO/ServerManager を選択した場合、ESMPRO/ServerManager のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

注: このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのアンインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

1. 「アンインストール機能の選択」画面が表示されます。アンインストールする機能を選択し、[OK] をクリックします。



すべて削除	ESMPRO/ServerManager、および追加された機能がすべて削除されます。
追加機能の削除	選択した機能が削除されます。追加されていない機能は選択不可となっています。選択できる項目は以下です。
Web コンポーネント	Webコンポーネントを削除します。
HP OpenView 連携機能	HP OpenView連携機能を削除します。

2. アンインストールの確認ダイアログボックスが表示されます。実行中のすべてのアプリケーションが終了していることを確認した後、[OK] をクリックし、アンインストールを開始します。
3. アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上で ESMPRO/ServerManager のアンインストールは完了です。

注:

- ・ Windows Server 2008 R2 において ESMPRO/ServerManager のアンインストールを実行すると、エクスプローラが動作を停止したとのメッセージが表示される場合があります。ただし、アンインストールは正常に完了しており、システムに影響はありません。
- ・ ESMPRO/ServerManager のアンインストール完了後、環境によっては「このプログラムは正しくアンインストールされなかった可能性があります」とのメッセージが表示される場合があります。アンインストールは正常に完了していますので、[このプログラムは正しくアンインストールされました]、または [キャンセル] をクリックして終了してください。
- ・ Web コンポーネントで使用している IIS の仮想ディレクトリ名を既定値 (esmp) から変更した場合は、アンインストールを行っても仮想ディレクトリが削除されないことがあります。そのような場合は、アンインストール後、手動で削除してください。
- ・ HP OpenView 連携をアンインストールした場合、HP OpenView Network Node Manager のアラームカテゴリに [ESMPRO トラップ] が削除されずに残ってしまいますので、手動で削除してください。

4.3.8. Apache Tomcatのアンインストール

Apache Tomcat を選択した場合、Apache Tomcat のアンインストールが開始されます。
Apache Tomcat のアンインストール画面が表示されますが、操作はありません。

4.3.9. Java 2 Runtime Environmentのアンインストール

Java 2 Runtime Environmentを選択した場合、Java 2 Runtime Environment のアンインストールが開始されます。

Java 2 Runtime Environment のアンインストール画面が表示されますが、操作はありません。

4.3.10. アンインストールを完了するには

1. 選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了すると、アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. ESMPRO/ServerManager、SystemMonitor 性能監視、あるいは SystemProvisioning を選択した場合は、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。再起動を促すダイアログボックスが表示された場合、インストーラを終了した後システムを再起動する必要があります。[OK] をクリックしてください。
3. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。
インストーラが終了します。
4. システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。

以上で管理サーバコンポーネントの個別のアンインストールは完了です。

「4.5 管理サーバコンポーネントをアンインストールした後に」を参照し、必要に応じてアンインストール後の設定を行ってください。

4.3.11. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアンインストールする

管理サーバ for DPM (HP-UX) は、SigmaSystemCenter のインストーラからアンインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 から個別にアンインストールする必要があります。

アンインストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「3.1.1 DeploymentManager 管理サーバのアンインストール」を参照してください。

4.4. 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする

管理サーバから管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする手順を説明します。

インストールオプションを指定してアンインストールを開始すると、インストーラ画面表示なしで各コンポーネントをアンインストールします。

コンポーネントを一括でアンインストールする場合、本節を参照し、アンインストールしてください。

4.4.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、アンインストールを開始します。

インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe /x

オプション	説明
/x	一括でアンインストールを行います。

オプション "/x" が指定されていない場合、「4.3.1 アンインストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

3. アンインストールが開始されます。

以下の順番でコンポーネントのアンインストールが開始されます。

コンポーネントのアンインストール中に「データベースをアンインストールしています。しばらくお待ちください。」というメッセージ、および「Uninstalling Service "Tomcat"」コマンドプロンプト画面が表示されますが、操作は不要で、アンインストール処理は継続して正常に動作します。

アンインストールは完了まで数分かかります。

インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows Server 2003 の場合
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Server 2008 の場合
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

注: 以下の方法でログを参照することができます。

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
または、
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
2. メモ帳でログファイルを開きます。
notepad SetupProvisioning.log

	終了コード		アンインストール 対象コンポーネント	順番
	再起動不要	再起動必要		
成功	0	64	—	—
エラー ※1	32	96	—	—
エラー ※2	8	72	SystemProvisioning	1
エラー ※2	7	71	SystemMonitor性能監視	2
エラー ※2	6	70	管理サーバ for DPM	3
エラー ※2	5	69	データベース (DPMインスタンス)	4
エラー ※2	4	68	Webサーバ for DPM	5
エラー ※2	2	66	Apache Tomcat	6

※1 PVMサービスの停止に失敗した場合

※2 対象コンポーネントのアンインストールに失敗した場合

以上で管理サーバコンポーネントの一括アンインストールは完了です。

一括アンインストールの完了後、サーバを再起動してください。

「4.5 管理サーバコンポーネントをアンインストールした後に」を参照し、必要に応じてアンインストール後の設定を行ってください。

4.5. 管理サーバコンポーネントをアンインストールした後に

アンインストール完了後に別途設定が必要な場合があります。SigmaSystemCenter 2.1 のアンインストールが完了した後、環境、およびアンインストールしたコンポーネントに応じて本節の設定を行ってください。

4.5.1. SQL Server 2005 Express Editionのアンインストール方法

SigmaSystemCenter のインストーラは、SQL Server 2005 Express Edition のアンインストールをサポートしていません。アンインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

注: Windows Server 2008 の場合、インスタンスのアンインストール中に「Microsoft SQL Server 2005 セットアップ」ダイアログボックスが表示される場合があります。その場合、[無視] をクリックしてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除(H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [Microsoft SQL Server 2005] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 「コンポーネントの選択」ウィザードが表示されます。[SQL Server 2005 インスタンスのコンポーネントを削除する] チェックボックスをオンにし、[インスタンスの選択] で SigmaSystemCenter のインストーラからインストールしたインスタンスをオンにします。

注: 既定でインストールされていると [SSCCMDB: データベースエンジン] と表示されます。

[次へ] をクリックします。

4. 「確認」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。しばらくお待ちください。
5. アンインストールが正常に完了すると、「プログラムの追加と削除」画面に戻ります。

また、他のアプリケーションで Microsoft SQL Server 2005 を使用していない場合には、[プログラムの追加と削除] から以下のコンポーネントも削除してください。

注:

- ・ 削除したコンポーネントに関連するコンポーネントが自動で削除されている場合がありますので、コンポーネントを削除した後は、**F5** キーを押して最新の情報に更新してください。
 - ・ Microsoft SQL Server VSS Writer については、他のアプリケーションから使用されていない場合、必ず削除してください。削除しないと、次回サーバ起動時にエラーが表示されます。
-

- ◆ Microsoft SQL Server 2005 (共通コンポーネントが存在している場合)
- ◆ Microsoft SQL Server Native Client
- ◆ Microsoft SQL Server VSS Writer
- ◆ Microsoft SQL Server セットアップ サポート ファイル (英語)

以上で SQL Server 2005 Express Edition のアンインストールは完了です。

4.5.2. 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールした場合

Java 2 Runtime Environment、ESMPRO/ServerManager、および管理サーバ for DPM (HP-UX) は、一括でアンインストールされません。アンインストールする場合は、「4.3.9 Java 2 Runtime Environmentのアンインストール」、「4.3.7 ESMPRO/ServerManagerのアンインストール」、および「4.3.11 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアンインストールする」を参照し、個別にアンインストールしてください。

4.5.3. SystemProvisioningをプログラムの追加と削除からアンインストールした場合

SystemProvisioning をプログラムの追加と削除からアンインストールした場合に以下の注意事項があります。

- ◆ Windows ファイアウォールの [例外] タブに [SystemProvisioning] が登録されたままになっている場合があります。その場合、手動で削除する必要があります。削除するには、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了した後、以下の手順に従ってください。
 1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [Windows ファイアウォール] を選択します。
 2. 「Windows ファイアウォール」画面が表示されます。[例外] タブを選択し、[プログラムおよびサービス(P):] グループボックスの [SystemProvisioning] を選択します。
 3. [削除(D)] をクリックします。
 4. 確認ダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
 5. [OK] をクリックし、「Windows ファイアウォール」画面を閉じます。

- ◆ SystemProvisioning のデータベースファイルが削除されないため、手動で削除する必要があります。削除するには、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了した後、以下の手順に従ってください。

1. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。

```
sqlcmd -E -S (local)\$SSCCMDB -Q "drop database pvminf"
```

注: インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、"(local)\\$インスタンス名" としてください。

- ◆ SystemProvisioning をプログラムの追加と削除からアンインストールした場合、以下のスタートメニューの項目が残りますが、システムに影響はありません。
[スタート] メニューから [すべてのプログラム] - [SigmaSystemCenter] - [SystemProvisioning Web Console]

4.5.4. SystemMonitor性能監視をアンインストールした場合

SystemMonitor 性能監視のアンインストール後、Windows ファイアウォールの [例外] タブに [SystemMonitor 性能監視]、および [System Monitor - Performance Monitoring Services Management Console] が登録されたままになっている場合、手動で削除する必要があります。削除するには、SystemMonitor 性能監視のアンインストール後、以下の手順を実施してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [Windows ファイアウォール] を選択します。
2. 「Windows ファイアウォール」画面が表示されます。[例外] タブを選択し、[プログラムおよびサービス(P):] グループボックスの [SystemMonitor 性能監視] を選択します。
3. [削除(D)] をクリックします。
4. 確認ダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
5. 同様に [System Monitor - Performance Monitoring Services Management Console] についても削除します。
6. [OK] をクリックし、「Windows ファイアウォール」画面を閉じます。

4.6. 管理対象マシンコンポーネントのアンインストール

次節以降では、管理対象マシンコンポーネントをアンインストールする手順を説明します。

管理対象マシンの OS によって、アンインストールするコンポーネント、およびアンインストール方法が異なります。

ご利用の環境やアンインストール方法に応じて対応する節を参照してください。

◆ Windows (x86 / x64) 管理対象マシンの場合

管理対象マシンコンポーネントを、インストーラ画面からアンインストールする場合は「4.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする」を参照してください。

管理対象マシンコンポーネントを、インストーラ画面表示なしでアンインストールする場合は「4.8 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストールする」を参照してください。

◆ Windows (IPF) 管理対象マシンの場合

「4.9 Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする」を参照してください。

◆ Linux 管理対象マシンの場合

「4.10 Linux管理対象マシンから個別にアンインストールする」を参照してください。

◆ HP-UX 管理対象マシンの場合

「4.11 HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする」を参照してください。

4.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。インストーラ画面からクライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (AgentSetup.exe) を起動すると、コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

詳細は次項以降を参照してください。

4.7.1. アンインストールを実行するには

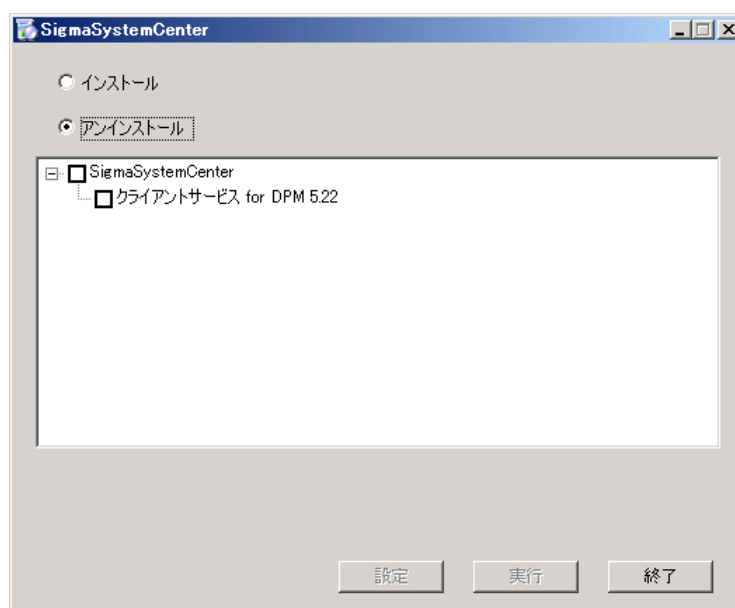
1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。

2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[アンインストール] をクリックします。[SigmaSystemCenter]、もしくは [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスをオンにします。選択完了後、[実行] をクリックします。



インストール	インストールを行います。
アンインストール	アンインストールを行います。
SigmaSystemCenter	この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。
クライアントサービス for DPM	クライアントサービス for DPMをアンインストールします。
[設定]	選択不可です。
[実行]	アンインストールを実行します。 アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。
[終了]	メイン画面を閉じます。

4. アンインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
5. クライアントサービス for DPM のアンインストールが開始されます。クライアントサービス for DPM のアンインストールに関しては、次項を参照してください。

4.7.2. クライアントサービス for DPMのアンインストール

クライアントサービス for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のアンインストールは完了です。

4.7.3. アンインストールを完了するには

1. クライアントサービス for DPM のアンインストールが完了すると、アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[SigmaSystemCenter]、および [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。
インストーラが終了します。

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面からのアンインストールは完了です。

4.8. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

インストールオプションを指定してアンインストールを開始すると、インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をアンインストールします。

詳細は次項を参照してください。

4.8.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、アンインストールを開始します。

インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe /x

オプション	説明
/x	一括でアンインストールを行います。

X

オプション "/x" が正しく指定されていない場合、「4.7.1 アンインストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。この場合、個別アンインストールとなります。個別アンインストールを進めるか、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じ、一括アンインストールを再度実行してください。

3. クライアントサービス for DPM のアンインストールが開始されます。アンインストールは完了まで数分かかります。

インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows 2000 / Windows XP / Windows Server 2003 の場合
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Vista / Windows Server 2008 / Windows 7 の場合
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

注: 以下の方法でログを参照することができます。

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
または
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
2. メモ帳でログファイルをオープンします。
notepad SetupProvisioning.log

	終了コード	インストール対象コンポーネント	順番
成功	0 (再起動不要)	—	—
エラー ※1	1 (再起動不要)	クライアントサービス for DPM	1

※1 対象コンポーネントのアンインストールに失敗した場合

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面表示なしでのアンインストールは完了です。

4.9. Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする

OS が Windows (IPF) の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラは Windows (IPF) 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から個別にアンインストールする必要があります。

詳細は次項を参照してください。

4.9.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、クライアントサービス for DPM がインストールされているフォルダに移動します。

```
cd %SystemRoot%\system32
```

3. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、クライアントサービス for DPM をアンインストールします。

```
rupdsvc.exe -remove  
del rupdsvc.exe  
del clisvc.ini  
depagent.exe -remove  
del depagent.exe  
del depagent.dll  
del depinfo.dll  
del L4dpm.ini  
del L4dpm.dll
```

以上でクライアントサービス for DPM のアンインストールは完了です。

4.10. Linux 管理対象マシンから個別にアンインストールする

OS が Linux の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラは Linux 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Linux 管理対象マシンからアンインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 から個別にアンインストールする必要があります。

詳細は次項を参照してください。

4.10.1. クライアントサービス for DPMをアンインストールする

注: Red Hat Enterprise Linux AS4/ES4、SUSE Linux Enterprise 9 の場合は、"/mnt" 部を "/media" に読み替えて作業をすすめてください。

SUSE Linux Enterprise 10 の場合は、"/mnt/cdrom" 部を "/media/CD-R のボリュームラベル" に読み替えて作業をすすめてください。

1. root アカウントでシステムにログインします。
2. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
3. 以下のコマンドを実行し、CD-R をマウントします。この例では、マウントポイントを "/mnt/cdrom" と仮定しています。

```
# mount /mnt/cdrom
```
4. ディレクトリを変更するために、以下のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/クライアントアーキテクチャ/bin/agent
```

クライアントアーキテクチャの部分はマシンの機種に応じて以下を指定してください。
 - IPF アーキテクチャマシンの場合: ia64
 - IA32、EM64T アーキテクチャマシンの場合: ia32例) [root@localhost]# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/ia32/bin/agent
5. depuninst.sh を実行します。

```
# ./depuninst.sh
```

以上でクライアントサービス for DPM のアンインストールは完了です。

4.11. HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする

OS が HP-UX の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM (HP-UX) をアンインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは HP-UX 管理対象マシンに対応していないため、コンポーネントを HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #2 から個別にアンインストールする必要があります。

アンインストール手順については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「3.3 DeploymentManager クライアントのアンインストール」を参照してください。

5. トラブルシューティング

本章では、SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストール中に問題が起こった際の対処方法について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 5.1 インストール / アップグレード時のエラー 128

5.1. インストール / アップグレード時のエラー

5.1.1. アップグレードインストール時に構成情報データベースのコンバートに失敗する

[現象]

管理サーバへの SystemProvisioning のアップグレードインストール時に、以下のメッセージが表示されてインストールが中断する。

[メッセージ 1]

コンバート前の構成情報データベースへの接続に失敗しました。
コンバート前の構成情報データベースのサービスが起動していない可能性があります。「MSSQL\$PVMINF_INSTANCE」サービスを確認してください。インストールを中止します。

[原因 1]

コンバート前の構成情報データベースのサービスが起動していないために、コンバート前の構成情報データベースへ接続できない場合に表示されます。

[メッセージ 2]

新規の構成情報データベースへの接続に失敗しました。
新規の構成情報データベースのサービスが起動していない可能性があります。
「SQL Server (SSCCMDB)」サービス(既定値)を確認してください。インストールを中止します。

[原因 2]

新規の構成情報データベースのサービスが起動していないために、新規の構成情報データベースへ接続できない場合に表示されます。

[メッセージ 3]

データベースのコンバート中にエラーが発生しました。
コンバート前のバックアップデータをリストアしてください。インストールを中止します。

もしくは

データベースのコンバート中にエラーが発生しました。インストールを中止します。

[原因 3]

コンバート前の構成情報データベースから新規の構成情報データベースへ構成を変換する処理で、内部処理エラーが発生した場合にこのメッセージが表示されます。

[対処方法]

上記のメッセージが表示された場合は、お問い合わせください。

5.1.2. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへのインストール時のエラー

[現象]

Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへのインストール時に以下のエラーメッセージが表示されてインストールが中断する。

ダイナミックリンクライブラリ mscoree.dll が指定されたパスに見つかりませんでした。

もしくは

アプリケーションを正しく初期化できませんでした (0x0000135)。[OK] をクリックしてアプリケーションを終了してください

[原因]

本メッセージは.NET Framework 1.1 以上がインストールされていない場合に表示されます。

[対処方法]

.NET Framework 1.1 以上をインストール後、再度インストーラ (AgentSetup.exe) を実行してください。

5.1.3. SIGMABLADE controllerが登録された状態でのアップグレード時のエラー

[現象]

SIGMABLADE controller がサブシステムとして登録されている場合に SystemProvisioning のアップグレードインストールを行うと、以下のエラーメッセージが表示されてアップグレードインストールが中断する。

SIGMABLADE controller がサブシステムに登録されています。
サブシステムから SIGMABLADE controller を削除した後、
アップグレードインストールを実行してください。
インストールを中止します。

[原因]

SigmaSystemCenter からの SIGMABLADE controller 連携機能サポート終了により、SIGMABLADE controller がサブシステムとして登録されている状態ではアップグレードできません。

[対処方法]

[管理] ビューのサブシステムの詳細情報から SIGMABLADE controller を選択し、削除した後、再度アップグレードインストールを実行してください。

5.1.4. SystemProvisioningのブラウザ画面表示が不正となる

[現象]

SigmaSystemCenter をアップグレード後、ブラウザより SystemProvisioning にログインした場合、設定メニューが表示されないなど、一部の画面にて表示が不正となる場合があります。

[原因]

SigmaSystemCenter 2.0 以降を利用し、ブラウザにて画面表示を行っていた場合、アップグレード後、ブラウザのキャッシュに残っている情報と管理サーバにて更新された画面情報が不一致となり、表示が不正となる場合があります。

[対処方法]

ブラウザを起動する端末のブラウザキャッシュのクリアを行ってください。

キャッシュクリアの方法については、ご利用のブラウザごとに異なります。ご利用のブラウザに応じた方法を別途確認し、実行してください。

以下に、主なブラウザについて記載します。

◆ Internet Explorer 7 をご利用の場合

1. ブラウザの [ツール] メニューから [インターネットオプション] をクリックします。「インターネット オプション」ダイアログボックスの [全般] タブを選択し、[閲覧の履歴] グループボックスの [削除] をクリックします。
2. 「閲覧履歴の削除」画面が表示されます。[インターネット一時ファイル] グループボックスの [ファイルの削除] をクリックしてください。
3. 確認画面が表示されます。[はい(Y)] をクリックします。

◆ FireFox 3.5 をご利用の場合

1. ブラウザの [ツール] メニューから [最近の履歴を消去] をクリックします。
2. 「最近の履歴を消去」ダイアログボックスが表示されます。[消去する履歴の期間] に [すべての履歴] を選択します。
また、[消去する項目] グループボックスで [キャッシュ]、および [Cookie] チェックボックスが選択されていることを確認してください。
3. [今すぐ消去] をクリックします。

5.1.5. Windows Server 2008 管理サーバにインストール後、Webコンソールが起動できない

[現象]

Windows Server 2008 管理サーバに SigmaSystemCenter をインストール後、以下のメッセージが表示されて、SystemProvisioning Web コンソールが起動できない場合がある。

ご使用のブラウザは JavaScript が無効に設定されています。

[原因]

SigmaSystemCenter のインストール前に、「Web サーバー (IIS)」の [役割サービス] に [静的なコンテンツ] を追加しなかったために、IIS にデプロイされた SigmaSystemCenter Web コンソール向けの StaticFile のハンドラが適切に設定されないため。

[対処方法]

最初に、「Web サーバー (IIS)」の [役割サービス] で、[静的なコンテンツ] がインストール済みとなっていることを確認してください。インストールされていない場合は、[役割サービスの追加] をクリックして、[静的なコンテンツ] のインストールを実施してください。

次に、以下の手順に従って StaticFile のハンドラを追加してください。

1. [スタート] メニューから [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー] を選択し、インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャーを起動します。
2. 左側のツリービューで [(既定値: マシン名)] ノードから、[サイト] - [Default Web Site] - [Provisioning] を選択して、「/Provisioning ホーム」を開きます。
3. [ハンドラマッピング] アイコンをダブルクリックして開きます。

4. [StaticFile] をダブルクリック、もしくは右クリックし [編集(E)...] をクリックすると、「モジュールマップの編集」画面が表示されます。
5. 「モジュールマップの編集」画面の [モジュール(M):] に、“StaticFileModule” があるか確認します。ない場合は追加します。
6. [OK] をクリックします。

付録

- 付録 A ネットワークとプロトコル
- 付録 B ターミナルサービスでの操作
- 付録 C データベースのアップグレード手順
- 付録 D Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3 適用手順
- 付録 E 改版履歴

付録 A ネットワークとプロトコル

SigmaSystemCenter のコンポーネントは既定で以下のネットワークポートを使用するよう設定してあります。管理サーバや管理対象マシンを含むシステム環境で Windows Firewall などのファイアウォール機能が有効な場合、以下のポートを開いてください。

関連情報: SigmaSystemCenter の運用で使用するポートについては、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」の「付録 A ネットワークポートとプロトコル一覧」を参照してください。

管理サーバ

	項目	プロトコル	ポート番号	プログラム名
DeploymentManager	管理サーバ for DPM (Windows)	UDP	69	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxemtftp.exe
		UDP	4011	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe
		UDP	67	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥pxesvc.exe
		TCP	56011	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥depssvc.exe
		TCP	56030, 56020, 56022	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkr essvc.exe
		UDP	56021	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥bkr essvc.exe
		TCP	56023	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥ftsvc.exe
		TCP	56024, 56028	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥rupdssvc.exe
		TCP	56050	¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥apiserv.exe

	項目	プロトコル	ポート番号	プログラム名
		TCP	56060	¥Program Files¥NEC¥Deploy mentManager¥pxe svc.exe
		UDP	56040	¥Program Files¥NEC¥Deploy mentManager¥clist art.exe
	データベース (DPMインスタンス)	TCP	56070	¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.x¥ MSSQL¥Binn¥sqls ervr.exe ※2
		UDP	1434	¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥90¥Shared ¥sqlbrowser.exe
	Webサーバ for DPM	TCP	8080 ※1	¥Program Files¥Apache Software Foundation¥Tomca t 6.0¥bin¥tomcat6.e xe
DeploymentManager (HP-UX)	管理サーバ for DPM (HP-UX)	TCP	8080, 15416, 15417	-
SystemProvisioning	SystemProvisioning	TCP	26102, 26150	¥Program Files¥NEC¥PVM¥b in¥PVMServicePro c.exe
	Out-of-Band Management	UDP	自動	
SystemMonitor性能 監視	SystemMonitor性能 監視	TCP	26200	¥Program Files¥NEC¥Syste mMonitorPerforma nce¥bin¥rm_pfmse rvice.exe
ESMPRO/ServerMan ager	ESMPRO/ServerMan ager	UDP	162	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ NVBASE¥bin¥nvb ase.exe
		TCP	8806	
		TCP	8807 ※3	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ NVBASE¥bin¥esm asvnt.exe
		TCP	31134	¥Program Files¥NEC¥SMM¥ NVBASE¥bin¥amv sckr.exe

※1 Tomcatが、内部処理用にポート (TCP:8005、AJP:8009、HTTPS:8443) を使用します。
Webサーバ for DPMでは、このポートを使用できるようにしてください。

※2 xには、SQL Serverのインスタンス数の数値が入ります。

	項目	プロトコル	ポート番号	プログラム名
--	----	-------	-------	--------

※3 アラートビューアの [ツール] - [ポート設定] から変更できます。
ファイアウォールでの設定は不要です。

管理対象マシン

	項目	プロトコル	ポート番号	プログラム名
DeploymentManager	ICMP Echo	ICMP	-	DeploymentManager
	クライアントサービス for DPM (Windows)	UDP	56001	¥WINDOWS¥system 32¥rupdsvc.exe
		TCP	56000, 56025	
		TCP	56010	¥WINDOWS¥system 32¥DepAgent.exe
	クライアントサービス for DPM (Linux)	UDP	56001	/opt/dpmclient/agent/ bin/depagtd
		TCP	56000, 56010	
DeploymentManager (HP-UX)	クライアント	TCP	7, 23, 4000~4009, 15420, 15421	-
		UDP	68, 4000~4009	-
Out-of-Band Management	RMCP/RMCP+	UDP	623 ※1	-
SystemMonitor性能 監視	性能データ取得	UDP	137 ※2	(システム)
		TCP	139, 445 ※2	(システム)
			22, 23 ※3	
			443 ※4	
Server Management	ICMP Echo	ICMP	--	
	Power On	UDP	10101	
	ESMPRO/ServerAge nt (Windows)	UDP	161	
		TCP	1024~5000 のいずれかひ とつ	
	ESMPRO/ServerAge nt (Linux)	UDP	161, 111	
		TCP	111, 不定 ※5	

※1 OSが認識しているNICではなく、BMCのネットワークインターフェースで使用します。

※2 Windows管理対象マシンの性能データ収集時に使用します。

※3 Telnet (23)、もしくはSSH (22) 経由で性能データを収集する場合に使用します。

※4 VMware ESX、Citrix XenServerの性能データ収集時に使用します。詳細については、「SystemMonitor性能監視ユーザズガイド」の「1.7.4. 管理サーバと監視対象サーバ間の使用ポート」を参照してください。

※5 111 (UDP/TCP)、不定 (TCP) はESMPRO/ServerAgent (Linux) が使用する内部ポートです。Iptablesなどを利用し設定する場合はアクセスを許可する設定を行ってください。不定 (TCP) は、OSにより使用可能ポート範囲内で割り振られます。ポート範囲は以下のファイルを参照してください。

/proc/sys/net/ipv4/ip_local_port_range

その他

	項目	プロトコル	ポート番号	プログラム名
DHCP Server	Network Boot	UDP	67	
	Network Boot	UDP	67	
NFS	Linux OS Clear Installation	UDP	111, 1048, 2049	
		TCP	111, 1048, 2049	
SystemMonitor性能監視	SystemMonitor管理コンソール	TCP	26202	¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance¥bin¥RM_PFMCONSOLE.exe
DeploymentManager (HP-UX)	Ignite-UXサーバ	UDP	67, 69, 111, 2049, 2121, 4045, 49152~65535	-
		TCP	20, 21, 111, 2049, 2121, 4045, 49152~65535	-

付録 B ターミナルサービスでの操作

Windows Server 2003 / Windows Server 2008 のターミナルサービスには以下の 2 つの動作モードがあります。

ご利用の環境を確認し、環境に応じたインストール、アップグレード、およびアンインストールを実行する必要があります。

◆ Windows Server 2003 の場合

・ ターミナルサーバー

ターミナルサーバーはコントロールパネルの [プログラムの追加と削除] の [Windows コンポーネント ウィザード] を使用して、"ターミナル サーバー" コンポーネントを追加することで有効になります。

・ 管理用リモートデスクトップ

管理用リモートデスクトップは既定でインストールされており、コントロールパネルの [システム] の [リモート] タブで、リモート接続を有効にすることで有効になります。

◆ Windows Server 2008 の場合

・ ターミナルサーバー

ターミナルサーバーは [サーバー マネージャ] の [役割の追加] で [ターミナル サービス] を選択し、[役割サービスの選択] で "ターミナル サーバー" を追加することで有効になります。

・ リモートデスクトップ

リモートデスクトップはコントロールパネルの [システム] の [リモートの設定 (R)] をクリックして表示される [システムプロパティ] の [リモート] タブで、以下のいずれかをクリックすることで有効になります。

- [リモート デスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する (セキュリティのレベルは低くなります)(L)]
- [ネットワーク レベル認証でリモート デスクトップを実行しているコンピュータからのみ接続を許可する (セキュリティのレベルは高くなります)(N)]

注: これまで "ターミナル サービス" と呼ばれていた Windows Server の機能は、Windows Server 2008 R2 にて "リモート デスクトップ サービス" に名称が変更されました。Windows Server 2008 R2 をご使用の場合、本章では以下のように読み替えてください。

- ・ 「ターミナルサーバー」を「リモート デスクトップ サービス」
 - ・ 「ターミナル サーバへのアプリケーションのインストール」を「リモート デスクトップ サーバへのアプリケーションのインストール」
-

管理用リモートデスクトップ、またはリモートデスクトップへ管理サーバコンポーネント、または管理対象マシンコンポーネントをインストール、もしくはアップグレードする場合、通常通りの手順になります。管理用リモートデスクトップ、またはリモートデスクトップからのアンインストールも、通常通りの手順になります。各手順については、2～4 章を参照して操作を行ってください。

Windows Server 2003 / Windows Server 2008 のターミナルサーバー環境へインストール、もしくはアンインストールを行う場合には、「Windows Server 2003 の場合」 / 「Windows Server 2008 の場合」に従って、SigmaSystemCenterのインストーラを起動して操作を行ってください。

これらの環境で管理サーバコンポーネントをアップグレードする場合には、最初に SigmaSystemCenter 2.0 の一部のコンポーネントをアンインストールする必要があります。

「アップグレード前の管理サーバの事前準備 (Windows Server 2003 の場合)」 / 「アップグレード前の管理サーバの事前準備 (Windows Server 2008 の場合)」に従ってそれらをアンインストールした後、「Windows Server 2003 の場合」 / 「Windows Server 2008 の場合」に従ってアップグレードしてください。

なお、管理対象マシンコンポーネントをアップグレードする場合には、最初のアンインストールを行う必要はありません。以下の手順に従って操作を行ってください。

注:

- ・ 本アップグレード手順は、SigmaSystemCenter 2.0 からのアップグレードの場合のみを対象としています。
- ・ ターミナルサービスのクライアントからターミナルサービスのマシンに対してインストール操作を行うことはできませんが、SigmaSystemCenter CD-R は、サーバマシンの CD ドライブに挿入しておく必要があります。

※UNC パス、もしくはネットワークドライブを割り当てたドライブ上で、インストーラは実行できません。

◆ Windows Server 2003 の場合

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
3. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの追加(N)] をクリックします。
4. [CD またはフロッピー(F)] をクリックします。
5. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
6. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe、または AgentSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
7. 以降、通常と同じ手順でインストール、アップグレード、アンインストールを実行します。

- インストール / アップグレード

通常のインストールの詳細については、「2.3 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする」、および「2.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする」を参照してください。

通常のアップグレードインストールの詳細については、「3.6 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する」、および「3.9 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。

注: インストール / アップグレード中に.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストール完了後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示され、システムを再起動した場合、システム再起動後に自動的にインストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されますが、この画面からインストールを行わないでください。いったん「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じてインストーラを終了し、2以降の手順に従って再度インストーラを起動ください。

- アンインストール

通常のアンインストールの詳細については、「4.3 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする」、および「4.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする」を参照してください。

8. SigmaSystemCenter のインストール / アップグレード / アンインストールが完了すると、「インストール終了後」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
9. 「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

<アップグレード前の管理サーバの事前準備 (Windows Server 2003 の場合)>

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
3. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの追加(N)] をクリックします。
4. [CD またはフロッピー(E)] をクリックします。
5. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
6. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
7. 以降、通常と同じ手順で SigmaSystemCenter 2.0 の一部のコンポーネントのアンインストールを実行します。
通常のアンインストールの詳細については、「3.5 SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールに向け準備する」を参照してください。
8. SigmaSystemCenter のアンインストールが完了すると、「インストール終了後」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
9. 「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Windows Server 2003 のターミナルサーバーへのインストール / アップグレード / アンインストールは完了です。

◆ Windows Server 2008 の場合

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [ターミナル サーバーへのアプリケーションのインストール] を選択します。
3. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
4. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe、または AgentSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
5. 以降、通常と同じ手順でインストール、アップグレード、アンインストールを実行します。

- インストール

通常のインストールの詳細については、「2.3 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする」、および「2.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする」を参照してください。

- アップグレード

通常のアップグレードインストールの詳細については、「3.6 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する」、および「3.9 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。

注: インストール / アップグレード中に .NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストール完了後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示され、システムを再起動した場合、システム再起動後に自動的にインストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されますが、この画面からインストールを行わないでください。いったん「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じてインストーラを終了し、2 以降の手順に従って再度インストーラを起動ください。

- アンインストール

通常のアンインストールの詳細については、「4.3 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする」、および「4.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする」を参照してください。

6. SigmaSystemCenter のインストール / アップグレード / アンインストールが完了すると、「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

<アップグレード前の管理サーバの事前準備 (Windows Server 2008 の場合)>

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [ターミナル サーバーへのアプリケーションのインストール] を選択します。
3. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

-
4. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。
SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
 5. 以降、通常と同じ手順でSigmaSystemCenter 2.0 の一部のコンポーネントのアンインストールを実行します。
通常のアンインストールの詳細については、「3.5 SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールに向け準備する」を参照してください。
 6. SigmaSystemCenter のアンインストールが完了すると、「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Windows Server 2008 のターミナルサーバーへのインストール / アップグレード / アンインストールは完了です。

付録 C データベースのアップグレード手順

データベースをアップグレードするには、以下の手順に従ってアップグレードインストールしてください。

注: SQL Server 2005 Express Edition を上位エディションにアップグレードすると、データベースの復旧モデルが "単純" から "完全" に変更されます。このため、ジャーナルログが記録されるようになり、データベースが増加します。対処として、ジャーナルログを残さない設定にする、あるいは定期的にデータベースのバックアップをとるようにしてください。

SystemProvisioning、SystemMonitor性能監視のデータベースをアップグレードするには

SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベース (SQL Server 2005 Express Edition) を上位エディションへアップグレードします。以下の手順に従ってアップグレードインストールしてください。

1. SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの停止

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から「PVM Service」、および「System Monitor Performance Monitoring Service」のサービスを停止します。サービス名を選択し、[サービスの停止] をクリックします。

2. SQL Server 2005 のアップグレードインストール

1. SQL Server 2005 の上位エディションへアップグレードします。SQL Server 2005 CD (1 枚目)、または DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。インストーラの画面が自動起動した場合は終了させてください。

注: アップグレードを行う前に、以下の URL を参照し、アップグレードについての注意をお読みください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393\(SQL.90\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393(SQL.90).aspx)

2. コマンドプロンプトを起動し、カレントフォルダを DVD / CD-RW ドライブ配下の以下の指定フォルダに移動します。

- CD の場合: ルート直下
- DVD の場合: Servers フォルダ

3. 以下のコマンドを実行しアップグレードを開始します。

```
start /wait setup.exe ADDLOCAL=SQL_Engine  
INSTANCENAME=SSCCMDB UPGRADE=SQL_Engine SKUUPGRADE=1
```

注: インスタンス名の既定値は、(SSCCMDB) です。インストール時にインスタンス名を変更している場合は上記コマンドの "SSCCMDB" の部分を変更後のインスタンス名に変えてください。

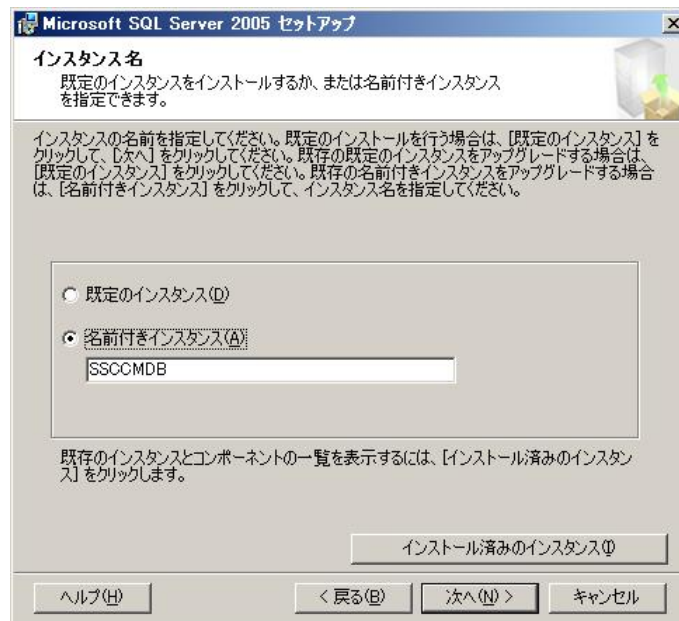
表示される画面に従って操作を進めてください。

4. セットアップの途中で、「インストールするコンポーネント」ウィザードが表示されます。
[SQL Server データベースサービス(S)] チェックボックスをオンにします。

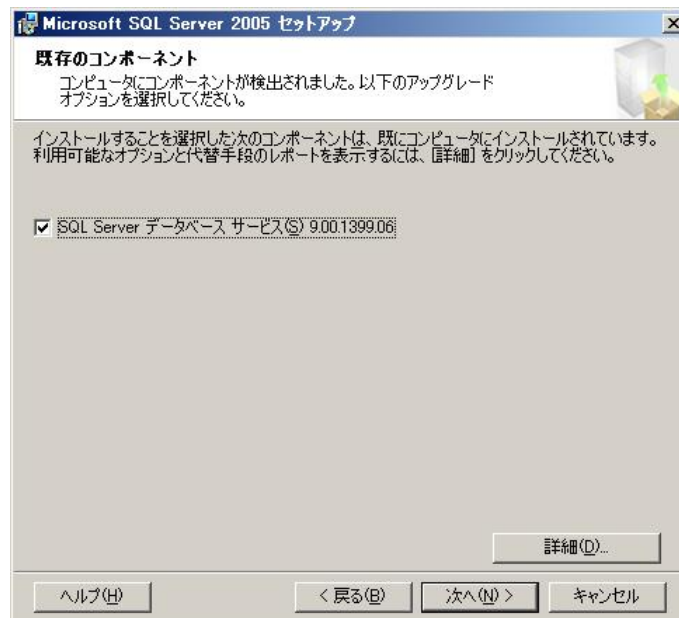


5. [次へ(N)] をクリックします。

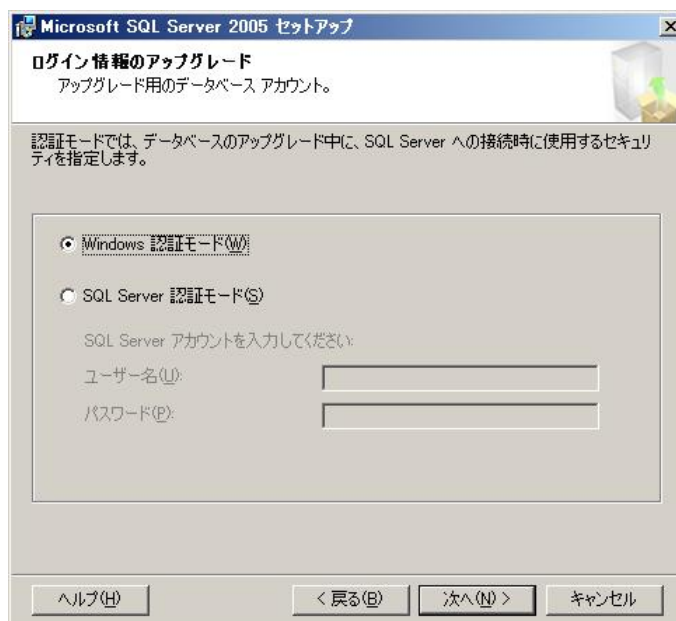
6. 「インスタンス名」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。



7. 「既存のコンポーネント」ウィザードが表示されます。SQL Server データベースサービスを選択し、[次へ(N)] をクリックします。



8. 「ログイン情報のアップグレード」ウィザードが表示されます。[Windows 認証モード] をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。



9. インストールが正常に終了すると、「Microsoft SQL Server 2005 セットアップの完了」ウィザードが表示されます。[完了(E)] をクリックします。
10. コマンドプロンプトの画面に戻ります。

3. 修正プログラム、Service Pack の適用

- 以下のいずれかの方法で、アップグレードした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack (SQL Server 2005 Service Pack 3 以降) を適用してください。
 - Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
 - SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

4. SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のサービスの開始

- [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
- サービス一覧から「PVM Service」、および「System Monitor Performance Monitoring Service」のサービスを開始します。サービス名を選択し、[サービスの開始] をクリックします。

以上で SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベースの上位エディションへのアップグレードは完了です。

DeploymentManagerのデータベースをアップグレードするには

DeploymentManager のデータベース (SQL Server 2005 Express Edition) を上位エディションへアップグレードします。以下の手順に従ってアップグレードインストールしてください。

1. DeploymentManager のサービスの停止

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて停止します。サービス名を選択し、[サービスの停止] をクリックします。

2. SQL Server 2005 のアップグレードインストール

1. SQL Server 2005 の上位エディションへアップグレードします。SQL Server 2005 CD (1 枚目)、または DVD を DVD / CD-RW ドライブに挿入します。インストーラの画面が自動起動した場合は終了させてください。

注: アップグレードを行う前に、以下の URL を参照し、アップグレードについての注意をお読みください。

[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393\(SQL.90\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393(SQL.90).aspx)

2. コマンドプロンプトを起動し、カレントフォルダを DVD / CD-RW ドライブ配下の以下の指定フォルダに移動します。

- CD の場合: ルート直下
- DVD の場合: Servers フォルダ

3. 以下のコマンドを実行しアップグレードを開始します。

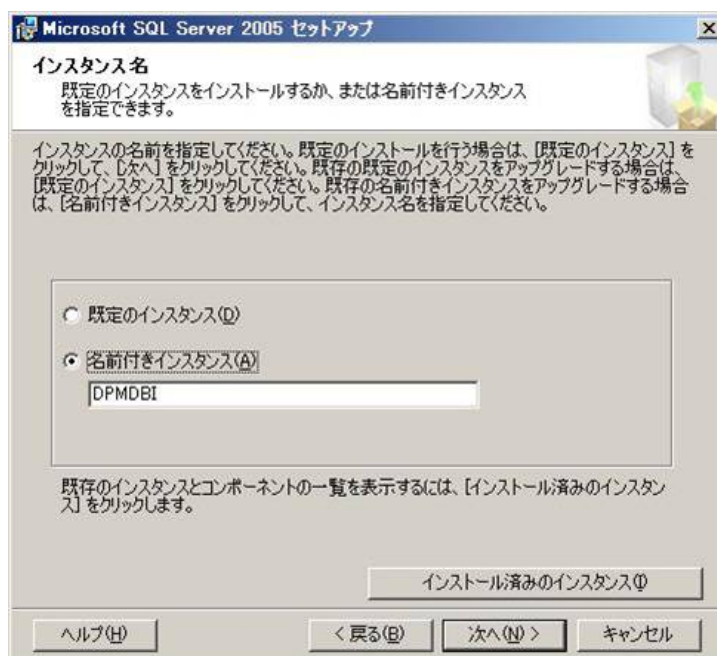
```
start /wait setup.exe ADDLOCAL=SQL_Engine  
INSTANCENAME=DPMDBI UPGRADE=SQL_Engine SKUUPGRADE=1
```

表示される画面に従って操作を進めてください。

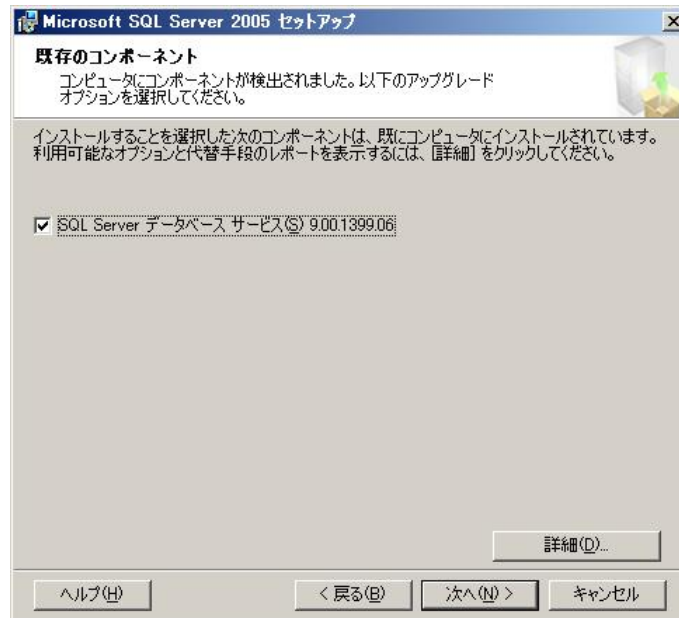
4. セットアップの途中で、「インストールするコンポーネント」ウィザードが表示されます。
[SQL Server データベースサービス(S)] チェックボックスをオンにします。



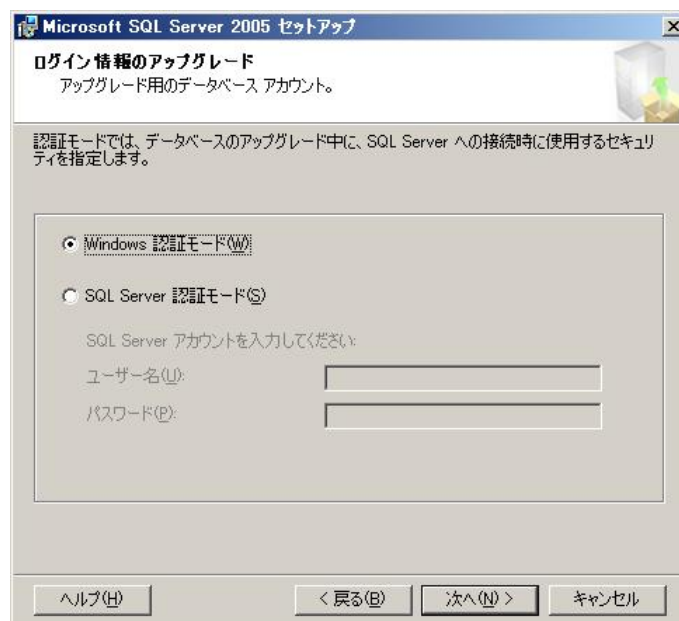
5. [次へ(N)] をクリックします。
6. 「インスタンス名」ウィザードが表示されます。[次へ (N)] をクリックします。



7. 「既存のコンポーネント」ウィザードが表示されます。SQL Server データベースサービスを選択し、[次へ(N)] をクリックします。



8. 「ログイン情報のアップグレード」ウィザードが表示されます。[Windows 認証モード] をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。



9. インストールが正常に終了すると、「Microsoft SQL Server 2005 セットアップの完了」ウィザードが表示されます。[完了(E)] をクリックします。
10. コマンドプロンプトの画面に戻ります。

3. 修正プログラム、Service Pack の適用

1. 以下のいずれかの方法で、アップグレードした SQL Server インスタンスに修正プログラムや Service Pack (SQL Server 2005 Service Pack 3 以降) を適用してください。
 - Windows Update を実行し、対象の SQL Server インスタンスに対して適用可能なすべての修正プログラムや Service Pack を適用します。
 - SQL Server の修正プログラムや Service Pack をダウンロードし、対象のインスタンスに適用します。

4. DeploymentManager のサービスの開始

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から「DeploymentManager」で始まるサービスを開始します。サービス名を選択し、[サービスの開始] をクリックします。

以上で DeploymentManager のデータベースの上位エディションへのアップグレードは完了です。

付録 D Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3 適用手順

SQL Server 2005 インスタンスに Service Pack 3 を適用します。

ここでは、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視のデータベース（「SSCCMDB」インスタンス）、および DeploymentManager のデータベース（「DPMDBI」インスタンス）が SQL Server 2005 Express Edition の場合に、Service Pack 3 を適用する手順を記載します。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] – [管理ツール] – [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から以下のサービスを停止します。サービス名を選択し、[サービスの停止] をクリックします。

PVMService

System Monitor Performance Monitoring Service

「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて

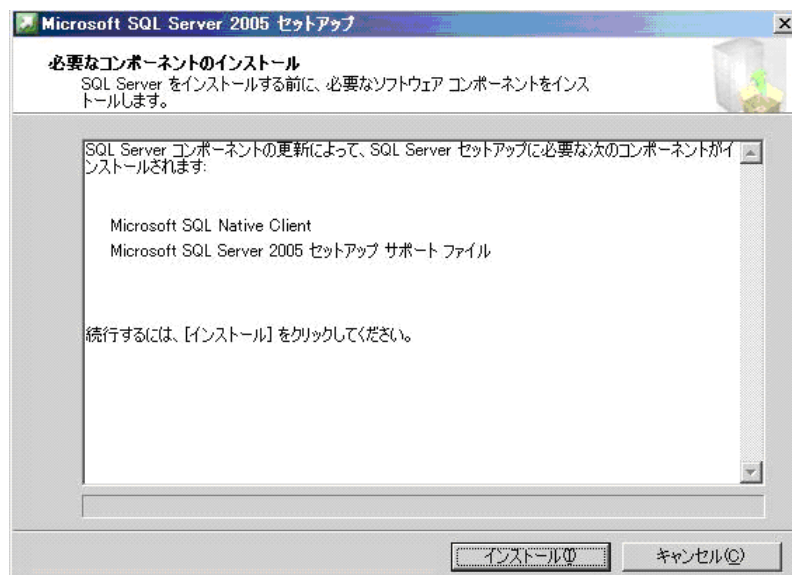
3. Microsoftダウンロードセンター（以下のページ）より、「SQLEXPRESS_JPN.EXE」を取得します。

Microsoft SQL Server 2005 Express Edition Service Pack 3

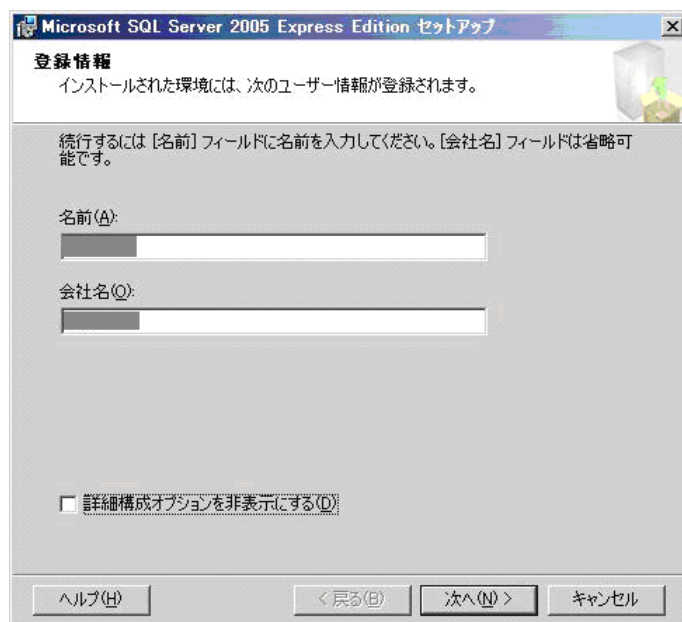
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=3181842a-4090-4431-acdd-9a1c832e65a6>

4. 手順 3 で取得した「SQLEXPRESS_JPN.EXE」を実行し、「Microsoft SQL Server 2005 Express Edition Service Pack 3」のインストールを開始します。
5. 「使用許諾契約書」画面が表示されます。内容を確認し、[使用許諾契約書に同意する] チェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。

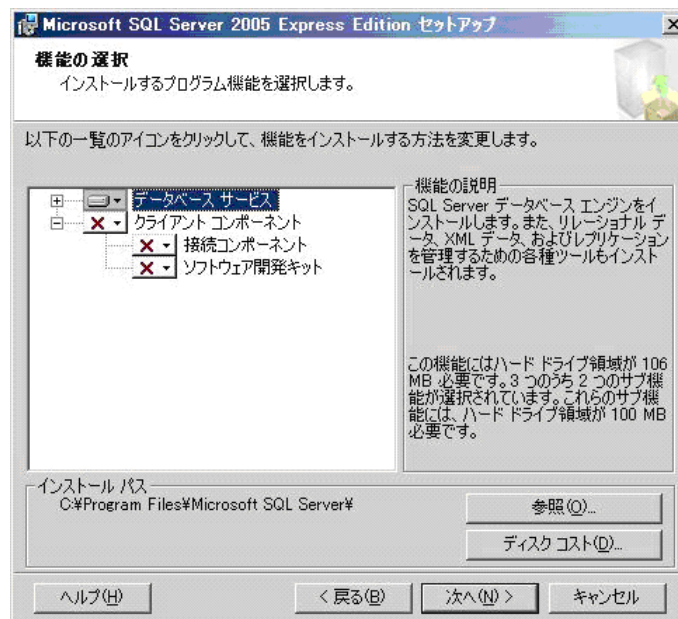
6. 「必要なコンポーネントのインストール」画面が表示されます。[インストール(I)] をクリックします。



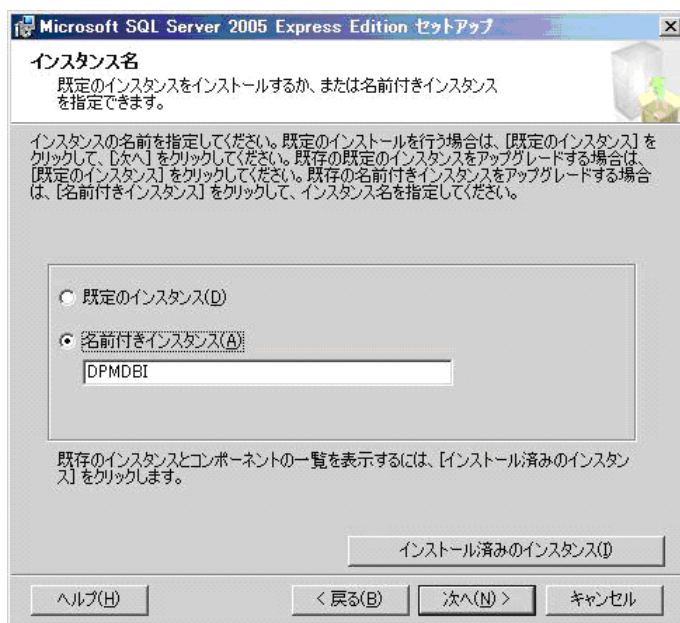
7. 「登録情報」画面が表示されるまで、[次へ(N)] をクリックしてインストールを進めてください。
8. 「登録情報」画面が表示されます。[詳細構成オプションを非表示にする] チェックボックスをオフにし、[次へ(N)] をクリックします。



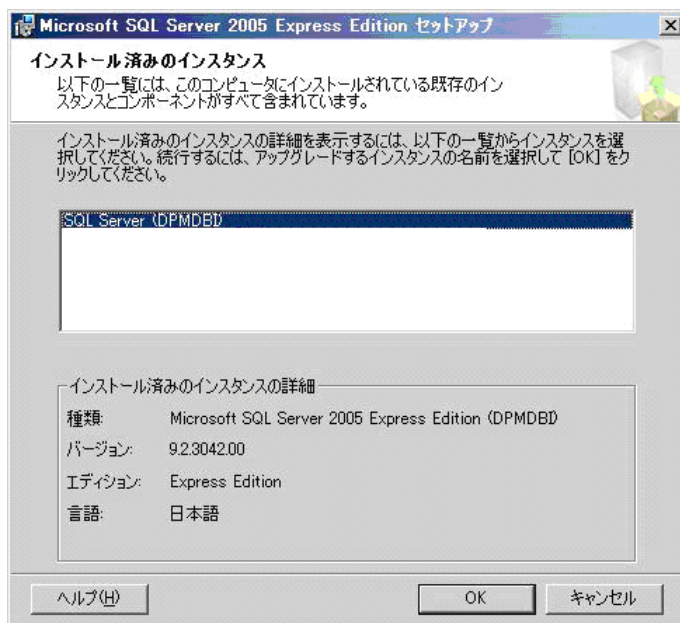
9. 「機能の選択」画面が表示されます。各設定は、既定値のまま [次へ(N)] をクリックします。



10. 「インスタンス名」画面が表示されます。[名前付きインスタンス(A)] を選択し、テキストボックスに "DPMDBI" と入力します

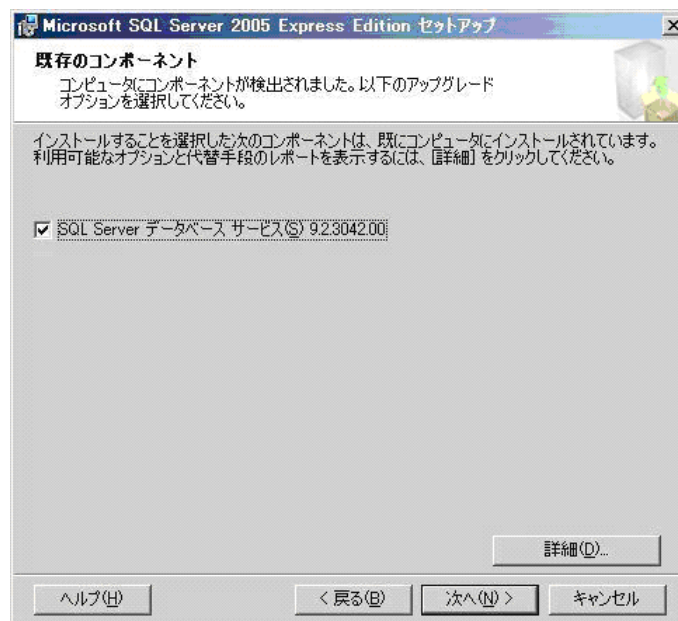


注: [インストール済みのインスタンス(I)] をクリックして表示される以下の画面からも "DPMDBI" を選択することが可能です。



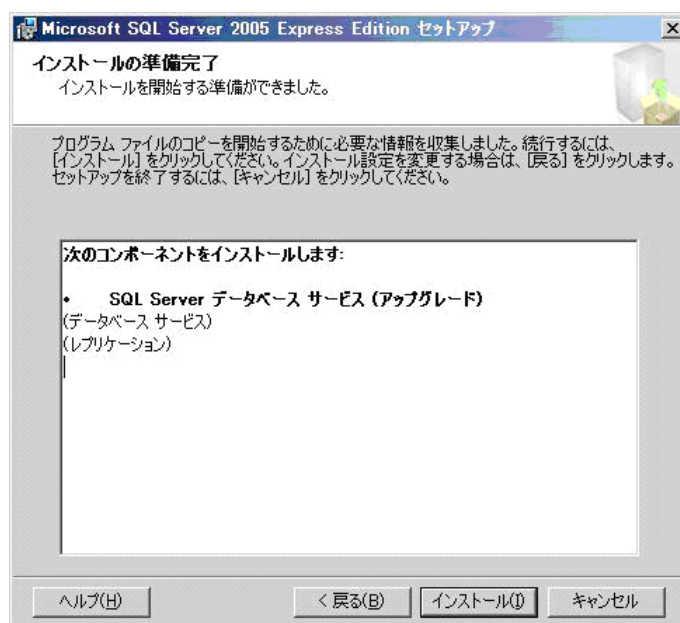
11. [次へ(N)] をクリックします。

12. 「既存のコンポーネント」画面が表示されます。[SQL Server データベースサービス(S) 9.2.3042.00] チェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。



13. 「認証モード」画面が表示されます。[Windows 認証モード] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
14. 「インストールの準備完了」画面が表示されるまで、[次へ(N)] をクリックしてインストールを進めてください。

15. 「インストールの準備完了」画面が表示されます。[インストール(I)] をクリックします。以降は、画面に従ってインストールを進めてください。



注:

- 上記の画面に以下の内容が表示される場合がありますが、本手順では、無視してインストールを進めてください。

「警告: 次に示す既存のコンポーネントの Service Pack レベルが、インストールされるコンポーネントの Service Pack レベルと異なっています。」

コンポーネント: Microsoft SQL Server 2005 Tools Express Edition

セットアップの完了後、最新の SQL Server 2005 Service Pack をダウンロードしてすべてのコンポーネントに適用する必要があります。」

- 本手順にて Microsoft SQL Server 2005 Express Edition Service Pack 3 を適用後に Microsoft SQL Server 2005 Tools Express Edition を適用する場合は、以下を参照してください。

Microsoft SQL Server 2005 Express Edition Toolkit Service Pack 3

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=d434dc36-a24d-44e-e-937e-553c382557e3&DisplayLang=ja>

-
- SigmaSystemCenter としては、Microsoft SQL Server 2005 Tools Express Edition Service Pack 3 を適用しなくても問題ありません。
 - インストール中に以下の画面が表示された場合は、以下の画面の [無視(I)] をクリックしてください。



16. 手順4から手順15と同様に実施し、「SSCCMDB」インスタンスもアップグレードします。
17. サービス一覧から以下のサービスを開始します。サービス名を選択し、[サービスの開始] をクリックします。

PVMService

System Monitor Performance Monitoring Service

「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて

付録 E 改版履歴

- ◆ 第 5 版 (2010.7): アップデートモジュール (SSC0201-0017) での機能強化に関する記載を追加して改版

- ◆ 第 4 版 (2010.3): Update 3 での機能強化に関する記載を追加して改版

ストレージ管理強化による記載追加、および修正

- 3章 「3.2.2 アップグレードインストールを行う際の注意」
「3.7.7 SystemProvisioningをアップグレードインストールした場合」

SQL Server 2005 SP3 対応のため記載を修正

- 3章 「3.7.9 SigmaSystemCenter 2.0からアップグレードした場合」

付録D Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3 適用手順

インストール時の ESM/PRO/SM と PVM の依存関係がなくなったことによる記載削除

- 2章 「2.3.1 インストールを実行するには」
- 3章 「3.6.2 インストール (アップグレード) を実行するには」
- 4章 「4.3.1 アンインストールを実行するには」

- ◆ 第 3 版 (2009.7): Update 2 での機能強化に関する記載を追加して改版

SIGMABLADE controller 連携機能サポート終了による記載・章削除

SigmaSystemCenter マニュアル体系

- 2章 「2.3.12 SIGMABLADE controllerをインストールする」
「2.4 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする」
- 3章 「3.6.13 SIGMABLADE controllerをアップグレードインストールする」
「3.7.8 SigmaSystemCenter 1.3以前のバージョンからアップグレードした場合」
- 4章 「4.3.12. SIGMABLADE controllerをアンインストールする」
「4.5.2 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールした場合」

SIGMABLADE controller 連携機能サポート終了による記載・章追加

- 3章 「3.2.8 SIGMABLADE controllerをサブシステム追加している場合」
「3.6.10 SystemProvisioningのアップグレードインストール」
「3.7.7 SystemProvisioningをアップグレードインストールした場合」
- 5章 「5.1.3 SIGMABLADE controllerが登録された状態でのアップグレード時のエラー」

.NET Framework 3.5 Service Pack 1 サポートによる章追加

- 2章 「2.5.1 .NET Framework 3.5 Service Pack 1をインストールした場合」
- 3章 「3.7.1 .NET Framework 3.5 Service Pack 1をインストールした場合」

Out-of-Band Management による電源制御による記載追加

付録A ネットワークとプロトコル

- ◆ 第 2 版 (2009.2): Update 1 での機能強化に関する記載を追加して改版
 - Windows ファイアウォールの例外登録エラーダイアログ非表示化による記載削除**
 - 2章 「2.3.9 SystemProvisioningのインストール」の注
 - 3章 「3.6.10 SystemProvisioningのアップグレードインストール」
 - 5章 「5.1.1 Windowsファイアウォールの例外登録に失敗する」
 - Server Core インストール対応による記載追加・削除**
 - 2章 「2.9 Windows Server 2008 Server Core管理対象マシンへインストールする」
- ◆ 第 1 版 (2008.10): 新規作成

